明治四十一年二月一日發行

明治三十八年十二月廿日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）

婦人世界



第三卷
第貳號
東京 實業之日本社

世の進歩に連れ化粧の必要なるは論をまたず就中妙齢の女子は顔料の選擇最も大切なるべし



本品は全國有名なる和洋小間物藥店に於て販賣せり

二八水は 皮膚に有効なる最新原料を配合し精製せし高等化粧水なり

二八水は 肌を白く「きめ」をよくし「殊に「にきび」「ひゞ」「あせも」肌のあれ等の豫防に最も効あり

二八水は 化粧下に用ひ白粉の「のり」をよくし恐るべき鉛毒を防ぐ

二八水は 香氣馥郁として貴嬢紳士に賞用せられ化粧料として稀有の好評を博したるは品質と効能による

花王石鹸本舗 東京馬喰町 **長瀬富郎**
電話長浪花三番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

美人とマツサージクリーム

米國の美人競爭と

ポンピアンスマツサージクリーム



世界唯一の美顔料なり」と賞讃し而して其の證して餘りある事なり米國アルバニー化粧雜誌は報じて曰く「トレビヨン新聞主催の美人競爭に於ける優勝者の多くはポンピアンスマツサージクリームの愛用者なり」と又以て如何に本品の特効あるを知るに足る可し

試驗法

究めて純良なる石鹸にて手を洗ひ後片方の手の甲へ圖に示す如くクリームを塗り暫時摩塗する時は皮膚中の不順物のクリームと共に垢の如くなりて出で來る可し夫れを終りし後他方の手と比較する時は見違ふ程美るはしくなり居るを知り得可し（クリームには少量の水を加へて使用するを適度とす）

ポンピアンスマツサージクリームは單に色を白くするのみならず其の効用は「ニキビ」「ソバカス」を始めとし皮膚に生ずる一切の疾病を根本より治し艶美ならしむるの特色あり

定價 大金參圓
ポンピアン會社
日本代理店
中 貳圓廿五錢 小 金一圓五十錢
東京銀座壹丁目一 **佐々木商店** 郵稅十二錢
振貯三二一〇番
電新四七貳番

婦人世界

第參卷第貳號目次

（明治四十一年二月一日發行）

口繪

梨本宮妃殿下最近御尊影（光澤寫眞版）……
書齋に於ける三輪田眞佐子女史（光澤寫眞版）……
初音（彩色石版）……谷洗馬筆
梅見る人……島守寒光筆
第四回懸賞習字一等當選……鈴木みち子
名家の令孃
最新流行の寫眞繪
新郎新婦
七人の令孫を有せる三枝氏の家庭……

記事

男女結婚論（第二）……村井弦齋（二）
▲個人主義の結婚は何の害あるか
▲四洋の夫婦は果して幸福なるか
▲家族主義は何の害あるか
▲今の結婚法は如何なるものぞ
▲諺附口は信ずるに足るか
私の見たる山脇房子女史……栗塚龍子（一八）
衆議院議員 栗塚省吾氏夫人
私の母棚橋絢子より受けたる家庭の教訓……横河下枝子（二三）
工學士横河民輔氏夫人
和洋雜貨商大阪 三枝氏の家庭……樂石生（二七）
婦人の愼しむべき言葉使ひ……西田敬止（三三）
東京女學館幹事
米國女學生の寄宿舍生活……川瀨富美子（三六）
ドクトル川瀨元九郎氏夫人
名歌評釋鶯の歌……渡邊白水（四二）
斯くの如き女學生は必ず成業す……白露生（四七）
私の日常生活……鳩山春子（五三）
初めて米國に渡りたる時の實驗談……跡見玉枝（五六）
弦齋夫人の料理談……一記者（六二）
牛肉を買ふには如何に注意すべきか
牛肉の手輕料理は如何にするか
牛肉の日本料理は如何にするか
牛肉の西洋料理は如何にするか
習字は何うすれば上手になるか……御歐所寄人坂正臣（七〇）
小兒の夜泣き……醫學博士加藤照麿（七八）
家庭の重寶
小思ひ出……三島霜川（八三）
食物を噛んで小兒に與ふるは何故惡しきか……ドクトル志村誠麿（九二）
出産の祝ひ物は何がよきか……（九四）
家庭笑話……（九六）
婦人頓智談……（九八）
怒るな働け主義の女學校……一記者（九九）
茶ばなし……嬌溢生（一〇〇）
名流婦人の兄妹調べ……（一〇一）
少女欄……（一〇三）
◎雛のはなし　◎時計物語
第四回懸賞習字當選披露……（一〇四）
第八回懸賞繪探し新題と當選披露……（一〇九）
短文……（一一一）
和歌……（一一三）
俳句……（一一六）
通信……（一一八）
名文選擇當選披露……（一一〇）
文字合せ當選披露……（一一三）
新年大懸賞珍附錄當選發見法……（一一三）
育兒問答……（一一三）
齒科問答……（一一六）
婦人衛生問答……（一一八）

梨本宮妃殿下の最近御尊影



梨本宮守正王妃伊都子殿下は、正二位勳一等鍋島直大侯の第二女に渡らせられ、御年二十七歳と承はる

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ


カメリヤ
洗粉

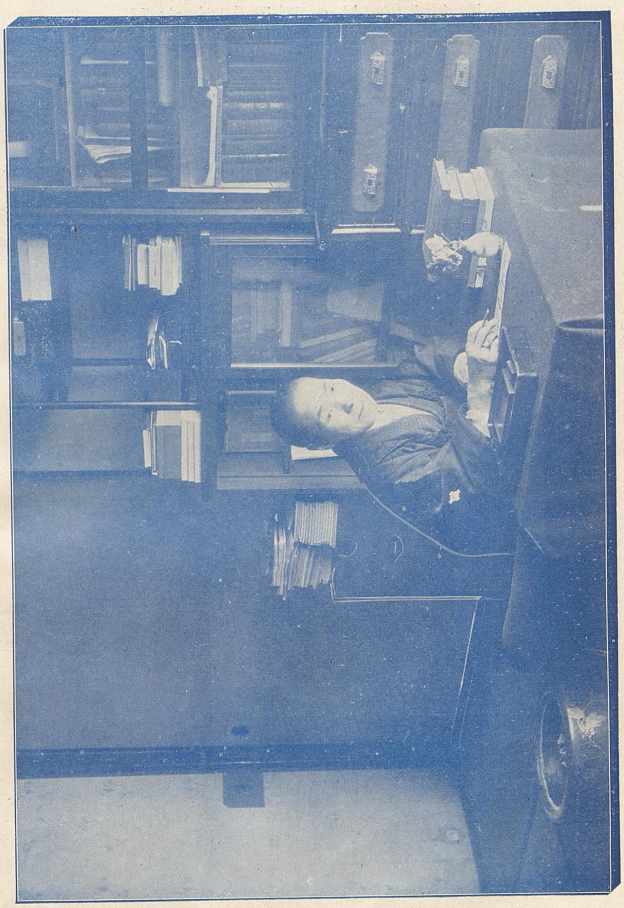
艶麗花の如く純潔雪の如き
美貌は本品の愛用によりて顯る

カメリヤ洗粉は最新の化粧法に基き學理的に配劑なせる高等美身術に適したる最良の化粧料なれば皮膚の營養を助け、きめを細かに光澤を增し肌膚を艶麗美白ならしむる特効を有し香氣の優秀なる永く身邊に薫りて自ら快感を起さしむ

殊に寒冷に遇ふて肌を荒害する憂なきは全く本品の純良なるが故なり

定價
大瓶壹個廿五錢
小瓶同十五錢
大袋同五錢
小袋同三錢
鑵入同十三錢

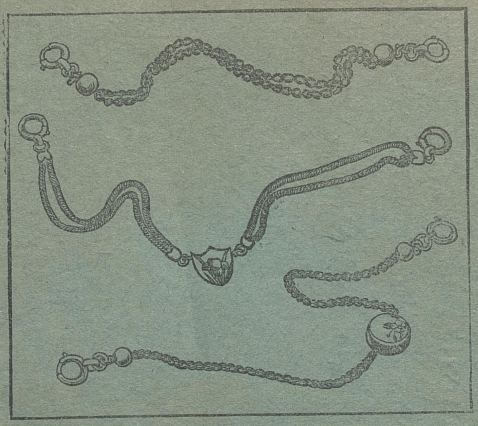
本舖
ライオン齒磨發賣元
東京神田
小林富次郎



書齋に於ける三輪田眞佐子女史

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

金製羽織紐



現今御婦人用裝身具として金製羽織紐は最近の一大流行に有之候本店は圖の如き形の最も新らしきを撰び緒〆模樣の彫刻等に意を凝らせし品數多取揃有之候間流行に遅れ給はぬ内御用命あらんことを

東京銀座尾張町

裝飾裝身具婦人頭飾品

商 白牡丹本店

電話新橋五百五十一番
振替口座四三九七番

定價

拾八金一本立形　一金六　圓ゟ八　圓
拾八金二本立形　一金九　圓ゟ拾參圓
拾八金製自在形　一金九　圓ゟ拾五圓
金製緒〆寶石入　一金拾五圓ゟ四拾圓

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

宮中の御化粧品と女官



日本宮中の女官の方々を始め東宮御所の女官皇孫御殿の女官の方々は日常御身を清めさせらるゝにクラブ洗粉を以て尤も適當なりと賞せらる昨年四月廿六日第一回の御用を三越呉服店へ賜はり其後八月十四日迄の御用數十回に及ぶ

外國婦人が信用せる化粧品



英國大使マクドナールト伯爵令夫人は日本のクラブ洗粉を以て外國製の石鹸よりも良品なりと賞し東京津村の手を經て日常盛んに愛用せられつゝあり

（實業之日本社買物代理部に於てクラブ洗粉を取次ぐ）

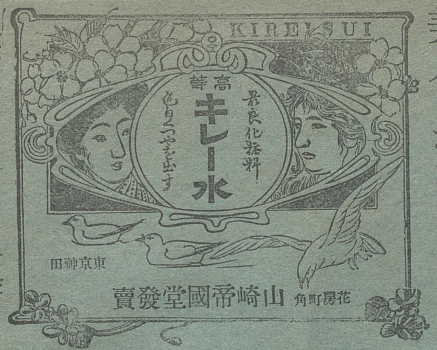
初音



谷洗馬筆

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

花の顏雪の肌眞正の美人となる



最優等の化粧料希望の御方は御最寄の小間物店にて左の如くおん尋ね遊ばさるべし
東京山崎帝國堂製高等キレー水とてブリキ製美麗鑵入なり

羽二重の如き皮膚となる

からすが驚となり、くろんぼも白哲人になるとは申さねど天資の容姿に一層の美艶を添へきめこかにしてをしろいやけをそばかず。にきび。たむし。なまず。皮膚病に特効ある化粧藥劑

正價 七錢 十二錢 廿錢 五十錢 壹圓 美麗かん入廿五錢

藥用キレー水

はたけ。ども。糸かせ。汗母。夏ぼし。諸吹出物に大効あり

本劑は化粧品として許可ならざる藥劑を原料と爲す故に其効又至大なり

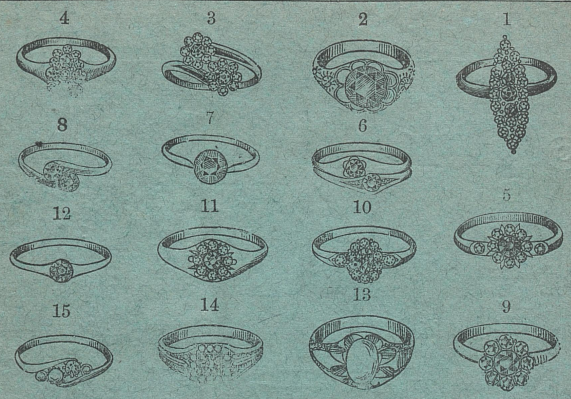
定價は 小瓶 金十五錢 中瓶 金三十錢 大瓶 金五十錢 特別大 金壹圓

送料は 金八錢

本舖 東京市神田區花房町二番地 山崎帝國堂
支舖 大坂市東區高麗橋二 山崎合名會社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

最新流行舶來指環



一號 銀臺金着新ダイヤ入又(テリルピー)　代金七圓五拾錢
二號 同ツヤケン新ダイヤ入(テリルピー)　代金九圓五拾錢
三號 銀臺金着新ダイヤ入中央の石(テリサフヤ テリオパル)　代金六圓五拾錢
四號 同新ダイヤ入(テリルピー)　代金八圓五拾錢
五號 同聞り新ダイヤ中央石(テリ眞珠、テリサフヤ、テリルピー)　代金四圓五拾錢
六號 同新ダイヤと(テリルピー)との女夫形(テリサフヤ)　代金三圓二十五錢
七號 同新ダイヤ入(テリルピー)　代金四圓二十五錢
八號 同新ダイヤと(テリルピー)との女夫形(テリサフヤ)　代金貳圓五拾錢
九號 同新ダイヤ入(テリサフヤ)　代金貳圓七十五錢
十號 同聞り新ダイヤ入中央の石(テリサフヤ テリルピー)　代金五圓五拾錢
十一號 同新ダイヤ入(テリルピー)　代金五圓五拾錢
十二號 同新ダイヤ入(テリオパル)　代金四圓貳拾五錢
十三號 同テリオパル入(テリサフヤ)　代金貳圓貳拾五錢
十四號 同聞り新ダイヤ中央の石(テリルピー テリサフヤ)　代金四圓五拾錢
十五號 (同テリ眞珠ノ女夫形(テリルピー テリサフヤ)と同テリ眞珠及テリ眞珠形)の女夫形　代金五圓五拾錢

〈地方御注文の節は振替貯金へ御拂込下され度候〉

東京市京橋區新橋南金六町壹番地
リボン造花裝寶元祖
貴婦人用小間物專賣
關口洋品店
電話新橋二九〇二番
振替口座八〇九三番

重寶なる家庭の安心燈

◎弦齋氏發明の富貴燈（婦人世界第二卷第八號批評掲載）

家庭の改良に熱心なる村井弦齋氏は、寢室用の燈火として、石油ランプが火災の危險多く、衛生上有害なことを憂ひ、常に外國製の浮蠟燭を使用せられましたが、それにも多少の不便があるので、種々苦心の末、此程富貴燈と名づくる、最も便利にして、經濟的の燈火を發明されまして、專賣特許を出願された處、僅か三週間にして第壹貳八壹五號の特許になりました。それを見ても如何に有益であるかと云ふ事が分ります。此の富貴燈は圖に示す如き極く上品な形の硝子器ですが、蓋と中壺と外壺との三つより成立つて居ます。



◎尙富貴燈の特色として、左の數點を擧げられました。

一、顚覆しても火事の出る憂がありません、

一、風が吹いても消える事がありません

一、掃除に手數がかゝりません

一、眼を害しません

一、安全ですから寢室、小兒室及老人室に最も適します、又旅舘や病院の寢室下女部屋下男部屋其他總て火元を用心すべき所に適します

一、清淨ですから神佛の燈火に最も適します

定價
- 大形 壹個 金七十五錢
- 大形用燈心 貳ヶ月分 金十錢
- 小形 壹個 金四十錢
- 小形用燈心 參ヶ月分 金十錢
- 送費 大形 一個函代共 金廿五錢
- 送費 小形 一個函代共 金貳十錢

代金引替
- 小形 一個燈心 三ヶ月分付 金八十錢
- 大形 一個燈心 二ヶ月分付 金壹圓貳拾五錢

但し清韓臺灣は右の送費へ貳拾錢增し燈心斗り入用の節は燈心壹函郵稅共十二錢

和歌ふじ本舖 富貴燈發賣元 東京市日本橋區松島町（水天宮横角） 喜八堂

◎時下燈火注意すべきの候、皆樣御一覽

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

新たらしき化粧法

美人とは自然的の化粧が行屆て居る顏を申しますので必ずしも愛らしいやさしい顏のみが美人と云ふのではありません本來ならば白粉を用ひないで天然の色を發揮出來れば夫れに越した方法はないのですが夫れは云ふ可くして到底行はれない事でありますがさて今迄の日本婦人の化粧法即ち練白粉や水白粉を自分の肌の色合の如何にかゝはらず無雜作に塗り立てゝ或る人はコツテリと人形の如く又ある人は處々に「ムラ」や「白粉ハゲ」の不體裁を作つてむしろ素顏の方が餘程見好ひ樣な化粧法ではとても滿足なる結果が得られない許りでなく斯の如く幼稚なる化粧法は實に文明國の恥辱であります然らばどふ云ふ風に化粧をしたなれば自然の化粧が出來るかと申しますと夫れは從來の練白粉や水白粉を全廢して其れに代る可きクリームと粉白粉を常用するので御座います然しクリームと申しましても在來日本にある所謂クリームの名の許に隱れたるクリームと稱する一種の粗製品や日本人の皮膚とは根本に於て異ふ處の西洋人の使用するクリームでは到底充分なる滿足を得る事が出來ません。

茲に於て化粧に關する專門大家を煩し幾多の研究を經て漸く學理上最も完全なるクリームとブードル「粉白粉」を製出致しまして名づけてクリームローヤル及ブードルローヤルと申します。

クリームローヤルは純粹の佛國式クリームの長短を取捨しまして之に獨得の新原料を加へ皮膚に非常の營養を與へ驚く可程キメを濃かにし「ヒヾ」や「アレ」を治する等多くの特色が有ります故に單に白粉下に用ゆるの外一般の化粧用として最も完全にして最も進歩した逸品と斷言致します尙本品は在來のクリームの如く多くの脂肪分を含みませぬ故「ベタ〳〵」する憂はありませんブードルローヤル「粉白粉」は今迄日本では全く例のない「粉白粉」でして之れに附屬するポット「ハケ」を以てクリームローヤルの塗りし顏面に打粉をなす時は自然の色合を高尙に保ち且つ優美此上なく即ち錦上更に花を添える思あらしむるのです論より證據一日も早く兩品を御使用の程を希望致します。

定價は兩品共一個五十錢づゝ郵送料は十二錢發賣元は東京銀座一丁目ローヤル水本舖佐々木商店でして販賣店は全國到る處の洋品小間物化粧品賣藥店に在ります

梅見る人



島守寒光筆

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

宮内省御買上品

各博覽會金銀賞牌受領

ダイヤモンド

齒磨

ダイヤモンド

齒牙ヲ保全シ美貌ト衛生トヲ重ンズルモノハ此ノ齒磨ヲ用ヒヨ

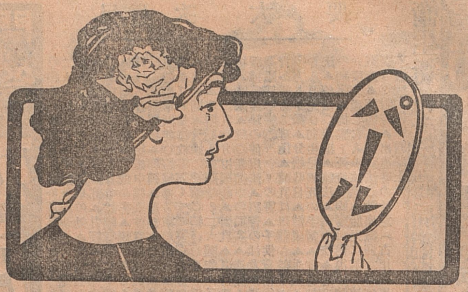
東京 平尾賛平

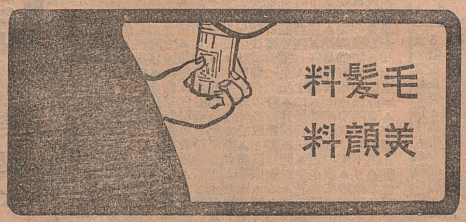
大阪

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

毛髪の發育を盛(んにし)烏(からす)の濡羽色(ぬれぱいろ)の如く黒く光澤を出さしむるには毛髪料パールに如くものなし

パールは最新の毛髪料として貴紳淑女間に最も歡迎せらる





米國の貴婦人は如何なる化粧料に依りて其美を發揮せる？

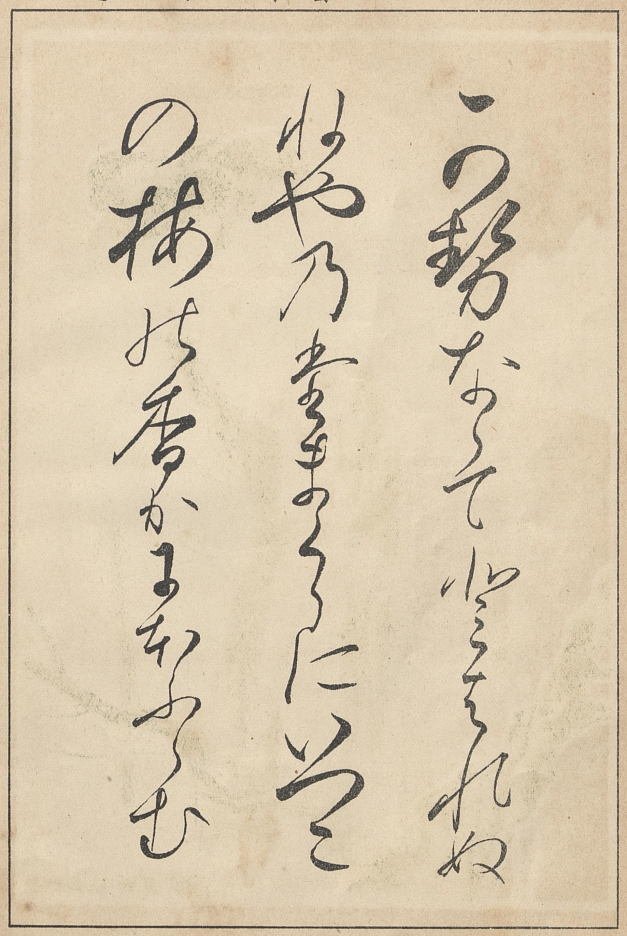
美顔料パールを使用するにあり

パールは最近化學應用の化粧料、本品を用ふれば花の如き美貌、雪の如き麗質は忽ち得らる！

白粉代用ノ化粧料
コールドクリーム発賣元
東京 平尾分店 濱町

毛髪料壹瓶四拾錢◉美顔料壹瓶參拾錢
白粉代用の化粧料ゴールドクリーム壹瓶參拾五錢
婦人世界愛讀者に限り特に壹割引

第四回懸賞習字一等當選



神田 鈴木みち子

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

出安井

出でゝ安きに井をなす

恭賀新年

○刺繍用器具
並に**材料**

○袋物器具
並に**材料**

○摘ミ細工材料
○壜細工材料

○造果用材料
並に**木型**

其他御婦人用美術技藝品一式

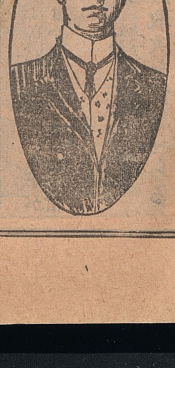
地方御注文の節は代金引換小包郵便にて御送申上候

切取線

此切取線を添へ御申越しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す（婦人世界）

東京市京橋區 **倉持商店**
本町二丁目 **市川左團次 丈**

洋行土産
佛國有効美顔化粧料



リオン

【定價壹個金拾五錢】

本品は洗粉石鹸に優る新發明化粧用輕便ねり洗粉なり。色を白くし艶を能くし肌を滑らかならしめ白粉のつきを能くす皮膚のフキデモノ。ニキビ等を去り常に用ゆれば小皺を生ぜず海水鑛泉に充分の奏効あり且つ携帯平便旅行、湯治、海水浴等の必要品なり洗顔料として使用後香氣馥郁たり優美高尚にして御進物用に最適す（使用法は石鹸と同じ）賣捌は東京京橋區新富町二丁目市川左團次丈宅を初め實業之日本社買物代理部及び全國各小間物店化粧店に於て販賣す



發賣元
東京市京橋區山城町拾番地 リオン商會
東京市日本橋區横山町三丁目 關東代理店 君が代 清水商店
大阪市東區ライオン本舗 關西代理店 はみがき 大阪 小林支店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

在大學院産科婦人科專攻
醫學士 **大瀬貴明先生監修**（最新刊）

實用問答 姙産婦篇

正價金五十錢〇郵稅六錢

美製本圖畫挿入

目次大要

（姙娠の成立）（姙娠の月數）（姙娠と年齢）（姙娠と生殖器）（姙娠と遺傳）（姙娠と體質）（姙娠と胎兒）（姙娠と胎位）（姙娠と胎兒の發育）（姙娠と胎兒の運動）（姙娠と胎兒の呼吸）（姙娠と胎兒の排泄）（姙娠と胎兒の榮養）（姙娠と胎兒の血液）（姙娠と胎兒の皮膚）（姙娠と胎兒の毛髮）（姙娠と胎兒の爪）（姙娠と胎兒の骨格）（姙娠と胎兒の筋肉）（姙娠と胎兒の神經）（姙娠と胎兒の感覺）（姙娠と胎兒の生殖器）（姙娠と胎兒の消化器）（姙娠と胎兒の呼吸器）（姙娠と胎兒の循環器）（姙娠と胎兒の泌尿器）（姙娠と胎兒の内分泌）（姙娠と胎兒の體溫）（姙娠と胎兒の榮養）（姙娠と胎兒の運動）（姙娠と胎兒の睡眠）（姙娠と胎兒の遺傳）（姙娠と胎兒の關係）（姙娠と胎兒の生殖）（姙娠と胎兒の死）（姙娠と胎兒の分娩）（姙娠と胎兒の産褥）（姙娠と胎兒の産後）（姙娠と胎兒の産期）（姙娠と胎兒の産兒）（姙娠と胎兒の産物）（姙娠と胎兒の産婦）（姙娠と胎兒の産婆）（姙娠と胎兒の産室）（姙娠と胎兒の産具）（姙娠と胎兒の産法）（姙娠と胎兒の産痛）（姙娠と胎兒の産道）（姙娠と胎兒の産門）（姙娠と胎兒の産力）（姙娠と胎兒の産氣）（姙娠と胎兒の産聲）（姙娠と胎兒の産湯）（姙娠と胎兒の産衣

名家の令嬢



海軍機關中將
宮原二郎氏令嬢　宮原菊枝子（學習院女學部卒業　二十二歳）

園藝試驗場長
恩田鐵彌氏令嬢　恩田寿子（靜岡高等女學校卒業　十九歳）

實業家三島
德藏氏令嬢　三島敏子（日本女子大學校卒業　二十二歳）

故橘口文
藏氏令嬢　橘口ゆき子（學習院女學部卒業　二十歳）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人の毛髪は如何にして黒く長く且つ光澤を出さしむべきか

御婦人方の髪の毛を如何にせば烏の濡羽色の様に黒く光澤あり且つ長く房々とすることが出來るでせうか。之にはどうしても毛髪の營養となるべきものを用ひなければなりません。そして毛髪の營養となるべきものは何であるかと申すと純粋の椿の油が何よりも一番よろしいのです。之れは村井弦齋先生が曾て本誌上に於て婦人日常生活法に詳しく書いてありますから諸姉が疾くに御承知の事と思ひます。處が此の椿油を直く其儘御使ひになつては匂が悪ひのとベタベタするので困ります。そこで弊堂は椿油の産地である小笠原島から極めて純粋な椿油を取寄せまして。其の油から毛髪に尤も營養となるべき主成分を採り。之に上等の香料と油のベタツキを去るべき藥劑とを配合精製致しビユテーオイルと名づけました。價は壹圓四十五錢（送料八錢）て少し値は高い様て御座いますが御婦人方の毛髪を黒く長く光澤ある様に致すのには此のビユテーオイルが我國て一番よいと云ふことは確く信じて居ります。



婦人世界愛讀諸姉に限り特に定價の五分引にて差上可申候

東京市日本橋區蠣殻町
水天宮前象印齒磨本舗
安藤井筒堂

實業之日本社買物代理部に於て本品の有効なるを認承せられ取次を快諾せらる

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

皮膚の營養上容貌の美のため特に推薦する良劑

衛生美顔『シモン、グリスリン、グリーム』

Crème Simon



「シモン、グリーム」は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのであり升

「シモン、グリーム」は一種の強壯劑と皮膚を柔かくする藥劑とを配合して製造したる衛生上無比の良品であり升

「シモン、グリーム」は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日お化粧の時に御使用になればいつも光澤ある容貌を保たれます

「シモン、グリーム」はヒヾアレ、日にヤケ、汗もの、ニキビ、唇のあれ、霜やけ、赤ら顔、又は毒虫に刺された時にお塗りになれば僅に少時間で其効能が分ります又髯剃の後や御子供衆に塗抹しますとすべ〳〵として大變氣持がよく又美しくもあります

本品は販路が益々擴張されるに從ひまして僞物が多く市場に出てて居りますから御求めの際は「シモン、グリーム」「粉おしろい」石鹸共特に登錄商標を御確めの上御購求を願ひ升

東京及大阪三越呉服店を始め各地洋品店化粧品店にて販賣致して居ります

登錄商標



横濱七十番

日本代理店エー、ハイム商會

一森式座椅子

特許第九〇一〇號



此座椅子は日本室内疊の上に座臥せらるゝ人々に衛生的慰安を與ふる爲めに案出したるものにて一箇にして座椅子となり寢臺となり使用すれば疊込みて携帶に便なり

材料は鐵骨にエナメルを塗り之に強靱なる厚布を張り更紗メリンス繻子羽二重縮緬等の蒲團を加へ後頭部の觸るゝ處には蒲團の下に螺旋狀の枕を裝置しあるにより心地誠によろしく老人姙婦各種病人に適し特に肺病患者又は其疑ひある人喘息患者等之に倚れば自然胸部を擴ひるにより大に病勢を減ずるの効あり

定價

一 エナメル塗 更紗蒲團附 金六圓五拾錢
一 エナメル塗 メリンス友禪又は舶來模樣附毛繻子蒲團附 特製金七圓
一 エナメル塗唐草 蒲繻羽二重又は縮緬蒲團附 特製金八圓
一 金貳拾圓以上

東京市芝區下高輪町廿一番地東禪寺電車停留場前
電話新橋三〇六五番

製造發賣元 樂民堂

特約店 東京 大阪 三越呉服店

特約店 西區土佐堀裏町六十八番地 電話（長四一八二三番） 常磐商會

横濱特約店 住吉町五丁目六十八番地 電話一〇七二番 杉野亥之助

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人の讀むべき新聞

報道迅速

二六新聞

趣味豐富

家庭で見るべき新聞


家庭のページ

●二六新聞は二月一日を以て空前の大發展を試み、東洋唯一の大新聞たる新面目を備へて讀者に見ゆると同時に特に家庭のページを設けて婦人及家庭に清新の讀物を供す

●二六新聞家庭のページは婦人社會の耳目を以て任ずるものなれば、婦人界の時事を報道し、家政と處世とに必要なる新智識を供給し、兼て家庭の趣味を發揮することに努む、故に家庭の新聞としては絶好のものなり

●二六新聞家庭のページは日々に新事物を讀者の眼前に齎すが故に月刊又は週刊の婦人雜誌よりも報道敏捷にして記事新鮮なり

家庭部と讀者

◉二六新聞の家庭部　讀者の便利を圖りて「婦人の顧問」「女子職業案内」「求婚案内」「買物案内」「學校案内」等を開設せり。

日本一の大福引　女小兒にも誰にも出來る繪搜と字搜〇一等金五百圓〇二等金二百圓〇三等金百圓以下

東京神田（大割引一ヶ月金廿五錢）二六新聞社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

ケーバ香油

Made Beautiful by Beautiful Hair. Try Keiba Oil.

本品は日本特有の椿の油を搾りたるまゝ佛國へ輸出し之れを以て日本人に適する樣精製せしめ加ふるに芳香馥郁たるロースの香料を以て種々研究したる結果再び輸入せし品なれば和洋香油數十種中最も進歩したる日本人向唯一の香油なり

本品の特色

縮毛を延ばし赤毛も漆の如き艶を出し皮膚を滑らかならしめ毛髪を延びよくす

●ケーバ香油を使用すれば「フケトリ」香水の必用なし



化粧品直輸入商　竹間商店

東京日本橋區橘町二

電、浪、一六一四

最新流行の寫眞織



寫眞織は近頃ヨーロッパに流行し始めた織物で、ちょッと見ると日本の刺繍に似てゐます。ただ刺繍とちがふところは、刺繍は手で縫ふものですが、寫眞織は機械で織るのです。御覽になつた處では、普通の寫眞と少しも違はないでせう。この三枚は何れもフランスのリヨンから見本として高島屋呉服店へ送つて來たものです。

此廣告を見て御申込の方は心ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

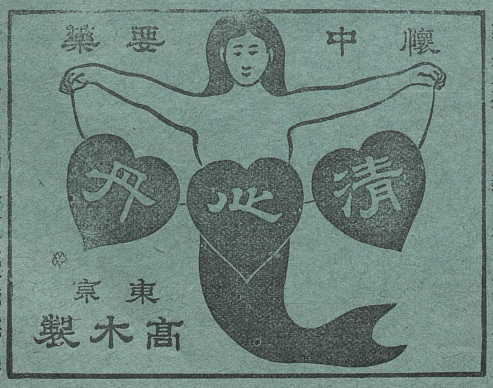


此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

月經時は如何に過すべきか

村井弦齋

月經時の衛生法は私が申上げずとも、醫師の訓戒をお守りになればそれに越した事はありません
たゞ一つ私どもの家族が用ゐて居ります「月の帶」と云ふ物がありますこれは舊東京慈惠病院の産婆で有名な山田逸子が歐羅巴へ行て西洋婦人の用ゐる月經帶を調査し日本婦人に適する樣に改良を施し新に拵へたるものでありますこの「月の帶」はゴムと伊太利テルで出來てピンで留めますので極く輕く、腰の工合も自由で大層都合が宜いさうです
右は村井弦齋先生が婦人世界に紹介されたる一節にして現に本品の効用は
月經時に使用すれば如何程強い月經も漏出する事なく又各種の生殖器病を豫防し往來、運動、起居等婦人の動作を快活ならしむるを以て貴婦人、令孃、敎員、事務員、女學生、看護婦、女藝人等には缺くべからざる品であります
赤白帶下の强き人、陰部に惡臭を發する人、子宮病を惱める人等には最も妙也
初めて月經になりし令孃に頗る適當す俗に冷え性と唱へる婦人常に用ゐ腰を溫め子宮病を豫防するの効があります
各地に取次店あり發賣元へ直接の御注文は特別製（冬季專門用）一圓二十九錢甲種は八十九錢乙種は五十七錢（何れも送料共）郵便爲替又は三錢切手代用一割增で注文あれば早速送りを發賣元は東京神田猿樂町二丁目の資生堂藥局です



定價
金壹圓（箱入）
金五拾錢（箱入）
金參拾錢（カンヅメ）
金拾五錢
金貳拾錢（紙包）
金拾錢（全）
金五錢（全）

近來同名類似ノ品數多有之候ニ付御愛求ノ節ハ人魚ノ商標ト高木與兵衛ノ名義ニ御注意ヲ乞フ



發賣御案内

造花用電燈

盛籠用、花輪用、花簪用、枝花用等各種
營業概目、造花半製品、造花用染料、造花用器具、
摘ミ細工材料、金銀モール、摸寶石、電氣用眞線

美術造花材料商
東京市日本橋區檜山町壹丁目十六番地
天野卯兵衛商店
特長電話濱花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

造花用カタログ及營業案内御入用ナレバ此切取相添ヘ御申越被下度候

切取線

縣 郡 町 村

婦人世界

米國製 東髮前髮じん



○ヘヤロールは今や歐米に尤も流行しつゝあり。從來の毛髮製品は彼の忌む可き病患者の遺髮等の混じある憂ひありて衞生上恐るべきは勿論常に頭部にかゆみを起し果ては禿げる心配等の事あれど此**ヘヤロール**は細微なる金線にて製し優美なる絲綢にて覆ひあれば毛を損じスベリ出す事なく且輕量なれば空氣の流通宜し故に「フケ」を生ぜず伸縮自在なれば大小の前髮になづみ殊に腦病又頭痛持ちの方には最も有益の新輸入品なり

特に大形（十二インチ十五インチ）御望みの方はハガキにて御照會を乞ふ

○ヘヤタイは束髮用の元結なり○本品は從來の元結の如く髮の根元を一々結ぶ要なく隨て髮を解く時にも一々切り取る手數もなし且一度使用する毎に不用にならず一本の**ヘヤタイ**は毎日用ふるも數十日間の使用に耐ゆる輕便にして德用のものなり束髮には必ず御試用を希ふ

▲定價半打十八錢一打卅五錢

四上品なる束髮を望まば必ず前髮じんとして一一年度は益々束髮の大流行を來たすし此可し

ヘヤロールを用ひらるゝ事を諸嬢方に勸告す

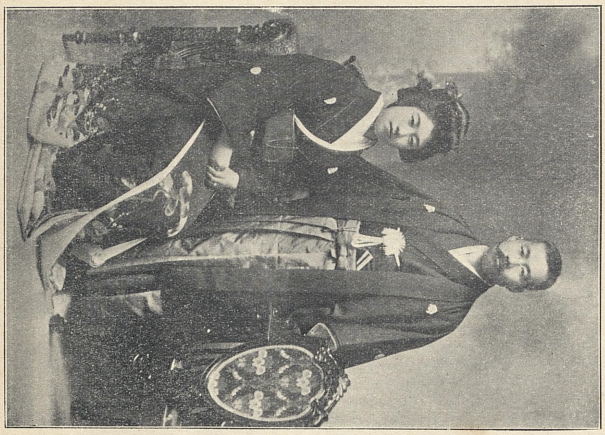
定價一個（普通十インチ）卅八錢送料八錢

輸入元店　日加商商店
東京ヶ橋區鎗屋町一
東京日本橋區檜物町四　御國おしろい本舗
大阪東區南久寶寺町　婦人小間物屋

特約販賣店　東京各地洋小間物化粧品店

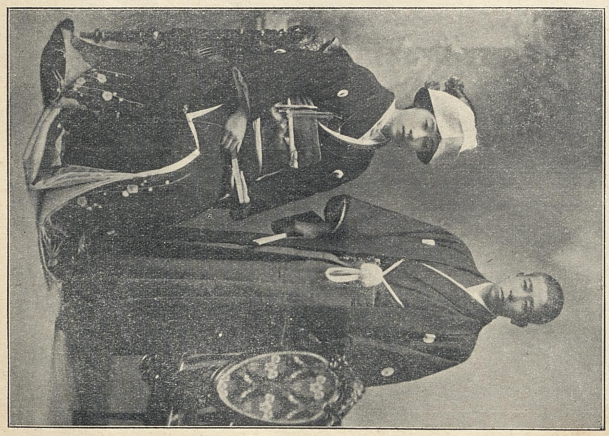
損害貯金　九六六八金

丸小見栗屋小商店　三郎



婦新

（歳廿三）子貞夫人 嫌氏之田中子令助倉半爵 氏吉謙寺小 者納多神祝額戸



郎新

（歳廿卒學女一業院子）子げし夫人 嫌氏久鈴令綱木 氏種繁川安 令成川敬息氏繁安

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

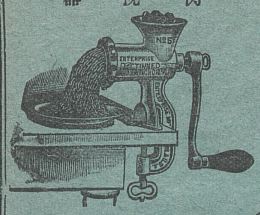
○商品目錄御入用の御方は此の切取線を添へ御申越被下度候（婦人世界）

縣區町村

切取線

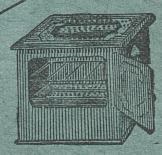
洋食器具
食卓用品
庖厨具

肉挽器



特許輕便料理ストーブ

富貴竈



頂上に火を要せざる完全輕便の改良テンピ

鐵瓶
湯沸類
アルミニユーム製器
琺瑯引諸器具

東京淺草茅町淺草橋際 阿部彦四郎商店 電話下谷一九二三 振替貯金二三六三

造花原料

ハ東京市九段坂

吉住商店ニ限ル

營業科目
造花器具
造花材料
造花及半製品
造花用籠類
造花裝飾用達
摘ミ細工材料

弊店ノ特色
品質ノ善良價格
低廉御客ニ親切
出荷迅速

營業目錄御入用ノ方ハ東京市九段坂吉住商店宛申込ルベシ

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

學校と家庭
教育画報

貳號二月一日發行

◉紀元節と唱歌◉ナイ、チンゲールの肖像（説明は修身科）◉兎と毛織物（實業教育）◉日本と北米との航路及貿易品（地理教育）◉紐むすび（手工家の教育）◉日用名詞（外國語の研究）◉神武帝御東征の圖（額面用二頁大）◉炭酸瓦斯の話（衛生）◉勳章と徽章（軍事教育）◉輕氣球の説明（理科）◉白虎隊の話（歴史科）◉椿の畫き方模様（圖畫）◉滑稽なる自轉車乘り（繰きボンチ）◉氷辷り（遊戯）

畫報は
▲家庭の繪物語として
▲小學兒童の好讀物として
▲有益として面白き書として
大好評

發兌 東京神田猿樂町二〇 振替口座八五七 建文館

學校と家庭
教育画報

日本女子商業學校生徒募集

校長　法學博士　和田垣謙三　學監　嘉悦　孝子

◎入學願書は三月三十一日までに差出さるべし

◎規則書は二錢郵劵封入の上本校若くは婦人世界編輯局高信まで申込まるれば直ちに送る

東京市麴町區土手三番町二十一番地
電話番町一千十五番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

本號には斬新警抜なる大附録あり

戀愛切實

婦人世界

記事清新

二月一日發行　毎月一回　八卷　第三號　郵稅共壹冊廿錢　分冊八十錢　郵稅二錢　一冊十六錢　二冊十三錢

空前絶無の珍趣向 大懸賞寶さがし

▼景品 第一等名三越呉服店切符百圓●第二等（二名）玉寶堂製女持金時計（價格五拾圓）●第三等（五名）玉寶堂金製指環（價格廿圓宛）●四等（十名）三越呉服一回●五等（百名）懐中化粧具及婦人用肩掛（價格各九圓宛）●六等（百名）店切符（價格十圓宛）●七等（二百名）●八等（三百名）●計六百卅八點價格壹千圓

▼目錄

●婦人娯樂論（三輪田元道）●私の實驗せる商賣上の呼吸（恩光生）●新聞の新聞（大月桂）●お姫様の平民生活（木村貞子）●思出多き我が生涯（小川直子）

◎妻たるの資格に就て（如何なる婦人が妻たるの資格ありや？未婚者讀む可く既婚者亦讀まざる可らず）

◎鳩山夫人の結婚論（翡翠女史）

●令嬢の社會觀（治子）●女子大學の寄宿舍（藤井靜子）●令嬢の人生觀（峰子）●雲に隱れたる市街（尾關數夫）●表情を基礎とする美容法

◎誘惑に對する處女の心理解剖（元祿姉さん）

●鶯と春の雪……翠子▶●春の面かげ……小舟▶●都門の雜響……齋藤吊花說◀●花と女……戸川殘花◀母乳（岡田八千代）●母子草（濱子鳥）●指環の話一（魚住）●世界漫遊のくさぐさ

◎流行の粧飾品◎綾錦織の製法（洋食道樂　小式部）

▼口繪　繪葉書、彩色石版、水彩畫、名家筆蹟、寫眞版等十四頁

東京本町　博文館　郵便振替貯金口座二四〇番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人技藝講義　第二回新學年會員大募集

毎月一回發行▲一ヶ年卒業▲會費月參拾七錢▲初號昨年十一月發行▲二ヶ月卒業▲會費一科目ニ付一ヶ月三十七錢宛

本科撰科　分科講義

本科講義は十七術科、八學科を各專門大家が最も平易且多くの着色石版、寫眞版及ひ木版を入れて誰れでも獨修し得る我邦唯一の技藝講義錄であります

見本四十錢にて送る

本科の各目を各別々に製本したるもの

袋物、造花、刺繍、編物（以上各一冊代正價郵稅共五拾錢宛）和洋裁縫、同料理、同禮法、同繪畫、押繪速記、園藝、茶の湯、挿花其他（以上各一冊郵稅共參拾錢宛）

營業部

前記諸種技藝の講習上に必要の器具、材料、製作上の見本及會員製本作品を實費にて販賣致しをります（詳細の規則并に營業案內は郵券六錢又は往復ハガキにて送ります）

東京市小石川區新諏訪町十四　振替口座一七〇二

帝國婦人技藝協會

嬌溢生著　紳珍美本價四拾錢郵稅六錢

獨笑珍話　大忽歡迎四版

◎本書は日本當代知名の士に依て演ぜられたる失敗滑稽等の珍談中より珍の珍なる者を集めたるものにて如何なる人も讀んで噴飯せざるはなく閻魔も猶破顏一笑する空前の珍書なり。◎文章輕妙洒脫にして讀んで肩が凝らず家庭の讀物病者閑人の讀物としては無二の珍友ならん

村井弦齋校閱　衣裳かゞみ　正價拾五錢郵稅一錢半

着物の撰擇法品質鑑定法保存法に至る迄詳說す

●子を持てる親　病人のある家人は必ず讀め

小便袋ね



衛生最良德用輕便ね小便袋は洗濯の世話なく手數を省き小便は袋の外へ洩れず蒲團を汚す事なく常に清潔なれば最も必要にして病人の體力を損ずる事なく常に清潔なれば最も必要にして、ね、をき、たち、すわり等は毫も差支なきは本品の特長なり（男女の區別あれば御注文の節御注意を乞ふ）

小兒用八拾錢（小包料拾錢）　壹圓八拾錢（大人用大阪順慶町壹丁目）

●特別製は各廿錢上り　●振替口座八一九八　常盤號雜貨部

東京京橋南紺屋町　實業之日本社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

大日本淑女學會

會員募集

講義錄は何時にても一號より送る

▲御自分のお宅に居つて高等女學校の課程を講習しやうとする方は、本會におはいりなさい

▲本會は文部省令に據り正則完全なる女學講義錄を發行します。講義の親切丁寧なことは云ふまでもありませぬ。新式の教授法によつて獨習に最も便利な方法をとります

▲卒業は二ヶ年で會費も低廉であります

▲會員には講義錄の外『姫百合』と云ふ美くしい躰裁の利益になる女學雜誌を毎號無料で進呈いたします

◉詳はしい規則書は申越次第差上げます

◉東京神田（電話本局）駿河臺（三千四番）

大日本淑女學會

本會の講義錄

▲大版三百頁優麗なる冊子
▲講義平易にして興味多し
▲各科講義の程度一定せり
▲各科皆聯絡し組織的なり
▲講師は專門女子教育家也
▲科外講師は博士學士廿家
▲毎號科外講話を附錄とす
▲純潔高雅の家庭小說あり
▲會員の質問は直に解答す
▲學期毎に修業證書を與ふ
▲講義錄は貳ヶ年完結とす

庭家の氏枝三るせ有を孫令の八七

後列左より　若夫人敎子（三十八歳）　若主人代三郎（四十二歳）　長男孝太郎（十八歳）



子道女次（歳三十）　子春女四（歳十）　子れか人夫（歳九十五）　子島女三（歳二十）　氏郎三興枝三（歳五十六）　子れつ女五（歳六）　子久女長（歳六十）　郎四朝男次（歳八）　りよ右列前

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

醬油發賣廣告

登録商標



マルニホン　フジニホン　ヒシニホン

醬油釀造界の一大革新

弊社は前人未發の新發明にかゝる嶄新にして完全なる鈴木式釀造方法及び機械的裝置により精良無比の醬油を釀造販賣す

（特色）

一衛生に適す
一經濟に宜し
一滋養に富む
一嗜好に叶ふ

●丸日本印特別製甘露醬油　は本社特得の複式再製にかゝる逸品なり香味の醇良にして滋養分の豐富なると他に比類なし

●富士日本印最上醬油　は品質濃厚にして風味の美なると在來の製品に優る數等也

●菱日本印最上醬油　は品質富士日本印と同一なるも淡泊にして極めて調理に適す

販賣所は　日本橋區北新堀町　合資會社日本醬油　電話浪花一四六番　東京販賣所

又は到處の滋醬油問屋及び販賣店にあり

資本金壹千萬圓

日本醬油釀造株式會社

東京市

深川小名木川通

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

衛生寶典

醫學士 小林第三先生校閲
醫學士 橋本定五郎先生序文
豊生堂院長 相馬廣吉先生著

序に曰く本書說く處生殖器の生理解剖作用疾病に亘り詳かに之が衛生を敎ゆ世上之に關する書不尠と雖未だ本書の如く價値ある者を見ず云々と。目次の二三を示すに如左▲男女生殖器の構造▲結婚の時機と利害▲結婚すべき女の用意▲男女何れが情慾盛なるか▲交接を行ふに適當の時機と度數▲男子が女子に輪姦せられたる實話▲避姙法▲月經の話▲催春藥の種々▲女子の過淫▲鷄姦▲獸姦▲男子の手淫▲女子の手淫▲此他數十章

四六版頗る美本
正價三十八錢
送料金八錢

東京日本橋區吉物町三十番地
發兌元 敬文館
振替貯金口座九六番

新式造花獨ナヒこ

日本造花研究會著

特女中が校閲せた丈けでも實に立派に造り得た色標本お分與全く初心者には造り上げた花と各材料の實物標本とを上げます

材料は少しがしてありますから費用極少し道具は不用三百餘の畫を以て平易に親切に說明し尙實物標本さへ分與するのですから如何なる初心者でもはつきり分り容易に熟達する

挿畫三百餘頁美本机上の飾となる

定價金五拾錢 郵稅金六錢
振替貯金口座番號 東京六五三番

最新刊 初版二月間にて賣盡し 三版

材料は求め易く造り易い新工夫の最初の道具一組三拾五錢で揃ふ定價表書中にあり實際親切な本

發行所 東京牛込區納戸町六番地 明治の家庭社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

日本料理法

赤堀吉松 赤堀峰吉 赤堀菊子共著

◎大版一冊◎價七拾錢◎郵稅八錢

（見よ！自宅獨習の最良書出づ!!）

◎本書は日本料理界の大家たる赤堀三先生が多年の實地經驗と絶大の苦心とを經て家庭向の庖丁を主として丁寧親切に記述したる斯界未曾有の一大名著なり。

◎本書說明の順序は赤堀先生自家の敎場に於ける多年の經驗に基き、口もて敎へ手もて之を導くが如く切り方、燒方、鹽梅等は悉く圖を添へて說明したれば何人にも分り易し。

◎されば本書を一讀する時は直に日本料理の初歩より其蘊奧に精通し得べく、殊にあらゆる手近の材料を用ゐ全く健全なる都會の眞味を山間僻地の人々に頒たんとするは本書の大特色也。

石塚月亭君編◎口繪弦齋夫人最近肖像（大好評三版出來）

弦齋夫人の料理談

◎大版全一冊美本◎正價六拾錢◎郵稅八錢

本書にはお正月のお雜煮料理から、十二月の大根料理に至るまで手輕な實用向の料理法が漏れなく載つて居ります。お料理は一々實驗に出て談話はやさしくて趣味あり、家庭必須良書。

梅田矯菓子君著 ◎正價五拾錢 ◎郵稅六錢

家庭菓子製法

◎家庭で菓子を作れば第一經濟で、第二樂みで、第三清潔で且つ美味である。

◎本書は、二百餘種類の菓子製法を丁寧に說明したもので、日本菓子のみならず西洋菓子もある、文章はやさしいから誰にも讀め製法は極く手輕てある、眞に家庭の重寶也。

山方香峰君著 ◎正價壹圓 ◎郵稅拾貳錢

日常生活 衣食住

◎本書は衣食住の三面に向つて最も懇切詳細なる說明を試みたる家庭の良書也。

◎例へば衣服の選擇法より其保存法、食物衛生より、家屋の選び方、建て方、築庭法等網羅せざるなし。

西谷龍顯君著 ◎正價五拾錢 ◎郵稅六錢

婦人の重寶

◎本書は著者が多大の苦心を以て、婦人として是非知らなければならぬ細大の心得を極めて懇切に說明したるもの也。

◎內容は家事、衣服、臺所、化粧、育兒、腎療の注意、ナプキンの折方等數百項目に細別せり、婦人は何人も必ず一本を備へよ。

東京南紺屋町（電話新橋八七四番）實業之日本社（振替貯金口座參貳六番）
全國各地書店賣捌

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

呈太子妃殿下の御高覽を得たり

婦人の日常生活法

村井弦齋先生著（大好評再版）

定價（上製壹圓貳拾錢 並製壹圓）郵稅（上製拾貳錢 並製八錢）

▲跡見花蹊女史曰く『既に一家の主婦たり母たる人や將に主婦たり、母たらんとする人には是非一本を座右に備ふるの必要あり』と。眞に婦人が知らねばならぬ實際的の事のみを網羅せり

▲鳩山春子女史曰く『この書を讀みて第一に感じたるは日常の生活に最も重きを置ける事。第二人の看過し易き眼前の小事を眞面目に研究せる事。第三その研究が全く常識と經驗に基き人々安んじて之れに據るを得べきと是れなり』と

東京高等工業學校教授 瀬谷準造君校閲
東京職工學校教授 本間鶴治君著

通信家庭理科

◎價七拾錢 ◎郵稅八錢

本書は日常普通に起り來る理科學上の問題を極めて平易に面白く說明せるもの、最も家庭の讀物に適す。

堀内新泉君著 ◎正價四拾錢 ◎郵稅六錢

娘に與へたる母の書簡

本書は世才と經驗とに富める賢母が愛孃の幸福を祈るの餘り隨時長大の信書を發して其處世上の要訣を敎へたるもの眞情流露。

醫學博士加藤照麿君校閲 西谷龍顯君著 ◎正價七拾錢 ◎郵稅六錢

最新育兒法

本書は出生後一年間の初生兒編及出生一年後の幼兒編に區別して起臥飮食病傷の手當心得二百數十件を詳細に說明せる家庭向の實用的名著也。

三輪田眞佐子序 鵜飼天淵君著 ◎正價五拾錢 ◎郵稅八錢

婦人消息文

本書は女子消息文に關聯せる數十の注意を記述し、次に幾多の名流才媛の手に成りし文例數百を網羅せる婦人必讀の名著也。

西谷龍顯君著 ◎正價廿錢 ◎郵稅四錢

太郎の質問に母の答

本書には「猫は何故夜ても眼が見へますか」の如き太郎の奇拔なる質問數十に對して母親が親切に說き聞かせたるものを收む。

東京京橋南紺屋町（電話新橋八七四番）實業之日本社（振替貯金口座參貳六番）賣捌全國各地書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

三輪田眞佐子序 阿部長咲君著

健全なる家庭

◎中版全一冊◎正價廿五錢◎郵稅四錢

◎三輪田先生本書に序して曰く『樂しき家庭を作るは偶然にあらず、樂しき所以のものを盡さゞるべからず、されば この所以を敎へたる文こそ最も婦人の渴望すべきものなれ。而して本書は眞に樂しき家庭を作るべき所以の道を盡せり、蓋しこの道に依らざる家庭は所謂健全ならざる家庭なれば婦人の爲め新に得たる一種の福音と言はんも可ならん』と言ひ

◎更に言葉を進めて『抑も此書は實際の生活を根本としてものしあれば空想に渡ることなく、而も冗長に涉らずして多方面なるのみならず、剩へ乾燥無味の嫌なくして趣味の掬すべきものあり。且亦文體も俗に偏せずしていと平易なり、されば既に敎育ある婦人も、さまで敎育なき婦人も等しく讀むべきものにこそ』と、以て本書の價値を知れ、眞に婦人必讀名著。

報知新聞記者 天野誠齋君著

家庭日常の實驗（近刊）

本書は天野誠齋先生が熱血を注いで我現代婦人の爲めに記述せるもの、悉く實際的にして萬人の參考となる名著也。

實業之日本社編纂

日本富豪の家風

大家の幸福と繁榮とは家風の健全なるにあり、本書は三井・住友・鴻池・本間・市島・澁澤・安田・七大家の來歷家庭、家憲等を詳叙したるもの、苟も家庭の健全と繁榮とを望む者は速に一讀せよ

米國女學記者ペエン氏著 實業之日本社譯

價五拾錢 郵稅六錢

女子處世訓

原書は米國の各學校が爭ふて敎科書と爲したるもの◎娘時代の心得と修養◎妻時代の心得と修養◎家庭に於ける心得と修養◎社交に於ける心得と修養等一々叮嚀親切婦女の寶典也

婦人世界臨時增刊

價卅五錢 郵稅六錢

化粧かがみ

本書は村井弦齋先生校閲の下に最新流行の化粧法各種を最も親切丁寧に記述したるもの、婦人は何人も一讀すべき婦人の生命を制すべき近來稀有の一大名篇なり。

價拾五錢 郵稅一錢五厘

東京京橋南紺屋町（電話新橋八七四番）實業之日本社（振替貯金口座參貳六番）賣捌全國各地書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

日本少年編輯局意匠（新版）

國定教科書準據諸教科統合

教育繪はがき

◎五枚一組
◎價拾五錢
◎郵稅二錢

◎繪はがき流行の盛なる今日の如きはなし、從つて之れが爲めに兒童の被る影響極めて大なり、然も教育的其案の如きに、この至大なる影響を利用せんとして作爲せられたる者なきは教育界の一大欠陷にあらずや。

◎「教育繪はがき」はこの大欠陷を補はんとして出でたるもの、趣味の教育に資するあらしむると同時に其材料を修身、國語、地理、歷史、圖畫の諸教科書より採り其の連絡せしむべきは連絡せしめ、其統合せしむべきは統合せしめ、以て教授せられたる觀念を的確に把捉せしむ、內容の如何は實物に就いて驗せられん事を望まざるも弊社は其趣味と利益とを兼備せる我國唯一の最良最善のものたるを斷言す。

英國フヰリス氏原著
日本蘆川忠雄君譯（千古の活文字）

雄健の氣象

（中版全一冊◎正價四拾錢◎郵稅六錢）

本書は英國近世の大教訓家フヰリス先生が如何にして雄健の氣象を養成すべきかを百方攻究し以て英國青年の奮起を促したる苦心の傑作を極めて流麗に譯述したるもの、眞に是れ清健且つ有益の大名著也。

金澤商業學校教頭中野觀象君　高間昭君共著

新案 商業書信活法

◎大阪全一冊◎正價五拾錢◎郵稅六錢

◎商業書信を達者に認むるは成功の要件にして立身出世の階梯也、實業界に入りて成功せんと欲する青年は其學生たると店員たるとを問はず、書信文の熟練を怠るべからず。

◎本書は金澤商業學校教頭中野觀象君高間昭君の二氏が最も力を用ゐて著述せるものにして、兩君多年實地教育の經驗に照し、商業書信文の作法を解說するに懇切叮嚀、然も平易に之を教へ示せり。

◎尙本書は斬新直に實地に活用せらるべき文例壹百餘及び類句六百餘を以てしたれば、應用眞に自在にして商家座右の寶典たるのみならず、苟も商業に志す者の必ず一本を備ふべき近來の一大名著也。

藤岡秀太郎君新著

商品と其荷造法

◎大阪全一冊◎正價五拾錢◎郵稅六錢

◎商人及び商人たらんと欲する者に商品荷造法の必要なるは云ふまでもなし、本書は斯法に多年の經驗を有せらるゝ藤岡君苦心の名著にして我國唯一最良の商品荷造法に關する快著也、內容は函詰、纏詰、籠詰、無裝、梱包、雜裝等の荷造法を始めあらゆる商品を網羅し一々項を別ちて細說詳述せり。

發行所　東京南紺屋町十二番地　實業之日本社
（郵便振替貯金口座參貳六番）
（賣捌全國書店）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

見よ!! 最近發行の三大名著

英國ゼローム、ケイ、ゼローム原著
日本渡多野鳥峰君譯述（最新刊）

表裏百面人生の眞相

◎本書は英國文壇驍將ゼローム氏の原著を翻譯したるもの、悉く是れ奇想天外の妙想、妙文、是れを詩と見れば即ち無韻の詩、是れを書と見れば無線の書、言に氣を吐き紙に光を發し讀む人爲めに一たび恍として我を失ふべく再讀三讀遂に終生懷を離し得ざるの一大傑作也。

◎特に例を實際に取り敎を活人に求めたるは實に本書の一大特長、其卷を開きて之を閉づるに至るまで遂に破顏の禁じ得ざるものあると共に毎頁『成る』程てふ感嘆發して抑ゆべからず、蓋し滑稽輕妙の文を以て人生の眞美を表裏縱橫に描寫せる本書の如きは天下絕無ならん。

蘆川忠雄君著（精神修養叢書第二編）

讀心術修養

◎中版全一冊◎正價卅五錢◎郵稅四錢

（內容の一斑）

▲▲如何にして容貌を讀破すべきか……▲▲長方形の顏面の人
▲▲卵形狀の顏面の人の性質は如何……▲▲圓顏の人の性質
▲▲筆蹟に現はれたる人の性格如何……▲▲貪欲家の筆蹟如何
▲▲鼻形狀に示されたる人の性質……▲▲虛言家の筆蹟如何
▲▲想像力に富める人の筆蹟如何……▲▲其他讀心數百項目

蘆川忠雄君著

見よ破天荒の名著!!

觀察力修養

價卅五錢
郵稅四錢

◎人生の萬事を支配し、吾人の品性を修練し、人物の眞價を發揮するは精神の修養に俟つや勿論なりと雖も、更に一歩を進めて、精神修養の根底如何を研究せば一に是れ觀察力の修養に俟たざるを得ず。

◎吾人の道を行くや目標として規矩なかるべからず、一定の意見を發表するや一定の主張と及之れを爲すの時期場合、相手とを見るの明なかるべからず。

◎人を見て法を說け、時を見て進退せよなどの語何れも觀察力の必要なるを道破せるもの、世上觀察力の明敏を缺ぎ爲めに往々失敗挫折せる者多きは吾人の常に目睹する處也。

◎著者茲に見る所あり其獨特の筆と富贍該博なる學識とを以て東西哲人の敎訓に參酌し以て觀察力修養法を縱橫懇切に詳述せる本書也。眞に是れ萬人の必讀の名著。

東京南紺屋町（電話新橋八七四番）
實業之日本社
（振替貯金口座參貳六番）
（賣捌全國各地書店）


婦人世界

第參卷第貳號

○　凡河内躬恒

春の夜のやみはあやなし梅の花いろこそ見えね香やはかくるる

○　荷田蒼生子

風ならで訪はれぬねやの手枕にいづこの梅の香かかよふらむ

○　惠慶法師

關守にくちがためてぞわれはゆくなきぬと告ぐな谷のうぐひす

○　よみ人しらず

春がすみあみにはりこめ花散らばうつろひぬべし鶯とめよ

○　民部卿爲家

鶯のこゑばかりしてときは山はななきえだにあはゆきぞふる

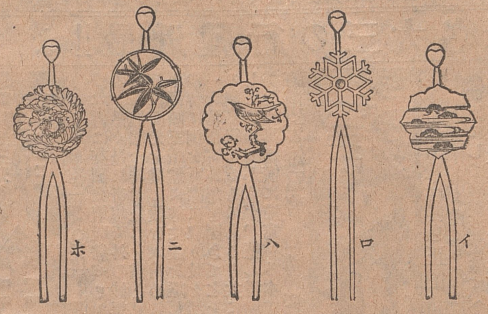
○　坂上郎女

さかづきに梅の花うけて思ふどちのみてののちは散りぬともよし

○　柿本人麿

おもしろき野をばなやきそふる草に新草まじりおひはおふるに

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



金製彫刻簪

（大西白牡丹戊申流行案内其の二）

丸髷と銀杏返し用のかんざしは珊瑚ヒスイの玉附を除きては先づ金製の彫刻又は寶玉入りに候べし爰に掲げ候はみな實物大にて何れも彫刻の妙技をこらし出來居り候得ば何卒御好評を願上候

島田ざしには此圖と違ひ大さ六分以上の丸さに相成り金製の精巧なる物種々有之候も銀製白上り彫刻にて七八分位の平打は誠に上品なる物に御座候

（イ）十八金鏡形赤銅墨畫象嵌松の圖　價金貳拾圓
（ロ）二十金むつの花すかし彫眞珠入　價金拾五圓
（ハ）二十金及青金彫刻梅に鶯の圖　價金貳拾參圓
（ニ）二十金すかし彫七寶入竹の圖　價金拾五圓
（ホ）二十金彫刻眞珠又はルビー入　價金貳拾四圓

○銀製彫刻島田ざし　金貳圓より五圓迄各種
○銀製彫刻丸髷ざし　金壹圓半より四圓迄各種

振替口座九二九三番
特電話本局三十番
電話本局三千番

東京市京橋南傳馬町
大西白牡丹
店主大西榮輔

男女結婚論（第二）

村井弦齋

個人主義の結婚は何の害あるか

西洋の諺に夫婦の樂みは却つて結婚前の數日間にありと云ふ事があります。是は鳥渡聞くと異樣に感じますけれども、西洋人の結婚は個人主義で、自ら擇んだ夫婦ですから、結婚前には互に希望と愉快に充たされて、人生の最大幸福を感じませう、然し愈よ結婚した後には却つて雙方の缺點が顯はれたり、或は雙方の我儘が募つたりして、結婚前に感じた程の愉快は無いと申す事です。

私は米國の醫學博士**ナツフエース**氏が夫婦の事を論ずるに際して『多くの男女は結婚後三四ヶ月の後、若しくは五六ヶ月の後、互の心中に結婚を悔いて、獨身時代の愉快を想像する時期がある、此の時期は婦人の**ヒステリー**を起したり、家庭の不和を生じたりする原因になるから、最も愼み且つ誡めなければならん』と云はれたのを見て、米國の樣な自由結婚の國に、何うして爾ういふ事があるかと不審に思ひましたが、だんだん調べて見ると、是は個人主義の夫婦に免れ難い事だと分りました。

全體個人主義は己れを主とするのですから、他に制裁の無い限りは人の心が我儘になり易いのです。

我儘と我儘とが結合すれば、雙方の意向が同じ方面に向ふ間だけ極く親密に見えますけれども、一朝我儘が衝突すると必ず不和を生じます。前に擧げた西洋の諺も、後に申した**ナツフエース**氏の言葉も、暗に我儘の衝突を意味して居るに違ひありません。

西洋の夫婦は果して幸福なるか

或人が西洋人の夫婦を評して彼等には愉快は多くあるけれども幸福は少ないと申しました。是は大に味ふべき言葉です。西洋人の夫婦が共に手を携へて何處へでも同行したり、共に遊戯し、共に歡樂し、常に嬉嬉として樂しさうに暮らす處を見ては、實に愉快なる生活と云はざるを得ません。



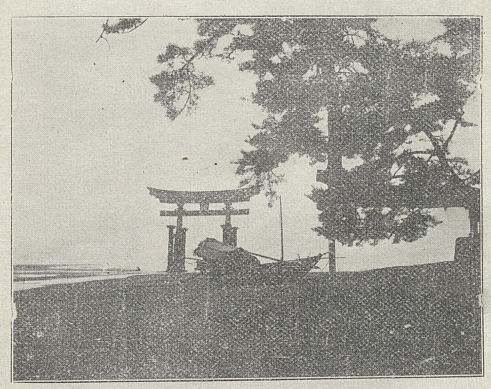
村井弦齋氏と人多嘉子

然しその内心を分析したら、我邦の良人が妻を信認する程の信認力がありませうか。西洋人が遠方へ旅行する時、入費の嵩むのを厭はずして我妻を同伴するのは獨り空閨を守らしめる事の甚だ不安心なるが爲だと申します。勿論二三の例外例はあ

ませうけれども、そんな意味から相追隨する人も寡くはありますまい。

斯の如き夫婦には愉快こそありませうけれども、果して幸福がありませうか。

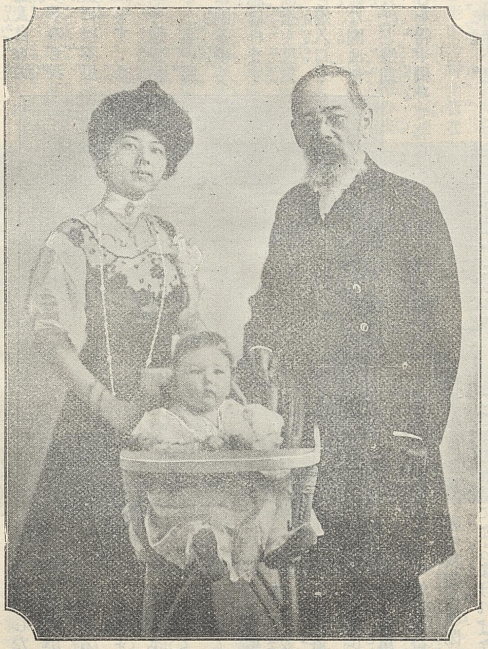
勿論西洋人の夫婦の中には互に相敬し相愛して眞の幸福を享ける者も澤山あります。雙方が我儘を制限して親密なる交情を續けて居る人も澤山あります。男子にして良人の模範となるべき人物も多く、婦人にして妻の龜鑑たる者も少くはありません、それは畢竟文明の敎育が進んで人道を重んずる人達が多いからです然しながら素より個人主義の國ですから他の方面



を見ると、我れ我れ日本人に想像の出來ないほど不思議な家庭もあります。西洋では妻の財産と良人の財産と區別してあつて、妻が良人に貸金をした時、良人が其の返濟を怠ると、妻が良人を法庭に訴へる事は敢て珍らしくありません。其時良人が法庭へ呼出されて妻と共に同じ馬車へ乘り互に談笑して出かけるの事もあると云ふのは不思議な公人情ではありませんか。

斯の如き夫婦に愉快こそありませうけれども果して幸福がありませうか。

それもまだ鬱くに足りませんが。折折は自分の良人を委托金消費の罪に陷れて平氣て居る妻もあります。良人が自分の財産を無斷に消費したと云ふので、良人を法庭に訴へると良人は刑罰を受けて一年とか二年とか監獄に行きます。刑期滿ちて良人が出獄するとまた以前の通り夫婦になつて濟まして居る人達がありますす。



子爵青木周藏氏　令孃　獨逸ハツツエルトル伯爵夫人（子爵の令孃）

子爵の夫人は獨逸人なるがその令孃も獨逸人に嫁したるなり

我れ我れ日本人から見ると殆んど其の心術が分りせんけれども西洋人は左程珍らしいとも思ひません。

斯んな夫婦に果して幸福がありませうか。

『女の求婚旅行と男のストライキ』

昨年十二月の國民新聞に米國インデアナ州で

は未婚婦人一千餘人が一大團體を組んで求婚旅行に紐育邊の大都市へ出かけたと云ふ事が書いてありました。是は婦人自ら嫁入の押賣に歩くので我れ我れ日本人には不思議に感ぜられます。米國は自由結婚や戀愛結婚が流行するから、婦人が嫁入口に困る事もあるまいと思はれますのに、事實は全く反對で、米國ほど嫁入口を捜すのに困難な國は無く、米國婦人ほど嫁期を失して止むを得ず獨身で暮らす者の多い處は無いと申します。

是は一方に財産が無くして嫁に行けないと云ふ原因もありますが、一方には婦人の我儘が增長して、女尊男卑の極端に達した爲、男子は迂濶に結婚する事を避けるの風があるからです。私が米國に居りました時分も、よく米國人から『迂つかり結婚するものではないよ、妻と云ふ重荷を背負はせられると男子は生涯浮ぶ事が出來ない』と云ふ訓言を聞かせられた事もありました。



友だち

又先年米國の**ボストン**府で良人の**ストライキ**と云ふ珍談の始まつた事があります。それは或る倶樂部で數十人の紳士が會合した時、一人の紳士が「僕は實に妻の我儘には閉口する、家に居るとまるで妻の奴隷にならなければならん、實に不愉快千萬だが、外にも僕と御同感の人があるかヲ」と言ひ出したら「僕も至極同感だ」「イヤ僕の方が君より甚だしいだらう」と坐中の紳士皆な口を揃へて同情を表した末、それならば倶樂部員全體の決議として當分のうち良人の**ストライキ**を起さう、今より後倶樂部員は一切自分の家へ歸らないで、倶樂部か或は**ホテル**に泊る事、妻君連が愈よ降參して倶樂部へ歎願に來たら權力制限の契約を結んで**ストライキ**を解除しやうと、遂にその決議を實行しました。すると案の如く妻君連は非常に心配して、幾度か會合したり相談したりしましたが、トウトウ我儘の我を折つて良人連中に降參したと云ふ有名な話です。



合奏

いかに女尊男卑が好いと云つても、嫁入口が無くなつて求婚旅行に出かけたり、良人にストライキを起させる樣になつては決して婦人の幸福と言はれますまい。

『驕婦良人を走らしむ』

我邦の碩儒重野安繹翁が昨年歐羅巴を旅行せられた時、英國倫敦で觀られた演劇は或る紳士が妻君の我儘に閉口して遂に遠國へ逃出さうとする

趣向であつたさうです。英國でも斯ういふ趣向を演劇に仕組んで暗に婦人の我儘を諷する程ですから、西洋の諸國が近頃女尊男卑の弊害に苦しんで居るのは爭はれない事實でせう。

婦人の身として我儘の增長するのは決して幸福な譯でありませんが、個人主義の結婚は兎角婦人を我儘にするの弊があります。

我邦でも近頃流行の戀愛結婚が必ず妻の我儘を增長させて遂に不幸の運命を招くと同じ事です。

勿論西洋風の女尊男卑は種種な原因から起つたもので、中世の封建時代に當時の武士と云ふ階級の男子が婦人を尊重したのも一原因になつて居ますし、米國の樣に移住民より成立つた國は、最初の內婦人の缺乏した爲め出來得る限り婦人を愛護したのも一原因になつて居ます。然し最も重なる原因は個人主義の結婚で、我を主とすると云ふ自尊心や利己心が自然と人を我儘に導くのです。



清國福州婦人の風俗

西洋の將來は大に此の利己心を矯正して、日本風の獻身主義を加味しなければなりますまい。

現に有識者の中には其事を勉めて居る人もある樣です。

＊　＊　＊　＊　＊

家族主義は何の害あるか

西洋の個人主義が婦人を我儘にしたと反對に我邦の家族主義は男子を我儘にしました。

家族主義は獻身的の敎へです。人の子となつては親に對して獻身的の孝行を盡さなければなりん。人の妻となつては良人に對して獻身的の貞節を守らなければならんと云ふのです。

此の獻身主義は西洋の利己主義と反對で、我邦の世界に冠絕する美風に相違ありません。君のために獻身的の忠義を盡すのも、國の爲めに獻身的の働きをするのも、皆な此の美風より生じたものです。然しながら物には多少の弊害が生ずるもので、一方が獻身的の行ひをするほど獻身される方が人によつては我儘になり易い事もあります。



かるた取り

子が親に孝行するほど親の方でも子を愛するは普通の塲合ですけれども、物の分らない親は何事も我子より獻身的の孝行を受けるものの子に對して無上權を持つものだと誤認する事が無いとは限りません、實際然ういふ事から我子に對して壓制結婚を强ゆるものが今でも折折あります、娘の厭がるのを無理に押付けて好かない男子に嫁入させると云ふ事も世間に無いではありません。

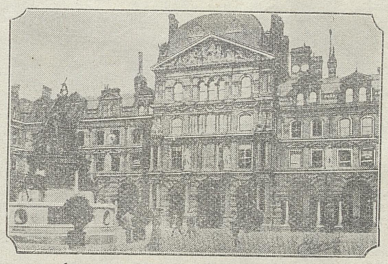
それと同樣に人の良人たる

ものは妻より献身的の貞節を盡されるほど、其妻を敬愛しなければなりませんが、多數の男子中には妻の從順なのを好い事にして、妾を蓄へ妓に戯れ、勝手氣儘な不品行をするものが無いではありません。イヤ實際を調べたら隨分澤山ありませう。今の我邦は西洋と反對で全く男尊女卑の有樣です。

西洋で婦人の我儘を制限するの必要ありとすれば、我邦では男子の我儘を制限するの必要がありませう。

『今の世にも壓制結婚あり』

子が親に從ふのは我邦の美風ですけれども、壓制結婚にまで從ふと云ふ意味ではありません。妻が良人に從ふのも我邦の特色ですけれども、良人の不品行を默視せよとの道理はありません



世界一の綿花取引所（英國リバプウル）

昔の大名や舊家なぞは人と人とを結婚させるので無くして、家と家とを緣組させたのです。譬へば藤原家に年頃の若君があり、橘家に年頃の姫君があると云へば、その若君や姫君の人物如何を問ふに及ばず、御兩家御緣組になれば末代までの御繁昌と、忽ち緣談が纏まつたのです。御本人同志は婚禮の當日まで互に顏も知らないのですから、是れほど壓制な結婚法はありません。

今ではマサカ是れほど壓制な結婚も行はれますまいけれども、田舍の舊家なぞへ行くと折折それに似た事もある樣です。自分の家は村中の名家である。先方の家は代代の舊家であるから、丁度似合はしい緣組だと思ふと、娘や息子の心も聞かないで結婚の相談を極めて了ふ事があります。もしも本人が不承知を言ふと、

親の眼鏡で極めたものを自分勝手に嫌ふとは怪しからんなぞと、娘を叱り付けて無理往生に押付ける樣な事もあります。

假令それほど迄で無くとも親達が大概相談を極めて置いて、殆んど十中の九分九厘まで話しが纏まつた時、始めて當人同志を見合ひさせる事は今の世に寡くありません。斯ういふ塲合に本人たるものは餘り心に進まないと思つても、周圍の事情に制せられてイヤと云ふ事が出來ません、御兩親さへ御承知ならばと口にこそ言ふけれども、內心は餘り好ましく無い處へ澁澁ながらお嫁に行く樣な人が澤山ありまず、是等も一種の壓制結婚と申すべきものでせう。兎も角も我邦に壓制結婚の行はれるのは家族制度

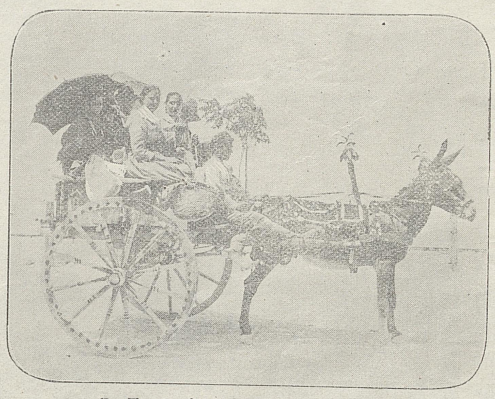


地中海シシリイ島の婦人

の一弊害と云はざるを得ません。

『妻は家庭の奴隷となる事あり』

よしや結婚が壓制でなくても我邦の有樣は、人が家に嫁するのですから、何うかすると婦人は妻と云ふ資格を失つて家の奴隷か、舅姑の小間使ぐらゐになる事が出來ます。肝心な良人と苦樂を共にする事は夢にも望むべからずして、朝から晩まで舅姑や小姑の用事許り足して居なければならず、良人の方では丁度宜い留守番が出來た位に思つて、獨身時代よりも結婚してから却つて外を泊り歩くと云ふ樣な事も無いではありません。



地中海シシリイ島の風俗

尤も我邦の婦人はお嫁に行くと良人の兩親を我が親の如く思つて、獻身的の孝行を盡さなければならず、それを盡すのが婦人の一美德に相違ありませんけれども、

それは一方に妻たるの務めを盡した上の事です。

妻たるの務めを捨てて舅姑に仕へると云ふのは奉公人と同一になれと云ふ樣なものです。

世の舅姑たるものも嫁から大切にされるほどその嫁を愛撫するのが普通の場合ですけれども、

往往嫁の素直なのに附込んで、我儘氣儘を言ふ樣な人が無いとも限りません。

之も家族制度の一弊害でせう。

西洋婦人が良人を委托金消費の罪に陷れるのは我れ我れ日本人には不思議に見えますけれども、西洋人から見たら我邦の家庭で嫁を離緣するのに、舅姑の氣に入らないからとか、家風に合はないからとか云ふ口實を用ゆるのはさぞ不思議に感じませう、西洋の男子が妻を家に殘して長く旅行するのは不安心だと云ひますけれども、日本婦人が良人を獨りで長く旅行させるのも隨分不安心に違ひありません。



新髷

要するに西洋と我邦とは人情風俗が根本的に違ひますから、西洋人に笑はれると云つて、ナニも急に我が國風を變ずるには及びませんけれども、何人が見ても家族制度の弊害と思ふ事は成るべく善い方角に改めて行き度いものです。

つまり我邦では今少し個人を重んじて、娘の意志も結婚の一要素としなければならず、妻の地位も奴隷的境遇より高めなければなりますまい。

然らば我邦の結婚法は如何にすれば宜いでせうか。

今の結婚法は如何なるものぞ

我邦の結婚法を論ずるには先づ現在に於て如何なる結婚法が行はれるかと云ふ事を調べなければなりません。

現在我邦に行はれる結婚法は千差萬別で、一方に昔風の壓制結婚があると同時に、一方に西洋風の戀愛結婚もある有樣ですが、現今最も普通に行はれる結婚法の順序を申したら下の如くでせう。

先づ或る家に年頃の娘があるとすると、その兩親は親戚知友に嫁入口の事を賴んで置きます。親戚知友は先から先へと賴み傳へて婿の候補者を搜します



金髪蜂腰

丁度幸ひ似合はしき候補者があると親戚知人から兩親の許へ申込みます。

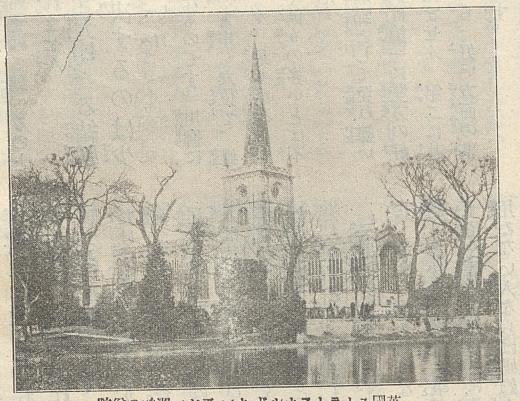
其時雙方の仲に立つ人は一時の橋渡しとなつて媒妁役を外の名聲ある夫婦に讓る事もありますし、場合によつては其儘自ら媒妁人になる事もあります。孰れにしても仲に立つた人が雙方の間を周旋するので嫁の方も婿の方も其人の盡力に最も多く依賴します、緣男緣女の性行經歷から現在の有樣未來の豫想まで、その仲介者の說明を有力なる根據と致します。

さりながら仲介者の說明許りではまだ深く安心が出來ませんから、色色に傳手を求めて他の方面より雙方の身元を調べる事もあります、その調べた結果が仲介者の說明と符合すれば、そして相談が成立つて本人同志の見合と云ふ事になります。

見合は多く一回だけで、本人同志が承知すれば善は急げなどと直ぐ結納を取りかはせる、結納が濟むと吉日良辰を擇んで結婚式を擧げるのです。

是が今日に行はれる普通の順序ですけれども、果して完全なる結婚法と申すべきものでせうか。

媒酌口は信ずるに足るか



英國ストラトフオルド、オン、アポン湖畔の僧院

此の順序に依ると結婚の成立に最も重きをなすものは雙方の間に立つ仲介者です。雙方共に仲介者の言葉を信用して大體の諾否を極めます。

仲介者が果して誠實の人であつて、親切に雙方の幸福を希圖して呉れる場合には先づその弊害も少いでせう。然し世間普通の人物は假令ひ誠實の心が他人に劣らずとも、人に賴まれて世話する事は自分の頭にかかる事ほど熱心に且つ周密に行かないものです。試みに考へて御覽なさい、人に賴んで買物をして貰ふのと、自分が商店へ出かけて買物をするのとは、同じ直段を出しても必ずその品物が違ひます、何うしても人賴

みては自分の氣に入る樣な品物が買へません。

買物でさへ其通りですから自分が嫁を貰はうと思つて調べるのと、他人のために賴まれて調べるのとは何人も幾分の精粗ある事を免れません。

生涯の運命を定むべき大切なる結婚を仲介者の口舌によつて決するのは少し輕卒に過ぎはしますまいか。

昔から仲酌口は嘘が多いとしたものです。川柳にも「媒酌人は嘘八百を並べ立て」と申した位で、媒酌人の嘘は通り相場になつて居ます。最も神聖にして最も誠實なるべき媒妁人に嘘や僞りの多いとは不思議な現象と云はざるを得ません。

よく考へて見ると是も人情の弱點として免れ難い場合があります。媒妁人に立つ人は第一に雙方の好い方面許りを見て、悪い方面を見ません。第二に其緣談を成立させ度いと云ふ熱心から、好い方面の事實を敷衍して吹聽する癖があります。

＊　＊　＊　＊　＊

『媒妁口は美點のみを擧げる』

媒妁人の口から『あの娘さんは色が白くつて、眼つきが好くつて、それはそれは愛嬌があります』と斯う言つた場合には、色の白いのと眼つきの好いのだけは事實に違ひありませんけれども、その裡面に鼻つきや口元の餘り香ばしく無いと云ふ事が隱れて居ませう、何となれば鼻つきも口元も好ければ媒妁人は決してそれを言ひ殘しません、それこそ、鼻筋が通つて眼つきが好くつて口元が締つて顏の道具立がよく揃つて居ますとか、何處と云つて申分の無い美人ですとか、吹聽するに違ひありません。

又男子の方を吹聽するにも種種の美點を擧げる中に、酒は一滴も飮まないさうですとか、酒も煙草も用ひませんとか云ふ事が出なかつたらば、其人は必ず酒や煙草を用ゆるに違ひありません。酒も煙草も用ゐない人ならば媒妁人は第一番にそれを言立てるのが普通の場合です。現に私の知人の娘が婿の候補者を定めんとする時、大層美點の多い男子を見出して既に結納まで取りかはせる場合になりましたが、その男子の大酒家なる事を後に聞いて、急に破談となりました。

世間の媒妁人が皆な斯の如しと申す譯ではありませんけれども、神聖なる人の少ない世中ですから、媒妁口には斯ういふ事が多いものと思はなければなりません。

『媒妁口には敷衍說が多い』

よしや親切の心を以て緣談の世話をする人でも、其の談話に多少の敷衍がある事は珍らしくありません。

譬へば「某は何學校を卒業して今は何會社に從事して居ます」と云ふ事實を話すべき場合に、それだけでは物足りないと思つて「某は學校に居た時も大層な勉强家で、今は何會社に出て居ますが、敏腕家と云はれて社長にも愛されますから追追出世するに違ひありません」と好い方面に敷衍する場合が多い樣です。寧んぞ知らん其の男は學校でも不勉强家であり、會社でも役に立たないと思はれて、何かの機會には解雇せられんとして居る人物かも知れません。

或る病院の看護婦長をして居る婦人は最初人の世話で或る會社員の處へ嫁に行きました。段段其人と同棲して見ると、何うしても少し愚鈍に近い人物で他日子供でも出來た時、妻子眷屬を養ふ程の働きが無いと氣が附いたから、他日の用意に看護婦の仕事を覺えたさうです。案の如くその先見適中して、良人は會社を罷められ、子供は澤山出來ると云ふ場合になり、その婦人の働きで漸く良人や子供を養ふ事が出來たと云ふ事です。是等は全く媒妁人の敷衍說を信じたためでせうが、世間にはまだそんな例が無いとも限りますまい。

親切な媒妁人さへ隨分物を隱したり敷衍說を述べたりする位ですから、利慾の爲に媒妁人をする樣な

人は何程まで嘘や僞を並べ立てるせうか。

弦齋曰く、結婚は人世の大事ですから、我が一家言となすべきものでありません。飽くまでも婦人社會の一大問題として讀者諸君と共に愼重周密に研究し、あらゆる方面より觀察して、出來得るだけ完全なる方法を講じなければなりません。就ては讀者諸君中、本文に論じたる如き、媒妁口に誤まられて不幸なる運命に陷つたとか、或は壓制結婚の爲に悲慘なる境遇に沈んだとか、都て本文の證例となる如き御經驗あらば、我が婦人社會の將來を益する爲に、何卒其經歷實話を委しく御報道願ひ度い。或は御自身の事で無くとも御令嬢の經歷を親御の筆で記されてもよし、姉妹親戚の事を述べられても構ひません。極く眞面目に、極く精密に、又極く親切に御記述あらん事を望みます。

私の方ではそれを議論の好材料とも致しませうし、其中て世人の訓誡となすべき事は本誌に載せて讀者諸君の覽に供する事もありませう。本誌に掲載したるものへは御禮として拙著『婦人の日常生活法』一部を進呈致します。

私の見たる山脇房子女史

衆議院議員栗塚省吾氏夫人　栗塚龍子



どんな美しい景色ても、眼に馴れては、さほどの感興を與へませぬやうに、餘り長く御交際して居る方には麗はしい點が澤山ございましても、あの方には、それくらゐのことは當前だと思つて、別段深く心に感じないものてございます。ところが世間にはまた、妙に人を引き着け人を動かし、深く交際をすればするほど、その麗はしい點や美しい性質が、ますます明らかになつて、忘れやうと思つても忘られぬ方があります。私の知つてゐる範圍に於て、かういふ人を求めましたら、山脇さんは先づその一人てございませう。

◎熱心と誠實の人

山脇さんは、高等女子實修學校の校長として、教育界に重きをなして居られることは、人の知つて居る所でございますが、山脇さんが教育に力を盡しなされたのは、昨今のことではございません。二十五年頃から、外國人などと一緒に、種種なる艱難と戰ひつつ、教育、傳道に從事して居られました。女子實修學校が今日のやうに盛大になりましたのは、一つは時勢の然らしむる所でございませうが、また一つは、山脇さんが大なる熱心と誠實とを持つて働かれたからてあらうと思ひます。

山脇さんは、かくの如く教育界に重きをなして居るばかりてなく、公共事業、慈善事業にも多大の力を注ぎ、社交界にも光彩を添へて居られます。外に現はれた山脇さんは、かく光輝燦爛たるものてありますと同時に、內にある山脇さんは、また實に麗はしいもので、その家庭の秩序立てる、規律の整然たる、他の模範とすべきものがあります。私が山脇さんに魅せられたのも、つまりは、山脇さんが、このやうに完全なる模範的婦人であるからてございます。

◎溫良人の怒を解く

山脇さんは、一言て云へば性質の麗はしく優しく、しかも才智のある方てす。性質ばかり麗はしくとも、才智が缺けて居つたり、才智ばかりあつても性質が良くなかつたりしては、とても圓滿なる交際家とは申されません。しかるに山脇さんは、この二つの美點を兼ね備へて居られるのでございます。それてすから、久しい間交際社會に出て居られますが、未だ曾て一度も人と爭うたことはございませんし、

衝突したこともございません。人と爭うたことや衝突したことがないばかりでなく、多少不滿の念を抱いて居つた方でも、一度山脇さんに接すると、その麗はしい心に動かされて、不滿、不平の念も綺麗に掻き去られてしまひます。

また山脇さんは、何事をしますにも、決して獨斷てすることなく、必ず人と相談してなさいますから、山脇さんのなすつたことに對しては、誰も不服を唱へるものがありません。實に、山脇さんの如きは天成の交際家と云つても宜いのでございませう。

◎親切よく生徒を心服せしむ

山脇さんはまた飽くまでも親切な方で、學校て生徒を叱るにも、決して大勢の前で叱るといふことなく、必ず蔭に呼んで、しみじみとその不心得を說いて諭します。女の生徒は、男の生徒と違つて、大勢の前で叱られたりすると、ただ一途に恥しがつて、却つて良からぬ結果を來すものでございますから、蔭へ呼んで叱るのは當を得たものであります。さうするとまた叱られた方でも、その深い思ひ遣りに感じて、一層その不心得を悔いる念が起りませう。また女の生徒は、人に叱られると一種のひがみを起して、妙に反抗したがるものでございますが、山脇さんは眞心からその不心得を諭しますから、如何なる人でも、その一言一句が身に沁みて、再び過失を演じないやうになるさうです。

◎口の人に非ず手の人なり

山脇さんが家庭のことに關して心を碎いて居られることは一通りではございません。常に秩序整然たる家庭、和氣靄靄たる家庭を理想として、多大の力を家庭のために盡して居られますから、山脇さんの家庭は、實に能く治まつて、他の模範とするに足ります。

一體山脇さんは、口よりも手を尊び、理論より實際を重んじて居る方でございますから、家庭に於て女中や召使ひの人に對するにも、常に實際を先きにして居るばかりてなく、學校に於ても、常に實用といふことを敎へて居ります。この間も山脇さんにお眼にかかりました時、

『貴女は學校で何を敎へてゐるてすか。』

と伺ひましたら、山脇さんは

『貴女がたの毎日行つて居らつしやることを敎へます。』

と仰しやいました。毎日行つて居ることを敎へるといふのは、一見平凡のやうでございますが、今の女學生には最も必要なことてあらうと思ひます。山脇さんは、かくの如く常に實際を重んじて、實世間の要求して居ることを敎へて居られますから、實修學校を卒業なすつた方は、家庭に入つても、また實社會に出ても、必ず役に立つ婦人となることができやうと思ひます。殊に、あの學校も近頃は大分お盛んのやうてございますから、何より結構なことと存じてをります。

私の母棚橋絢子より受けたる家庭の敎訓

工學士橫河民輔氏夫人　橫河下枝子



橫河夫人は、女子敎育界の元勳、東京高等女學校長棚橋絢子女史の御息女であります。棚橋女史が敎育に從事すること四十餘年、その間如何に辛苦を嘗め艱難と戰ひたるかは、我が『婦人世界』讀者の夙に知らるる所であらうと思ひます。橫河夫人は、實に棚橋女史の奮鬪中に、その敎育を受けて成人された方でありまず。記者は一日、夫人を高輪の邸に訪うて、有益なる談話を聞きましたから、左に掲げることにい

たしました。（素水生）

私の母は、至つて嚴格な人でございますが、殊に私どもの幼少の頃は、母が父を助けて、種種な難と戰つて居る時でございましたから、敎育の仕方も頗る嚴重でございました。それに母は、細かいことに氣の附く人でございまして、私どもがとかく等閑にし易いことをやかましく注意してくれましたので、私も、今ではそれが習慣になつて、小さいことだからと云つて、ぞんざいにせぬやうになりました。それですから、只今私が家庭で行つてをることは、總て母から敎はつたことであるといつてもよいくらゐでございます。

『腹案を拵へてから書き始む』

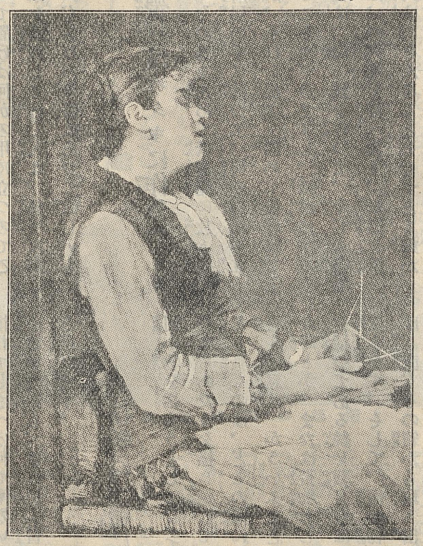
私の小さい時には、一月に幾度と淸書日を極めて淸書を致しましたが、母は、その淸書日に、白紙を一枚宛れるだけで、如何なることがあつても二枚と宛れませんから、書損ひをすることが出來ません。最初は、無慈悲なことだくらゐに思つて居りましたが、今になつて見ると、それがために私は大なる利益を得て居ります。卷紙を手にして手紙を書きます時でも、筆を下すまでには、充分腹案を拵へて、それから始めて筆を附けますから、書損ひをして途中で卷紙を裂くやうなことはございません。

卷紙に二行書いては裂き、三行書いては裂き、一二尺も裂き捨ててからも、なほ『一筆しめしあげまゐらせ候』を繰り返して居るのは、實に紙と時間の不經濟でございますから、なるべく小さい時から書損ひをせぬ習慣を附けるのが宜からうと思ひます。

『鍋は兩方の耳を持つ』

鍋の耳の片一方が取れて居たり、グラグラになつて居たりするのはよくあることでございますが、甚だ見苦しいものでございます。あれは兩方に耳が附いて居るのに、少しの勞を厭うて、片一方の耳ばかりつまむから、自然グラグラになつて、しまひには除れてしまふのでございます。片一方の耳を持ち上げると、器物を損するばかりでなく、どうしても力が一方に集まりますから、鍋が熱かつたりすると、とかく火傷し易いものでございます。

私は小さい時から母に注意されて居りますので、少し熱いと思ふものは、決してヂカに持つことはございません。必ずハンケチを捲いて持つか、火箸で取り上げますか、決して片一方の耳をとつて持ち上げることはございません。それですから、これまで殆んど火傷をしたこともございませんし、鍋の耳を缺いたこともございません。



着物を解いた時には絲屑の繋ぎ目のあるもの、短いもの、長いもの、または黑いもの、白いもの、赤いものなどを一一別にして揃へて置きます。さうしますと、あとで選り分ける必要もなく、また短いものは短かいもののやうに、長いものは長いもののやうに何かの用に立てることが出來ます。

女中などが着物をときますと、長い絲屑も短かい絲屑も一緒にしてあとで選り分けます。なかに甚だし

い人になると、一緒に丸めたまま針箱の隅に押込んでしまひます。一尺の絲でも、絲となつて私どもの手に入るまでには、多大の勞力を費されて居りますし、またこれを貯へて置けば何かの用に立つのでございますから、一家を處理して行く人は、絲屑だからとて漫りに捨てぬぐらゐの覺悟はあつて欲しいものです。

『新聞の帶封はハタキに作る』

新聞の帶封なども、そのまま丸めて紙屑籠に放り込めば、それなり紙屑屋の手に渡つて、何の用にも立たずにしまひますが、それを根よく溜めて置けば、扱いてハタキにすることもできますし、紙撚にすることもできます。私は、母の躾を守つて、今でも帶封を溜めて置いては、ハタキを拵へたり、紙撚を拵へたり致します。夫は、そんなことをせずとも好からうと云つて止めますし、女中も、奥樣がそんなことなさらずとも、私どもがしますと云つて止めて呉れますけれども、私の性分で、どうしてもそれをしなければ氣が濟みません。凡てかういふことは、慣れないうちこそ大儀でもあり臆刦でもありますが、慣れてしまへば何でもないことでございますから、小さい時から、さういふ習慣を附けるのが宜からうと思ひます。

『括絲は一緒にして貯へ置く』

何か物を括らうとして、さて絲のないのに氣が附き、そこらあたりを搔き廻して、先達ここにあつたがなどと騷ぐのは、どこの家にもよくあることでございます。私は、かういふことのないやうに、買物をした時とか、または貰物をした時とかには、必ずそれを括つてある絲を繫ぎ合はして、一つの箱に入れて置きます。そして、何か物を結へやうとする時には、直ぐその箱から取り出しますので、決して絲が見えないなどと云つて騷ぐことはございません。

＊　＊　＊　＊　＊

『俵と繩は別に始末する』

炭俵や米俵の空になつたのを、そのまま物置に放り込みますと、物置が一杯になつて足踏も出來ないやうになりますし、偶ま入つて行くと、俵の間から食み出して居る繩が、足にからまつて轉び仆れるやうなことがございます。それですから、繩は繩で丸め、俵は二つに折つてキチンと併べて置きます。さうしますと、狹い物置にも澤山のものが入りますし、見ても見塲が宜うございます。私はこのやうにして溜めて置いた繩や俵を、田舍の人が來た時に呉れてやりますと、喜んで貰つて行きます。

『何事も一つ先を考へてせよ』

雜巾をかける時、手もとに何かありましても、それを取除けずに、及腰になつて手を伸して拭きますと、とかく物を壞すことがよくあります。私はいつでも女中たちに、

『何事をなすにも、一つ先きを考へてせよ。』

と云つて聞かせますが、どうも其効果が顯はれません。先きを考へても

『大丈夫だらう。』とか

『間違なからう。』

とか、都合の宜いやうにばかり考へて、大膽に振舞ひますから、依然として過失を演じます。私の先きを考へるといふのは、さう大膽に考へることではなく、さうしては壞れるかも知れない。壞れては取返しが附かないからと引込み思案に考へることでございます。



獨逸の舞踏講習會

『一度振返つて見る事が肝要』

髪を結ひ終つてから、一通り鏡に映して見るやうに、何事も自分のしたことは、一度振返つて見ることが必要でございます。

障子を閉めてもあとが二三寸開いて居たり、椽側を拭いても隅に塵が殘つて居たりするのは、間間あることでございますから、障子を閉めた時や、椽側を拭いた時は、一應あとを振返つて見なければなりません。あとを振返つて見ると云へば、大層大袈裟に聞えますけれども、實際は、極めて些細の注意をすればよいのですから、女中などにも、かういふ習慣をつけるやうに努めて居ります。

『子供に着物を着せる時の注意』

何事をするにも、親切な心を以て少し注意さへすれば、その結果は雲泥の差を來します。ただその結果が、明かにそれと眼に見えないことが多いから、注意をしてするのも、ぞんざいにするのも、さほど違はないやうに思はれますが、實際に於ては大なる差を來して居ります。

例へて見れば子供に着物を着せる時でも、ただ着物に手を通さして、帶を締めてやつても、子供は默つて着て居ります。しかし、繻絆などはとかく襟が上に出るものでございますから、チヨイと裾を引いてやると、子供ながら着心がよいと見えまして、口にこそ何とも云はないが、翌くる日からはその人に着せて貰ひたがります。そしてその人に懷きます。少しの注意をするとしないとは、このやうに無心の子供にも影響しますが、その他、如何なることにも、それくらゐの結果はあるだらうと思ひます。

『古着は洗濯してから人に與へる』

私の着物は、洗濯をするにも、裁縫をするにも、決して人手を藉りません。何から何まで、必ず自分で致しますが、ただ私の着物ばかりでなく、古くなつたものを人に與へますにも、自分でつぎをあてて、張つて、仕立ててやります。凡て私は、人に物を與へるのは宜いが、捨てるのは大嫌ひでございます。人に物を與へるにしても、例へば古い着物ならば綻びのあるのをそのまま與へるのは嫌ひで、必ずその綻びを繕ひ、洗濯をしてから與へます。

こんな始末で、自から自分の用を多くして居りますので、隨分用は多くございますが、また人のお附合ひて外に出ることも多うございます。しかし、家に居る時は、始終このやうに働いて居りますので、外へ出れば一層の樂しみがございます。

和洋雜貨の大商人三枝氏の家庭

樂石生

▲羨むべき子福長者

三枝家の老主人は、與三郎といふ方で、この方の奮鬪經歷は、一昨年五月十五日發行の『實業之日本』第九卷第十一號に出てをります通り、元甲州の一農家に生れて、單身東京に出で、或は人の用人となり、或は英國公使館のボーイとなり、幾多の困難に遭ひ辛苦を嘗めて、遂に今日の如く朝鮮やハワイに支店をも有するといふ、屈指の大商人となられたのです。奥さんは、かね子と申し、西洋食料品の商人として有名なる、龜屋鶴五郎氏の次女で、與三郎さんがボーイをして貯蓄した四十兩の資本で、小やかな店を始めた時に結婚なされたものです。お二人の仲には、政子と申す一人のお子が出來たばかりですから、明治二十三年、則ち政子さんが二十歳の時に、中野町の淺田甚三郎さんの三男、則ち今の淺田銀行の淺田甚右衛門氏の令弟で、二十四歳になる代三郎と申す方を婿養子に貰ひ受けました。ところが、この若御夫婦は老御夫婦とは違つて、非常な子福の方で、十三人の子女を儲けられましたが、不幸にして夭折せられた方が六人ありますので、今は十八歳を頭に七人の子女に減じました。現在の一家は、則ち六十五歳の老主人與三郎氏、五十九歳の同夫人かね

子、四十二歳の若主人代三郎氏、三十八歳の同夫人政子、若御夫婦の長男幸太郎（十八歳）長女久子（十六歳）次女道子（十三歳）三女島子（十二歳）四女春子（十歳）次男朝四郎（八歳）五女つね子（六歳）の十一人て、外に番頭や小僧が十六人、女中が九人、都合三十六人といふ大家内であります。かくの如き大家内でありながら、ツイ叱る聲も泣く聲もせず、各その分を守つて、喜んで己が職務を奉じてゐるのを見ると、何處にか良いところ、定つたところが無くてはなりません。ここが皆樣にお話しをする價値あるところと信ずるのであります。

▲模範とすべき子供の躾方

三枝家の特色の第一として數ふべきは、お子さん方の躾方であります。それは、すべてお子さん方の待遇を同一にするといふことであります。

食べる物でも、着る物でも、學校でも、學校に入れる時でも、他の遊藝技藝を習はせるにも、すべて同じにするといふことです。世間には、自分は學校が遲かつたからかうだの、姉さんは幾歳から何のお稽古をしたのに、私は幾歳からだから不仕合せだのと、成人してから親や兄弟姉妹を怨むやうな人がありますが、三枝家の若夫人は、世間の噂を聞くにつけ、自分の子供だけには、そんな不平を抱く者のないやうにと、それはそれは隨分細かいところまで注意してをられます。たとへば、姉に幾歳の年の何月から琴の稽古をさせたならば、妹にもまた同じ歳の同じ月の同じ日から、同じ師匠に就いて稽古をさせるといふやうにします。着物でも、姉に十五の歳に振袖を拵へてやれば、妹にも十五になつたら同じ品の振袖を拵へてやり、その他、帶でも、羽織でも、袴でも、靴でも、下駄でも、リボンでも、帽子でも、風呂敷でも、傘でも、すべて同じ物を與へるやうにしてをられます。それですから、今日は赤いリボンが揃つて行くかと見れば、明日は薄紅色が揃つて行くといふ有樣で、他から見ても實に立派であります。

かう致しますので、自然お互に自分の物を大切にして、一人だけが早く物を損じたり汚したりしないやうな良い習慣が附くさうです。しかし、長幼の序は極めて嚴格に之を守らせ、食事の時でも、外出の時でも、すべて年長者が先きをなして、それから次第に順序正しくそれに從はせるさうで、外出の時など、若し妹が先きに行くやうなことがありますれば、政子夫人は、必ずそれを引返させるさうであります。言葉などにも注意して、召使ひに對しても、呼び捨



こぼるるあみ

ての言葉を使はせず、又仕事の邪魔になるやうな用事を言付けさせぬやうにしてあります。

學校から歸ると、好きなお菓子などを分量を定めて與へ、それが濟むとそれぞれ學科のお浚ひをさせ、不審の點がある場合には母君か番頭達に問訊させます。それが濟むと上の三嬢をば琴のお稽古にやり、幼い者には玩具を與へて遊ばせるといふやうに、毎日の事をチヤンと定め、自分の事は自分

てさせるといふ習慣を附けることにつとめて居られます。また日曜日とか大祭祝日とかには、上野なり淺草なり、その他お子さん方の望みに任せて、老夫婦の君が連立つて必ず散歩に出掛け、心置きなく一日を樂ませることに定めてあるさうです。平生は秩父か木綿の着物に限つてありますが、この日は特別に少し上等の着物を着せるさうですから、お子さん方は、日曜の來るのを一番樂みにしてゐるさうです。これは、ほんのザッとしたお話でありますから、自然兄弟姉妹の仲も睦まじく、曾て不平を抱いたり、喧嘩をしたりすることはないさうです。

▲親切なる召使ひの待遇

三枝家の特色として、第二に數ふべきは召使ひの待遇であります。同家には、前にも述べた通り、二十五人の召使ひがありますが、この多數の者が、曾て諍ひ事や喧嘩がましい振舞ひをしたことなく、打揃つて誠實にその職務に盡してゐるのは、他から見ても羨ましいほどであります。これには何か原因がなくてはなりませんが、つまり召使ひの待遇がよいからであると存じます。同家の召使ひの給金は、他に比べると餘程よくなつてをりますし、食物なども注意して與へますので、此等に不平を起すやうなことはありません。それに、人數は大勢でも、それぞれ頭があつて、その頭がすべての仕事の差圖をすることになつてゐます。それですから、仕事がキチンと定まつてゐるのみか、若御夫婦が總括りをして、萬事公平の取扱ひを致しますので、勢ひ一心に主家のために働く外はないやうになつてをります。

それから、月月佛事を行ふ序でに僧侶に頼んで、簡易な道徳上の話を聽かせますので、無教育の者でも、世間並に人の道の何物たるを覺え、行儀作法なども、一通り見習ふやうになり、又その勤めた年數に應じて、それぞれ身の振方もつけてやるといふ風ですから、最初雇入れる時には、別に人選みをするにやるといふことですし、博覽會とか共進會とか、何か珍らしい催しなどがありますと、家の人人よりは先きに見物させるさうですが、此等が召使ひ達の最も歡ぶところで、同家の待遇の最も際立つて他と違ふところと存じます。

凡そ此等の待遇振りが、奉公人をして忠實に働かせる原因でありませうが、人を使はば身を使へて、若夫人などは、一寸の間も手を休ませずに働き、朝も女中よりは先きに起きて、業務に就くといふ風で、同家の内情を知つてゐる人人は、何れも同家の家庭に感心せぬものはないさうです。

一家三十六人の大勢が、少しも他を憎むこともなく、猜むこともなく、和氣靄靄としてゐるのは、實に吾人の羨望に堪へぬところであります。

（をはり）



高島屋呉服店製の刺繍

のではありませんが、一度同家に奉公する者は、自然に人物も上等になり、年數も長くなるといふ有樣です、中にも石黒春晴といふ人などは、最初自分獨りであつたのが、その後妻のきよを始め、長女も次女も三女も兄も連れて來て、六人の家族が共に同家に奉公してゐるといふやうな次第で、一人奉公すれば、その兄弟姉妹をも呼寄せるやうになるといふのは、珍らしい事であります。それゆゑ同家の召使ひは、何れも長く勤めるやうで、石川まつといふのは既に二十六年になり、高橋梅吉といふのは三十一年の長い間勤續し、その他少くも十年や五年勤めぬ者はないさうです。

普通の家では、盆と正月との數入の外は、休み日を與へませんが、同家ではこの外に毎年二三度づつ、鎌倉とか葉山とかに、旅費を與へて代り合つて保養

婦人の愼しむべき言葉使ひ

東京女學館幹事　西田敬止

私どもの學校にも、稀には、お嬢さんに似合はぬ下等の言葉を使ふ人がないでもありませんが、まるツきり文法に合はぬ言葉使ひをするものはないやうです。けれども、一般にいふと、男學生でも、女學生でも、近頃は、もののいひやうがぞんざいになつて來ました。イヤ、しかしぞんざいなぐらゐはまだいいのです。ぞんざいといふのは、言葉の使ひ途は知つてゐるが、いひ方が粗末であるといふに過ぎないけれども、まるで言葉の使ひ途を知らないものが多いのだから驚くてはありませんか。

『分るものが聽くと可笑しい』

日本の社會は、上流、中流、下流の三階級に別れてゐるので、從つて、言葉にも、上等、中等、下等の三階級があります。それですから上流の人は上等の言葉を用ゐ、中流の人は中等の言葉を用ゐ、下流の人は下等の言葉を用ゐなければなりません。また上の句に上等の言葉を用ゐたら、下の句に上等の言葉で結ばなければならず、上の句を下等の言葉で始めたら、下の句も下等の言葉で終らなければならないのです。近頃の婦人の言葉使ひをみるに、上の句は上等な言葉を用ゐながら、下の句は下等の言葉を用ゐたり、上の句は下等の言葉を用ゐながら、下の句は上等の言葉を用ゐるものが多いやうです。分らずに聽いてゐれば何のことはないが、分るものが聽くと實に可笑しいことがあります。

『百姓言葉と學校言葉』

自分自身のことを卑下していふ言葉と、人のことを尊んでいふ言葉とを取り違へて使ふ人があります。つまり謙遜の言葉と敬語とを反對に使ふので、例へば、人に對しては、

『貴女は家で英語を浚ひますか。』

といひながら、自分のことは、

『私は、お家に御用がありまして遲くなりました。』

などといふ人があります。

昔は、かういふ言葉使ひを『百姓言葉』といつて非常に卑しんだものですが、私は、私一流で『學校言葉』といふ名をつけてをります。小學校の敎員などのうちには、かういふ言葉使ひをするものが多くありますが、殊に、男子よりも女子の方にこの區別を知らぬものが多いやうです。



『家庭敎師を斷られたる婦人』

これに就いて、先日も面白いことがありました。

私どもで、或る立派な家の家庭敎師を周旋したことがあります。この人は、或る女學校の卒業生で、評判もよく、品格もあり、敎育も充分ある婦人でしたが、家庭敎師に入つてから間もなく、私の家へ訪ねて來たことがあつたため、妻と應接したさうてすが、歸る時に、

『先生によろしく。』

といふから、

『歸りましたら申しませう。』

といひました。するとまた何か考へなほして、

『先生が戻りましたらかういふことを仰しやつて下さい。』

といつて歸つたといふことを後から聞いて、如何に教育があるといつても、あれでは駄目だと思ひました。ところが、果して、周旋した家から苦情が出て『折角お世話を願ひましたが、故あつてお斷りいたします。』

といつて來ましたから、何うしたことかと聞いてみると、外には何も缺點のない結構な人であるが、言葉使ひを知らないで困るといふことでした。なほ詳しく聞いてみると、例へば、

『奥樣が何處へ行つた。』とか、

『お嬢樣がどうした。』

といつたり、

『私が何處へおいてなすつたら……。』

などいふ言葉を使つたといふことを聞きました。そこで私も、他のことは知らないが、言葉使ひのことなら思ひ當ることがあると申したことですが、教育ある立派な婦人がかういふ言葉を使ふのは實に殘念なことです。

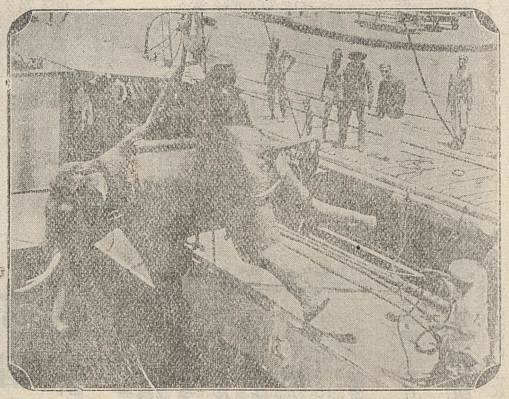
『自他を混同せる言葉使ひ』

男の子が、先生や父兄に對して、『僕がどうした。』とか、『僕が何處へ行つた。』とかいひますが、あれも實に怪しからぬことと思ひます。僕といふ言葉は君といふ言葉に對する言葉です。つまり同輩の間に用ゐるべき言葉で、決して長上に對して用ゐるべき言葉ではありません。これらは、親たちの躾方によつて何うにもなるものですから、幼い時からよほど注意しなければなりません。

先日も立派な教育のある婦人が訪ねて來て、自分の兄のことを話すのに、

『お兄樣がおありなすつた。』とか

『お兄樣が何う仰しやつた。』とか、敬語づくしで話されたのには驚きました。少さい子供が何かならばいさ知らず、いい加減な年齢のものが、自分の父兄のことを『お父樣』とか、『お兄樣』とかいふのは可笑しいことと思ひます。尤もこれは、長上の人、もしくは同等の人に對してのことで、女中とか召使とかに對してはやはり、『お父樣』とか、『旦那樣』とかいはなければなりません。自分の良人のことを人にいふに『歸られました。』とか、『なさいました。』とかいふのも可笑しなわけです。



『讀本の中にある言葉使ひの誤』

文部省で編纂した小學校の讀本の中に、

『お月樣が出ました。』

といふ言葉があります。月といふ字に『お』の字と『樣』の字をつけて、充分敬してあるやうな感じがしますから、『出ました』では調和が取れないやうに思はれます。

『お月樣』といつたら、『出られました。』といふがよし、『出ました。』といふなら、『月が』といつたらよからうと思ひます。さうしなければ上下の釣合が取れません。なほ、かういふ例は新聞などにもありますし、日常の談話のうちにも數へきれぬほど澤山あります。

『誤れる言葉使ひは輕蔑を買ふ』

要するに、長上の人に對しては、それ相當の言葉を使ひ、同等の人に對しては、同等の言葉を使ひ、目下のものに對しては、また相當の言葉を使ふことが肝要です。上中下の言葉を混同して用ゐるから聞き苦しくなるので、その別をさへ明かにすれば決して差支ないのです。

また自分のことをいふ言葉と、人のことをいふ言葉とを明かに區別することが必要です。

愼しむべく避くべき言葉は、調和の取れてゐない言葉です。婦人は何處までも釣合の取れた言葉を使はなければなりません。如何に人品の勝れた人でも、如何に敎育のある人でも、如何に品格のある人でも、また如何に地位の高い人でも、その人の言葉使ひが間違つてゐたならば、必ずや世の人の輕蔑を買ふことになるであらうと思ひます。

米國女學生の寄宿舍生活

ドクトル川瀨元九郎氏夫人　川瀨富美子

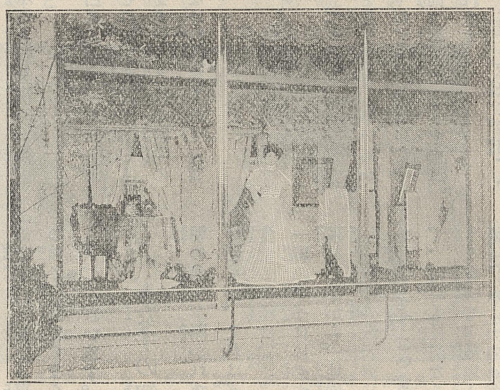
川瀨夫人は十二歲のときに米國へ渡り、小學校敎育から順次に課程を踏み、タフツ大學を卒業して、バチエラーオブサイエンスの學位を得、歸朝後ドクトル川瀨元九郎氏に嫁がれました。彼地の女學生と寢食を共にすること、十三ケ年の久しきに及んだのですから、夫人の如く米國女學生の消息に通じたお方は蓋し尠なからうと思ひます。（誠齋）

▲男よりもジミな女の姿

日本の女學生と米國の女學生とは、風俗習慣の上にも、日常生活の上にもよほど變つた趣きがございます。先づ日本の女學生は、身邊を華美にする傾きが見えますが、米國の女學生は薄化粧一つ致しません男の學生の方は、却つて粹な御容子をなさいますけれど、女學生は全く之れと反對で、少しもそんな考へは無く、一般に野暮な扮裝をして、極く質素につくつて居ます。大學の女學生などでも、裾の長い服を着けますと、日本のやうにやはりハイカラだと云つて笑はれます。

▲頭髮には決して油を附けず

米國の女學生は夜分床に就くとき、必ず髮を解きほごし、散し髮のまま臥る習慣になつてゐますから、朝、臥床を離れますと、寢衣のままで先づ第一に頭髮を結ひ直します。



橫濱野澤屋絹商店の店前裝飾

一體彼地の婦人は髮へ油を附けて結ひません。油を附けて毛の光澤を美しくするよりも、寧ろ頭が輕く不潔になりませんやうに、髮を洗ひます。毛には少しも油氣がなく、サラサラして居ますから、よし散し髮でも、枕や寢衣の汚れは思つたほど目立ちませんし、髮を結ふにも一二分間しかかかりません。

▲朝晩冷水摩擦を行ふ

寢室には必ず洗面場の設備があります。髮を結ひ直しましてから、洗面器に水を汲んで冷水摩擦を行ひ、すつ

かり身體を清めて後、始めて衣服を改めて寢室を出るのです。冷水摩擦を行ふのは朝ばかりでなく、寢る時もやはりそれを行ひ、冷水で身體を清めて後、始めて臥床に入ります。

日本の娘さん方は、夕方お風呂に入つて、白粉を附けて、お化粧をしましても、それを別段洗ひ落しもせず、そのままお休みになりますが、これは衛生の點から云つても、大に注意しなければならぬことだらうと思ひます。

▲一同白服を纏うて食卓に就く

朝は、掃除とか、部屋の整理とか、それぞれ役割が定つて居ますから、學生は寢室を出ますと、めいめいその任務に就いて働きます。やがてそれが畢つて、休息する間に、最早食堂の準備も整うてをりますから、ここに朝飯の食堂が開かれます。

食卓に就きますのは、一日のうち最も愉快な時間で、學生は何れも樂しみに致して居ります。しかし食堂に入る前には、必ず髪を結ひ直し、上衣を着換へなければ、食卓に列なることはできません。上衣の色は大概白を用ゐる事になつて居ますから、一同食卓の前に行儀よくならんだ時は、實に得も言はれぬ美しさでございます。

▲女子の知識は食卓より生る

朝の食堂が開かれます前に、祈禱を行ふ學校もございますが、これは多く宗教の學校に限るやうです。

食堂の有樣は、朝も晝も晩も別段大差はありません。一脚の卓子には必ず一人の教師が同席して居て、食事をしながら、地理のお話、歷史のお話、旅行のお話、その外教科書にある事柄や、ためになることをお話して下さいますから、食堂の時間は誠に賑かで、何時も長閑なる春の如くでございます。このやうな有樣で、教場よりも食堂の方が却つて有益なる話を聞かれますから。女子の高尙なる智識は寄宿舍の卓上から生れ出ると評されて居ります。

▲間違つて國語を話せば罰金

また私の居つたタフツ大學の寄宿舍には、英語の卓子、佛語の卓子、その他獨語、伊語など、それぞれ外國語で卓子を別け、私共のやうに外國から行つたもので英語を練習したい學生は英語の卓子に就き、佛語希望の學生は佛語の卓子に列ぶと云ふやうな仕組にしてあります。さうして一卓子毎に、語學專門の教師が一人列席されて、その卓子に限り他の國語で話す事を禁じ、若し間違つて他の國語を話すと罰金を納めなければならぬことになつて居ます。例へば佛語卓子に列した學生が、若し誤つて英語でも話しかけた場合には、罰則として、その度毎に一錢とか二錢とかを、卓上の罰金箱へ投げ込むのです。會話を練習するには此上なき組織でございませう。

獨逸皇帝陛下と皇子皇女



皇后陛下　皇帝陛下　皇太子殿下　妃殿下　他は悉く皇子皇女

このやうに卓子に集まるのは、國語練習の爲で、何方かと云へば未熟の人が多いから罰金箱は可なり繁昌いたします。私なども隨分罰金箱へ御奉公を致しましたが、さてこの集つたお金は何に使ふかと云ふに、これは悉く慈善事業に寄附いたします。

▲高潔なる男女學生の交際

學校へ參りますと、男女の學生が同じ講堂に集つて講義を聞きますし、また運動場へ出ましても、男女が一緒に樂し

く遊戲を致します。かくの如く青年血氣の男女學生は互に親密に交りますが、その間に毫も間違の生じ無いのは不思議ではありませんか。これ一つは社會の制裁が嚴重なるため、米國では一度男女の學生間に醜聞が立ちますと、最早この兩人は、他から齒されません。そして將來社會に立つ事の出來ぬ悲しい運命に陷り、先づ一生埋木にならなければなりません。それですから、男女ともに品行を方正にし、一歩も誤まらぬやうに、常に愼み深い心懸けを持つて居るのでございます。

それから、なほ一つの理由は、米國の國風として、女子の權力が非常に強く、男子を凌ぐほどの見識を持つて居りますから、女學生時代に於いても卑しむべき男子の誘惑を受付けません。

▲女學生もベースボールをする

女學生は何れも、男子と同樣に活潑な運動を致します。また運動場には樹木の鬱蒼たる林もあれば、葡萄や林檎の畑もあり、山もあれば池もあります。そして、池には端艇が幾艘となく繋いであつて、學生は自由に漕ぎ廻つてゐます。その他、フートボールだの、ベースボールだの、思ひ思ひの運動をしますから、身體も壯健になり、精神も爽快になつて、起居動作に活氣が出てまゐります。

▲苦學生は如何にして成功するか

學生の間には貴賤貧富の區別はありません。富豪の令嬢でも、額に汗を流す苦學生でも、平等に交際して、苦學生だからと言つて自分から肩身を狹くするやうな事はございません。皆な平等に大勢の女學生の中に交はつて居りますのは、さすが獨立獨行の氣象に富んだ國民だけあると感心致します。

米國には男子の苦學生が隨分多うございますが、女子の苦學生も澤山あります。女子の苦學生は、晝は、學校で勉強し、夜は、三時間なり四時間なり時間を定めて、商家の店番に雇はれ、その給料で苦學するのもあれば、タイプライターに雇はれるのもあります。その他、簿記係り、學校の掃除人など、苦學生相應の仕事がいろいろありますから、時間を約束して、その時間だけ働けば、少くとも自分の生活費は樂に取れて、働きながら勉強いたされます。

それに苦學生に都合の宜いことには、特に苦學生の爲に貸間を營業にするものもあるし、一食何ほどと定めて食事をさせる料理店もあります。

また學校の試驗にも一種の特典があつて、一課目の成績が良くないからとて落第させずに、兎に角進級させた上て、不成績な課目だけ再試驗を受けさせます。



▲富豪の令嬢も自ら洗濯をする

寄宿舍では、土曜日は洗濯する日と極つてゐて、生徒は自分の着た汚れ物を、自分で手を下して洗濯する規則になつて居ります。それですから例へ家に居れば女中なり洗濯屋なりに洗はせる富豪のお嬢さんでも、一度寄宿舍に入つた以上は、洗濯場へ出て來て一緒に洗濯しなければなりません。しかし大家の令嬢などは、慣れない事ですから、中にはホンの形式に手巾一つ位を洗ひ、後は密かに洗濯屋へ渡す方もあります。

洗濯物を乾すには日光に曝してはいけません。蒸氣を用ゐて

乾かしますから、僅の時間で干きますし、天氣都合が惡くとも、洗濯には一向差支へません。

名歌評釋



鶯の歌

渡邊白水

詠レ鳥　詠者しらず

冬ごもり春さり來らし足曳の
山にも野にも鶯なくも—萬葉集

冬ごもり。春さりくればに冠らする枕詞○春さりくれば。さるは到るとか來るとか云ふ意味で、秋さらば、夜さり、夕されば、朝されば、などいふのと同じことです○足曳の。山に冠らする枕詞○鶯なくも、このもは感動詞で、俗語のまあに似て居ります。「おぼつかなしも花陰にして」のもと同じ用ゐざまです。

雪に籠つて、いつ果てることかと待ちわびて居た冬もすんで、世は早や春となつたのであらう。佐保姫の神使なる鶯は、うれしくも野邊に山邊に鳴き渡つて居る。

この歌、續後撰集には、冬くれて春立ちくらし足引の山にも野にも鶯のなく、と改めて載つて居ります。

○　山邊　赤人

足引の山谷こえて野づかさに
いまはなくらむうぐひすのこゑ—萬葉集

野づかさ。野の中にある小高い處、即ち野中の丘陵のこと。春は來た、氷に閉ぢられて、山の奥深く籠つて居た鶯も、今や山をこえ谷をこえて、野中の丘陵に里なれぬ音を鳴く事であらう。

春の初によめる　藤原　言直

春やとき花やおそきときわかむ
鶯だにもなかずもあるかな—古今和歌集

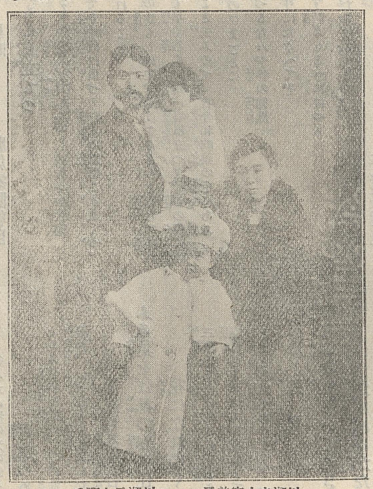
鶯は春の豫言者である。鶯が鳴いて初めて春の來たのも知れやうし、花の咲くのも知れるのである。今にも鶯が來たならば、今年は春と花と何方が早く來るであらうかと聞かうと思つて居るものを、さてその鶯さへ待てど待てど訪れて來ぬと云ふので、待つに苦しき春を恨んだ歌であります。

題しらず　凡河内躬恒

青柳のはなだの絲をより合せて
たえずもなくかうぐひすの聲—拾遺和歌集

はなだ。縹色は俗に花色のこと○より合せてより合せた絲は強くて切れないものでありますから、下の句の絶えずもと云はん爲に置いたので、上の句は下の句を詠み出す序とも云ふべきものです。

絲を湛へた青柳の梢にしだりの絲をより合せより合せて、心のどかに囀つて居る鶯のさまが眼に見えるやうであります。



川瀬大人富美子　川瀬元九郎氏

延喜の御時月次の御屏風に　素性　法師

あら玉の年たちかへるあしたより
またるるものは鶯のこゑ—拾遺和歌集

あらたまの、年月日などに冠らする枕詞です。今では新年の事とばかり思うて、「新玉の御ことほぎ申上候」などと年始狀に書いたりするのは誤であります。一首の意味は極めて明瞭で、今からみればまことに平凡のやうでありますが、法師が初めて詠み出でた頃には、定めし時の人をして感吟措く能はざらしめたことでありませう。

題しらず　後德大寺右大臣

梅が香にこゑ
うつりせば鶯の
なく一枝は折らまし
ものを—千載和歌集

こゑうつりせば。梅が枝に來て鳴く鶯のこゑが、梅のかをりと共に枝にうつり留るものならばの意。

梅の梢に、枝うつりしてなく鶯のこゑは譬ふべきもののないほど

面白い。もしこの鶯のこゑが花の香と同じやうに枝にうつりて消えぬものならば、折るには惜しき枝ながら、鳴いて居る一枝ばかりは折らうものをとの意であります。

百首の歌奉りし時　藤原家隆朝臣

谷川の打ち出づる浪もこゑ立てつ
うぐひすさそへ春の山かぜ—新古今和歌集

うち出づる浪。氷とけて今や流れ出づる谷川の浪○こゑ立てつ。さらさらと音たてて流れること。

春立つと同時に、谷川の氷もとけて、水はさらさらと音して流れて居る。いざいざ一日も早く谷の古巣に春風立つて、谷の戸に睡る鶯を誘ひ出してくれよと云ふので、古今和歌集の中にある

谷かぜにとくる氷のひまごとに
うち出づるなみや春の初風

花の香を風のたよりにたぐへてぞ
うぐひす誘ふしるべにはやる

の二首を本として詠んだのであります。

題しらず　平資盛朝臣

谷ふかみ人もかよはぬ山ざとは
うぐひすのみや春を告ぐらん—月詣和歌集

「山中暦日なし」とは古人もすでに云つて居る。谷ふかくして訪ひ來る人もない山里の庵には、春が來たとて知らせてくれる人もない。ただ春告鳥と云はれて居る鶯ばかりは、都も鄙も隔てなく、告げ知らせてくれることであらう。新古今に

谷ふかみ春の光のおそければ
雪につつめるうぐひすのこゑ

とある菅公の歌は、この歌の範となつたのでありませうが、同工異曲、いづれも甲乙しがたい歌がらであります。

千五百番歌合に　惟明親玉

ふる巣をば都の春に住みかへて
花になれゆく谷のうぐひす—續千載和歌集

三雪ふる冬の寒さに、谷ふかく潜んで居た鶯も、錦織りなす都の春にあこがれて古巣をすて、行くへも知らず花に親しんで居ることよとの意であります。一首紆餘曲折の妙を極めてをります。

野鶯　頓阿法師

朝な朝な立ちいでてきけば春の野の
かすめるかたに鶯ぞなく—草庵集

春は日ごとに深うなつて、柔かい霞は、朝ごとにうらうらと野をこめて居る。その奥から聞えて來るやさしい鶯のこゑは、うちつけに近く聞くよりも一層なつかしく感ずることである。

朝鶯　下河邊長流

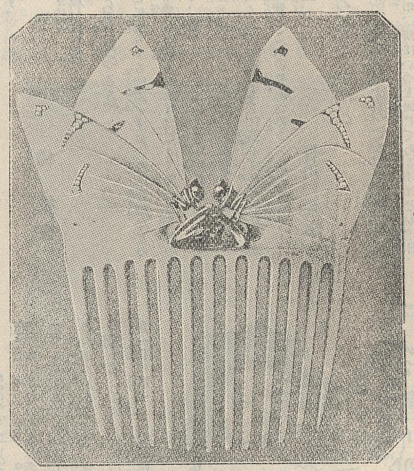
おき出てばさわぎやすると鶯の
こゑゆゑいとど朝いをぞする

いとど。常よりも一層の意○朝い。朝寢のことであります。

寢覺の床の耳を欹てると庭には鶯が鳴いて居る。飛び起きても聞きたいのは山山であるが慌しく雨戸でも繰らうものなら、心弱き鶯はおどろいて何處かへにげ去るであらう。それもあまりに心無いわざと、常にもまして朝寢をして居ることであると云ふので、後撰集に藤原の伊衡朝臣が

竹ちかく夜床ねはせじうぐひすの
なくこゑきけば朝いせられず

と詠じたのも、鶯をめづるこころはやがて同じことであります。



夕鶯　村田春海

おぼつかな訪はれぬやどにうぐひすの
人來となくや夕ぐれのこゑ—琴後集

閑居のさまでせう。日を經て訪ふ人もない世外の庵の夕ぐれに、人來人來と鳴くこゑの覺束ないことであると云ふのです。鶯が人來と鳴くとは昔から歌に多く詠まれたことで、むかしある年の正月十日、良岑宗貞が志す所あつて出て行つた道に五條の邊で雨に逢うて、荒れたる家の軒に雨やどりをした時、何心なく門内に歩み入ると、梅がさいて鶯も鳴いて居る。暫くすると、人ありげにも見えぬ簾の内から

よもぎ生ひてあれたるやどを鶯の
人來となくや誰とか待たん

と、獨ごとに吟ずる女があるので、宗貞はとりあえず

獨逸最新流行の櫛

來れども云ひしなれれば鶯の
君につげよとをしへてぞなく

と聲奬はしく吟じ返したと云ふ話があります。宗貞は即ちかの遍昭僧正の俗名であります。

竹裡鶯　橘枝直

うちなびく園のむら竹長き日に
うきふし知らぬ鶯のこゑ

うちなびく。草、髪などに冠らする枕詞ですが、春は若草などのうちなびくころですから春にも冠らせます。ここは園のむら竹のうちなびくのを形容して、長き日と云ふのに春を利かせたのです。うきふしとは竹の節と憂き折ふしのふしとを懸けたのです。春とは云へど人は皆折にふれての憂きふしに惱んで居るのに、庭の竹間に憂きこと知らぬ鶯のこゑの長閑な事よと羨んだ歌です。

毎朝聞レ鶯　香川景樹

朝な朝なおなじところにきこゆれど
あらたまりゆくうぐひすのこゑ—桂園一枝

朝ごとに庭に來てなく鶯の、所はいつも同じであるけれども、日に日に春深うなるとともに、鶯のこゑはやうやう調おもしろくないてくると云ふので、二の句と四の句とは、相對してこの歌の生命であります。

折にふれて
春來とも知らぬたびねの手枕に
ききておどろくうぐひすのこゑ—梨のかた枝

實美卿、維新の國事に奔走せられて、しばらく六卿と共に西陲にさすらはれたころの歌です。久しく知らぬ鄙路にさすらひ、國家の大事に身を忘れて、世は春とも知らぬ旅宿の枕に、思はずも鶯の聲を聞いては、いかに驚かれたことでせう。精忠な公爵の面影が一首の歌の上にも活躍して居るではありませぬか。



斯くの如き女學生は必ず成業す

白露生

（一）かくの如き女學生は必ず成業す

國許より送られし小包の紐を鋏にて切らず、指もて叮嚀に解く女學生あり。『これでお切りなされば早いでせう』と友達が差出すナイフを『難有う』と輕く受け流し、優しき指先ながら、飽くまでも鋏の助を借らず、無疵のままにて處處の結び目攻め落さんと心を碎く。やがて包も解けてほつと一息、中撿めて片靨、然る後しづかに油紙の皺を伸し、紐はまた何か他日の用にと卷き納めて叮嚀に仕舞ひおく。かくの如き女學生は必ず成業す。

（二）かくの如き女學生は必ず成業す

裁縫に用ゆる針を、ついぞ紛失したることなき女學生あり針箱あくれば先づ針の勘定、裁ち縫ひの間も、休める針は、手當り次第襟に留め頭に挿すなどのこともなく、一一針差しに戻して置き處を間違へず、心して刺したる留針おのづと締りありて拔け落ちたるためしなし。仕舞ひ際には必ず數をあらため、やがて『わたしのお針ご存じなくつて？』とばたばた探しまどふ友達の加勢にと立上る。かくの如き女學生は必ず成業す。



高島屋呉服店製の刺繍

冬の日外出する折には、必ず火鉢の火を綺麗にいけ、鐵瓶を上に載せて出で行く女學生あり。『すぐ歸るんですよ、いい加減にして早くいらつしやいな』と促す友を『それでもあなた』と火箸の先にて掻きならし活けかくる灰の跡、心のつましさもほの見えてうれしく、更にちよつと鐵瓶の蓋を取上げて、焦立つ友を慰めながら、水まで差していけ火の上に載せ、につこりして『お待たせ申してすみませんね』かくの如き女學生は必ず成業す。

(三)かくの如き女學生は必ず成業す

(四)かくの如き女學生は必ず成業す

襖障子をキチンと締め立てる女學生あり。ただ閉めたりといふのみにては心安からず、襖障子の合せ目ぴたりとよく合ひ、隅隅角角に至るまでキチンとよく落着き、加ふるに開け閉てもしづかにて、隣の室にはをりをり起るガタピシの音、姫御前ののんしる聲などの曾て聞えず、日頃のたしなみも思ひはかられて床しき心地す。かくの如き女學生は必ず成業す。

(五)かくの如き女學生は必ず成業す

ちよつと借りたる鉛筆をわざわざ削り直して返す女學生あり。たとひ尖だけにても使ひ減らしたるを氣の毒とや思へるならん、書物さへ借りては返すを忘るる者あるを、さりとはしほらしき情かな。『なにそんなにささらずとも、よございますよ』と今度は持主が却つて氣の毒がれば、『こんなに減らしたのですもの、削り直すぐらゐは當前ですわ』とどこまでも眞面目なり。かくの如き女學生は必ず成業す。

(六)かくの如き女學生は必ず成業す

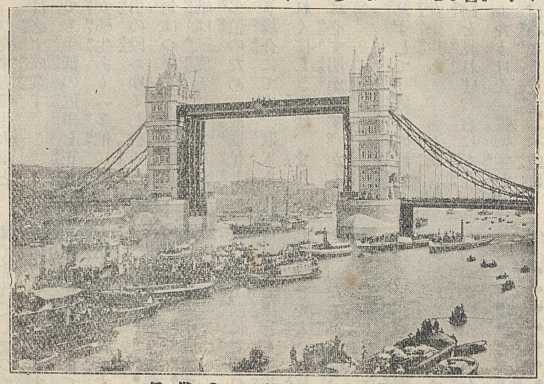
學資の使ひわけを一一丁寧に書留めて毎月郷里に報告する女學生あり。電車の代、洗濯の代、石鹸の代、筆、紙、墨の代、さてはリボンの代、香油の代より、切手端書の代に至るまで、一一書き別けて、日常の生活百里の遠きに在るもさながら手に取るばかり、をりをり『此月は休日の多かりしため、よごれ物は大抵手づから洗濯いたしませ、お小使もそれだけ餘計に殘りゆ』など書き添へられて、親の眼にはいつしか宿る歡喜の露。かくの如き女學生は必ず成業す。

(七)かくの如き女學生は必ず成業す

父母よりの贈られたる手紙を大切に保存し置く女學生あり。故郷の天より時時訪るる雁の便を何よりの樂みとして、慈愛ふかき父君の手紙懷かしき母君の玉章、戀しき風のもて來る毎に、繰り返し卷き返し讀みたる後は、可愛らしき文箱の中にをさめ、文習ふ旅の寶と秘め尊む心のいぢらしさ、『あなたは本當に感心ね、わたしなんかどうなるのだか、一つだつて殘つてゐやしない』と友達の語るを聞きて、覺えず眼を圓くす。かくの如き女學生は必ず成業す。

(八)かくの如き女學生は必ず成業す

筆を使ひたる後、綺麗に掃除して仕舞ひ置く女學生あり。『三年前に買つたのがまだこんな』と、長持の底を探り來れば、何にても道具は大事に使ふ性分、手紙にても書きたる後は、先づ筆に着きたる墨のねばりを落し、更に水にてこれを洗ひ、なほ紙にてよく拭き取りたる上、キチ



英國ロンドンの塔橋

ンと、もとの如くに鞄に收め、ひたすら後生大事と手を盡す。かくの如き女學生は必ず成業す。

(九)かくの如き女學生は必ず成業す

いつにても手紙の返事を正しく出す女學生あり『多忙にまぎれ延引の段ゆるし被下度』など、詫言または申譯の文句はついぞ手紙の中に見えたることなく、三度の手紙は三度とも、さながら響の聲に應ずる如く、或は多忙のため、或は忙しきため、たとへ速答の出來難き場合にても、取りあえずその次第を陳べて『いづれくはしき事は、また追つて可申上』と筋道だけは必ず明かにす。かくの如き女學生は必ず成業す。

(十)かくの如き女學生は必ず成業す

墨を歪めずして、終まで眞直に磨る女學生あり。磨り減らしたる跡を見れば、右にも左にも偏らず、如何に心して磨りたりけん、墨の主が面影までもそろに偲ばれて、心なき友達さへ感に堪へかねてや、『あなたは本當にお上手ね、私なんかすぐ歪んでしまつて困りますの』といへば、『上手でも何でもないのですけれど、私には歪んでは磨れませんわ』とどこまでも素直なる話振り。かくの如き女學生は必ず成業す。

(十一)かくの如き女學生は必ず成業す

破れし足袋をそのまま棄てずして手づから繕ひ、穿けるだけ穿き通す女學生あり綺麗に綴られ、心持よく洗ひはれて、少しも見苦しからず、盡せるだけは手を盡して、また人にも見苦しく思はれざるやうにと、心を籠めたる針の痕、かへつて頼もしき心地す。『先月買つたばかりだのに、こんなになるのよ』と鼠色になりたる足袋を脱ぎ棄てて屑屋に賣らんといふ友の無法に呆れながら『まあ、あなた繕ひもせずにうつちやるの？』かくの如き女學生は必ず成業す。

(十二)かくの如き女學生は必ず成業す

帳面を半端に使はず、一たび手を着けたるものは終りまで殘りなく使ひ果す女學生あり。ちよつと書きさしては、すぐに心變りして、反古の如くに棄て去る友人の帳面を見ては、まあ勿體ないとたしなめ顏に、自分の手帳には成るべく無駄なかれかしと祈りつつ、出來得るだけ經濟的に利用して、最後のページまで細かに書き附けたる心ばえ、なかなかに侮り難し。かくの如き女學生は必ず成業す。

(十三)かくの如き女學生は必ず成業す

一年の終りまで日記をつけ通す女學生あり。毎日少しづつなれど、牛の歩みのたゆみなく、筆まめに記しゆくさへ殊勝なるに、中にはをりをり感じたる事など、作り飾りなく書付けて、知る人の消息までも筆には漏れぬこまかさを、自らは少しも返す言葉もなし。



東京神田鎌倉町松屋呉服店の店前に飾られたる人形

面倒と思はず、毎夜褥に就く三十分前までにすべての事を片附けて、さてそれよりは必ず日記いぢり。かくの如き女學生は必ず成業す。

(十四)かくの如き女學生は必ず成業す

手紙を書き流しにせず、よく讀み直して然るのち出す女學生あり。如何に心急げる時も、一度は必ず讀直さては心落着かず、『いそがしい時はとてもそんな暇がありませんから、ついそのまま出してしまひます』と友人のいへば『いそがしいから、どんな間違を書いたか分りません。讀直さないと取返しの付かない事が出來ないとも限りません』と釘を打たれて友人かくの如き女學生は必ず成業す。

（十五）かくの如き女學生は必ず成業す

席を立ちて窓の外に眼を移す友達の物見高きに倣はず獨り勉強に餘念なき女學生あり。心常に落着きて、かりそめにも浮足ならず、立ち騒ぐ友のさそひを輕く受け流して、書物に見入る姿を見ては、仇に心を移さぬ松の操。それだけにても床しき思ひす。かくの如き女學生は必ず成業す。

私の日常生活

鳩山春子

十年前と今とは、毎日のすることに大分相違がございます。十年前には、子供がまだ中學校に通つて居りましたので、朝は子供と一緒に三時半から起きて、學科の復習や下稽古の手助をいたしました。またその頃は、今よりは、いくらか來客も少なく、諸種の會合に出ることも稀でありましたのに、姑は裁縫が好きでございますから、私も暇さへあれば裁縫をいたして居りました。しかし、子供はだんだん大きくなつて、一人で稽古が出來るやうになりますし、私も健康を害しまして身體も痩せましたので、子供が、めいめいに下稽古をするから、どうぞゆつくり寢て居てくれと云ひます。それで私も今は餘り早起きをいたしません。また私の身體は日に增し忙しくなつてまゐりますので、只今は裁縫も殆ど致す暇がございません。

『毎日冷水摩擦を行ふ』

現今は、日の出少し前、夜が白白と明けて、燈火がなくても物の黑白の見分けが附く頃に起きます。從つて夏の方が冬より早く起ることになつて居ります寢室には洗面器を備へてありますが、前の晩に水を汲んで置いて、起きると直ぐ冷水摩擦を行ひます。冷水摩擦の効能は今改めて申上げるまでもありませんが、若し一朝でも怠りますと、朝飯に食慾を失ひますのを見ても、如何に効能あるかが分ります。さて冷水で身體を清めてから、髪を解かしますが、そのやうに、朝のうちに身のまはりをすつかり整へますので、外出いたします時でも、更にみじまひのために時間を費すことは殆どございません。ちよいと髪を撫付けるばかりてございますから、着物を着換へて愈よ外出しますまで、僅かに十分か十五分あれば宜しいのでございます。



みたれ

『三十七疊半の廣間に寢る』

私が髪を結ひ上げます頃には、鳩山も起きます。鳩山が起きてから室を片附けて、始めて室を出ますが、さうするまでには、起きてから一時間もかかりませう。

私は息が短かくて、狹い室に寢ると窒息しさうになりますから、なるべく廣い室に寢ます。これまでは十八疊と二間を通して寢室に用ゐて居りましたが、先頃からその室を分けて二人の子供の勉強室に當てて、私どもは以前二人の勉強室であつた三十七疊半の廣間に寢て居ります。何しろ三十七疊半の廣間でございますから、どうしても寒さが強うございます。しかし、寢室に火を置くのは、鳩山も私もきらひでございますから、私どもの寢室には決して火を置きません。

『前日の會計は翌日つける』

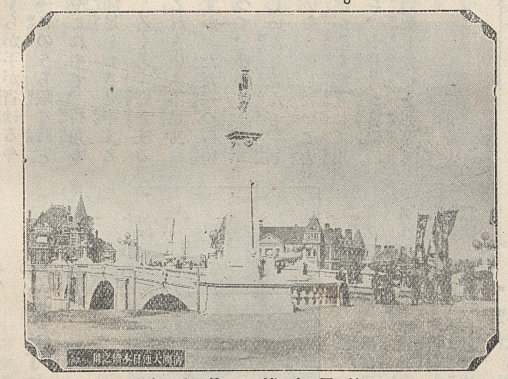
鳩山は政治に奔走してをるばかりでなく、辯護士をも致してをりますから、その忙しさは一通りでございません。毎日朝から晩まで外出して居るのでございますから、家に居る間は、なるべく傍に居て世話をするやうに勉めてをります。また朝は、留守中に起つた用事を話し合つたり、新聞を見たり、庭を一週したりする位で、鳩山が出勤するまではこれと申すほどの用事は致しません。鳩山が外出しましてから、手紙を見たり返書を認めたりして、それから前日の會計をいたします。前日小出しをした金錢のうち、幾ら幾ら何に使つて、いくら殘つて居ると、收支を明かにするのでございます。

『豫定の半分も用事をする暇なし』

一口にかう云へば、一日の用事は極めて少ないやうでございますが、實際は大に違ひます。鳩山と私に宛てた手紙は幾通となく來て居りますが、私で用の濟む手紙は鳩山の分も返書を認めるのでございますから、一一返書を書くばかりでも多くの時間がかかります。そしてその間にはお客さんが來られます。一體、私はお客さんとお話するのが好きですから知合ひの方には、どなたにも喜んでお會ひ申したいのでございますが、目下の處では、多忙のため心に任せません。それでも隨分御面會致しますので、つい思はぬ時間を費やしますから、時によると、豫定の半分も用事の濟まないうちに、夕暮になつてしまひます。用事を濟してから、有益な書物を讀み、自ら向上進歩したいと切望して居りましても、その望を滿す暇は殆んどございません。それにまた時時は外出用もありますから、なかなか忙しうございます。

『良人と共に玉突をする』

五時半には、鳩山も子供も歸つて來ます。夕御飯は六時で、特別の場合の外は、姑も鳩山も子供も皆な一緒に食べることにしてをります。食後一時間は、家内一同居間に集まり、種種の談話など致し、それから、子供は勉強いたしますし、私どもは玉突をしたり、外國雜誌を見たり、または談話をしたりして、大抵九時半か十時に寢に就きます。子供は十時過ぎ十一時頃まで勉強する樣でございます。



清國大連の日本橋

『言ひ付からない用事をする』

私は常に出來得る限り鳩山や子供の手助けをしやうと勉めて居ります。鳩山や子供の時間は、私の時間より遙かに重要でございますから、なるべくその重要な時間を活用して、より大なる働きをさせたいと云ふ

のが、私の希望であります。それで私は、別段云ひ付かりはしませんが、鳩山がいくらか手が省けるやうに、用事をいたしますので、一日のうち暇な時とては殆んどございません。それやこれやで、折角お出でなすつたお客樣にも十分に滿足をおさせ申すことが出來ませんし、また自分も、ろくろく修養することが出來ません。私は、別段これといふ不足もなく、毎日愉快に生活してをりますが、ただ一つの望みを申せば、今少し暇な身になつて、ゆつくりとお客樣にも會ひ、また自分も新らしい本を讀んで、新らしい知識を得、時勢に遲れないやうにしたいことでございます。それで私は、子供が全く獨立して用事が少なくなつたら、その時こそ、十分にお客樣の滿足を得るやうに勉め、自分も勉強したいと思うて居ります。（文責在記者）

初めて米國に渡りたる時の實驗談

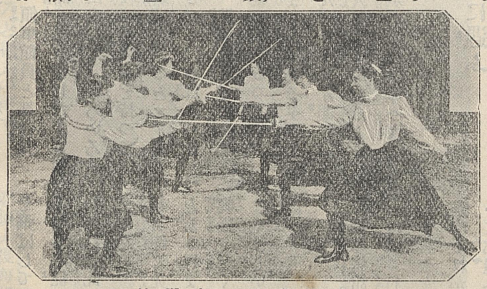
跡見玉枝



私は米國の東の方を少々ばかり覗いて參つたので、一向お役に立つ樣なお話も出來ませぬが、折角のお尋ねですから私が親しく見て參つた米人の氣質や、風俗の異つた所などをざつとかい摘んで申し上げませう、かう申すと大層立派ですが、實は日本女子の椋鳥を代表して、私の失敗談やら滑稽談を露骨に白狀致すのでございます。

日本服を着て米國に渡る

海外へ出ますには何人も仕度に注意なさるので、私も皆さんから承つて衣服なども調へ、なるたけ恥をかきたくないと存じて、充分に注意したつもりでした。が、丁度參る時穗積博士と北里博士が御一所でしたから、乘船いたしてからも、いろいろと彼地の樣子を伺ふ事が出來て大に喜んで居りました。それから日數を經て桑港へ着かうとする時に穗積博士が『跡見さん、あなたはどんな着物を着て上陸しますか。』とお尋ねですから、私は『左樣、洋服も持つては參りましたが、なまじ旅行服など着て笑れるのも厭ですから、やはり日本服に致します。』と申して、和服に袴を着けて、內地の女敎師と云つた樣な姿で上陸致しました。



獨逸女學生の決鬪練習

波止場から上つて、稅關の方へ參りますと、あたりは人山を築いて何かソワソワして居りますから、大方一所に着いた外國人の迎ひでもあらうと考へてぼんやり荷物の側に立つて居りましたが、それが私の土地なれない失敗の一つで、其間に日本服の私はチヨロリ寫眞に撮られてしまつたのです

夕刊の新聞に寫眞が出る

その時は丁度午後の四時頃でしたが北里博士が私の側へ來られて『今そこへ領事が迎に來てゐるから、荷改が濟むと、一所に其馬車へ乘るのだが、乘る時あなたは誰にも關はずにズット先へお乘なさい。會釋をしては外の者が迷惑しますよ』と注意して下すつたの

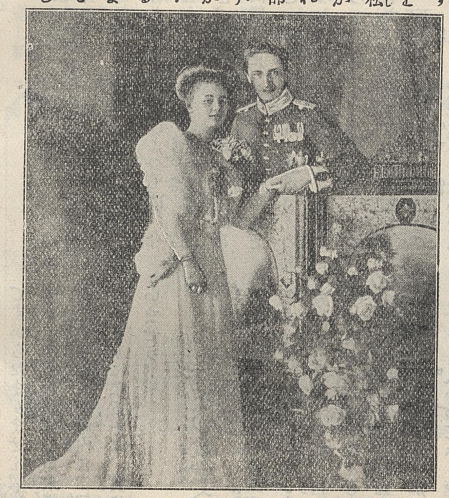
です。委細畏つて軈て外へ出ましたが、そこは日本の女子ですから、ツイ氣後れがして、一寸と會釋して馬車に乘り、兩博士と、領事と、領事館員と都合五人で一緒に馬車を走らして領事館へ參りました。さうかうする内、夕飯の御馳走が出まして、いろいろ話をして居ると、領事館員が一枚の新聞紙を持つて參りましたから、何の氣もなく廣げて見るとマアどうでせう、それに私の寫眞が出てゐて、お負に「日本の婦人だけに、馬車へ乘る時、男子に目でもつて會釋をした」などと細な記事が載せてあるのです。僅か四五時間のうちにこんな事まで報道する夕刊新聞の機敏なのには實に驚きました。だんだん聞けば米國では日本から跡見と云ふ婦人の畫師が來ると云ふので、新聞紙などは前から評判して待ち構へてゐたのださうです。

新聞のお蔭で知人に遇ふ

私は桑港に居る間、パリスホテルと申す同港屈指の旅館に泊つて居りました。すると曾て私が畫を教へたことのあるミス、ハイロンと云ふ婦人が馬車を飛ばして尋ねて呉れました。私は懐しくつて嬉しくつて『能くマアこんなに早く來て下すつた。どうして私が此地へ來たことを御存知ですか』と、尋ねましたら、ミス、ハイロンは笑ひながら『昨日の夕刊新聞で先生の麗はしいお顔を拜見いたしました』と言はれましたが、これがホンの過ちの僥倖で、昨晩極り惡く思つた事が今朝は仕合となつて思ひがけなく懐しいお方に會はれたのでございます。

ボーイを使ふ毎に金を取られる

米國の旅館は客馴れて居りますから、食事のことなどは能く行屆いて居りますが、人を使へば必ず幾らかの賃金を取られます。これは當然の事のやうですが、それが日本とは趣が異つてゐるので、旅館へ着いて部屋へ入るまでに黒奴とボーイに二圓ばかり取られました。彼地では旅館が皆五階六階の大建物でお客の部屋はいづれも上にあるのですから、お客の荷物は黒奴が部屋まで運んで呉れます。誠に便利がよいと思つて居りますと、その黒奴が運賃を呉れろと申します。私も其傳で旅館へ着くが否や黒奴に半弗取られましたが、それから部屋へ入らうとすると戸が締つてゐてなかなか開きませんから、ボーイを呼んで開けさせると、其ボーイが何時までもそこに立つて居て立去りません。どうしたのかと聞きますと、戸を開けて進げたから心付を呉れろと言ふのです。いかさま日本でも旅籠屋の下女に纏頭を遣るから、それも道理と存じ、二十錢遣はして部屋へ入つてみると、中はろくろく掃除がしてありません。そこでまた呼鈴を押してボーイを呼ぶと、今度は前のと異つたボーイが出て來て、掃除をいたしましたが、やはり傍に附いてゐて、心付が欲しさうですから、之にも幾らかやりました。その他、お客樣が見えてボーイが部屋まで案内して來たからやる、世話をして呉れる女のボーイにもやる、何につけかんにつけボーイを使ふ度毎に心付を取られました。それから見ると日本の宿屋が茶代を欲しがるとか、下女に纏頭をや



獨逸皇太子アウグストハウヰルヘルム殿下と妃殿下

らぬと能く働いて呉れぬとか云ふのは、やらねばやらぬで濟むのですから、そんなにひどいとは思はれません。

同行の婦人瓦斯のために死す

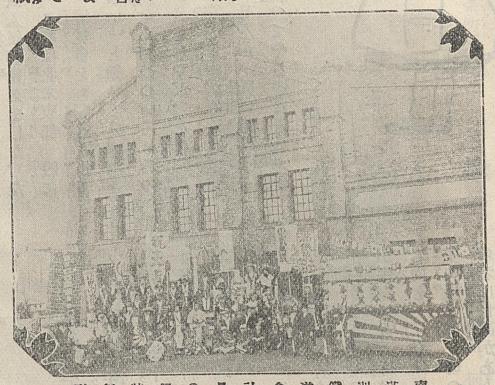
米國は、あれほど開けた國でございますが、電燈はまだ一般に行はれて居りません。家によつては、今でも瓦斯燈を用ゐて居りますが、この瓦斯燈は、注意に注意をしませんと、飛んだ間違を起すことがあります。丁度私と同船して行つた増田京子さんといふ方は、姻御さんと一緒に、も一人の姻御さんの桑港に居られるのを訪ねて、米國に渡られたのでございますが、そのお泊りなすつた旅館では、瓦斯燈を用ゐて居りました。京子さんは、夕御飯を上つてお休みになる時、瓦斯燈の螺子は捻られたのでせうが、そこは旅馴れぬ悲しさで、螺子を捻つたあとで、マツチを點けて、十分に瓦斯の漏るか漏らぬかを確めなかつたのでございませう。日本の室とは違つて、壁は厚く、窓も扉もキチンとして、空氣の漏れぬやうに出來て居りますのに、瓦斯が漏れたのですからたまりません、遂に窒息して、敢なき最後を遂げられました。折角米國までおいでなされて、市街も見物なさらぬ内に、叔母と姻とが枕を並べてお亡くなりになるとは、實に何たる悲慘なことでございませう。

階下の食堂へお湯が漏る

桑港を去つてから、私は、ボストン、紐育、私俄古、ナイヤガラ、モントリール、ウスターなどの方に居つたのですが、何れへ參りましても日本の女子が最も注意せねばならぬのは、入浴のことであります。彼地では一週間五弗以上の部屋には、必ずお風呂が附いて居りますが、それへ入る時は初めからスーツと入いつてスーツと出るので、日本の樣に浴湯をしたらそれこそ大變、階下の食堂へ汚いお湯が漏つたり、寢臺の上が水だらけになつたりして大恥をかきます。

厠は殊に用心が肝要

それに今一つ用心せねばならぬのは厠へ入ることです。女子としては些と申し憎いことですが、申さねば永く同胞女子の恥を續けることになりますから、ザックバランにお話ししてしまひませう。彼地では二階にも三階にも五階六階にも厠があつて、汚物は細い管で下へ落す樣に出來て居ります。それゆゑ厠所には、彼地で使ひ付けの薄く裂易い落し紙が備へてあつて、家に依ると「日本紙用ゆべからず」と掲示した所もあります。もし、うつかり心付かずに日本紙を用ゐたら、それが管の途中に閊へてしまつて、汚物は牀の上に溢れ出し、それを直すために大騒をやらねばならぬのです。それですから或る所では、この失敗のため、日本人の客を斷ると言つて、在留日本人一同が面皮を缺いたこともあります。



南滿洲鐵道會社員の假裝行列

米國人の日本畫趣味

日本畫は隨分彼地で歡迎されて居りまして、私もクラーク大學のお隣の高等女學校長の厚いお骨折で、三日間繪畫展覽會を催しました。ボストンの方は日本畫の趣味を解する人が澤山て、山水や彌

弦齋夫人の料理談

一記者

牛肉を買ふには如何に注意するか

記者『寒い時には牛肉が何よりの御馳走ですから、今日は牛肉のお料理を伺ひたいものです。

夫人『牛肉のお料理にはいろいろお心得になるべき事がありますね。

記者『左樣でせうネ。我我は何も知らずに牛肉牛肉と云つて買つて居ますが、委しく伺つたら色色な經濟法がありませう。先づ第一に伺ひ度いのは我我が牛肉を買ふ時、下女を牛肉屋へ走らせて、ロースの肉を一斤くれとか、上等を一斤くれとか云ふと牛肉屋で薄く切つてくれます。切つてあると臺所の者は世話がありませんけれども、あれは全體小さく切つたのを買ふのが德用でせうか。それとも一斤丸のまま買つた方が德用でせうか。

夫人『それは丸のまま買つて、臺所でお切りになる方が德用です。牛肉は薄く切ると大層目方の殖えるもので、一斤の肉を切ると一斤よりも餘程多くなります。牛肉屋では小さく切つて賣る方が德ですけれども、買ふ方では損です。

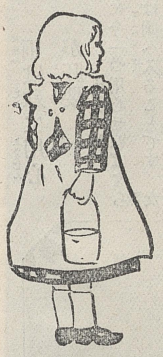
記者『同一牛肉を買つても大層硬いのがありますし、時に依ると柔い處が來ることもあります。あれはどう云ふ譯でせう。

夫人『第一に肉が新しいと硬いものです。牛肉は屠つてから五六日過ぎた處でなければ、肉が弛んで了度好い食べ頃になりません。屠つたばかりの肉をよこされたら、何んな上等の處でも必ず硬いものです。

記者『さう云ふ時にはどう致しませう。

夫人『二斤か三斤の大切れの儘ならば一日か二日置くと肉が弛みます。小さく切つてある肉で、その日に食べるのなら、酢をかけて半日ぐらゐ置くと柔かになります。

記者『酢をかけて置くと柔かになりますか。早速試みませう。併し肉の新しいばかりでなく、牛に依つて硬いのと柔かいのとがありませうネ。





英國ヲックスホウド大學總長カアゾン卿

夫人『若い牛肉は柔かですけれども、年取つた牛は肉が硬いものです。牝牛は柔かですけれども、牡牛は硬くつていけません。また同じ牛でも勞働させた牛の肉は硬いものですし、幾に育つた牛は柔かでございます。それで年取つた牛とか、勞働に服した牛を屠つたのでは、決して味の好い肉は取れません。

牛肉の手輕料理は如何にするか

記者『私どもは何でも手輕に致しますが、牛肉の手輕料理で美味しいものは何でせう。

夫人『鍋で煮るのやスキ燒は誰でも御存知でせうが、スキ燒も、上等のバターを引いて燒くとヘツトなんぞより味が宜うございます。それに世間のスキ燒は多く醬油を鍋の中へ入れますが、別の皿へ食鹽ト西洋ガラシとを溶き混ぜて置いて、一旦バターてスキ燒にした肉をそれへつけて食べるとさつぱりして居ります。

記者『スキ燒にもいろいろの法がありますネ。まだそんなお料理がありますか。

夫人『燒き肉と云ふものは、牛肉の中でも極く柔かい脊中のロース肉とか、腰のラン肉とか云ふ處を薄く切つて。兩面へ生醬油をつけて、網の上で燒きます。牛肉の葛叩きと云ふのは、手輕で味の好いものですが、それは上等の葛を粉にして、牛肉の兩面へビシヤビシヤと叩きつけます。その上から醬油をつけて、網の上で燒きます。

記者『それも矢張り薄く切つた肉が宜いのでせうネ。葛のない時は外のものを用ゐても宜しうございますか。

夫人『いいえ、これは葛の粉に限ります。葛でなければ好い味が出ません。

記者『私どもでは牛肉の味噌汁を拵へますが、これもなかなか結構ですネ。

夫人『牛肉を味噌汁の實になさるなら、上等の肉より

も却つてイチボなんぞと云ふ直段の安い硬い肉を買つて、それを小さく切つて一時間以上も煮ると、汁も實も雙方ともに美味しくなります。煮上つた時何か青みの物を入れて出しますと、何杯でも食べられます。

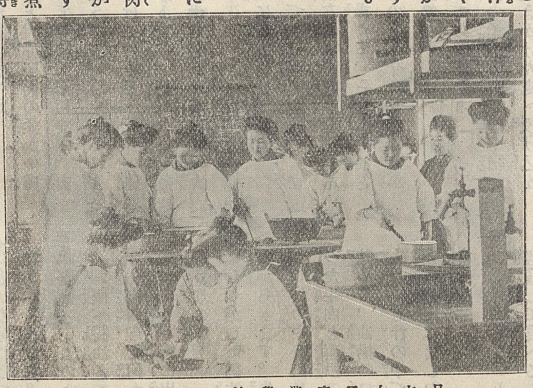
牛肉の日本料理は如何にするか

記者『牛肉は色色な日本料理になりませうネ。

夫人『何にでもなります。牛肉を茶碗蒸しにするのは柔かい肉を薄く切つて置きます。別に鰹節の煮汁で椎茸を煮て、椎茸が柔かになつた時醬油と少しの味淋とを加へて、少し辛めに味をつけて置きます。それを一旦火から卸して、よつぽど冷めたところで、一人前に玉子一つを混ぜます。蒸し茶碗の方へは前の牛肉と三つ葉でも、うどでも時の青みを入れて、今の汁を加へます。それを蒸籠なら上等ですし、御飯蒸しの中へ入れて蒸しても美味しい茶碗蒸しが出來ます。

記者『茶碗蒸しはどうかすると玉子にスが立つて固くなつていけませんネ。

夫人『それは蒸し過ぎるからです。蒸し加減に注意しなければいけません。



日本女子商業學校の割烹實習

記者『外にもまだそんな御料理がありますか。

夫人『牛肉のソボロと云ひますと、赤い肉の柔かい處を俎板の上でトントン叩いて、細かくします。肉挽器械があれば挽くのが宜うございます。それをまづ鍋でカラカラに炒りつけて、そこへ醤油と味淋で味をつけてもう一度炒ります。別に大根を煮て置いて、その上に今のソボロをかけて出すと大層美味しいものです。

記者『それは大根の上へかけるに限りませうか。

夫人『いいえ、八つ頭の煮たのでも、蕪でも何でも宜しうございます。一番結構なのは薩摩芋を拍子木に切つて、一旦胡麻の油で揚げて、それを醤油と煮汁と砂糖とで煮ます。その上へ今のソボロをかけると大層味が宜うございます。

記者『牛肉を御飯へ炊き込む事もありますネ。

夫人『牛肉飯と云ふのは赤い肉の柔かい處を極く細かく切つて置いて、櫻飯の吹きかけた處へ投げ込んで、お椀へ移す時よく混ぜます。これは溫かい中に食べなければいけませんし、お菜には豆腐汁が宜うございます。

記者『櫻飯といふのは。

夫人『御飯へ醤油とお酒を入れて炊くのです。

記者『牛肉料理で何か風變りな物はありますまいか。ちよいとお客に出して、これはこれはと驚かせるやうなのは。

夫人『むづかしい御注文ですね。それではかう云ふものがあります。先づ油揚げを二つに切つて、一つづつ袋のやうにして置きます。その中へ細かく切つた牛肉と蓮根の刻んだのと、木クラゲなんぞを詰めて、油揚の口を木綿絲で縫ひます。それを美味しい煮汁の中で一時間も煮て、絲を拔いて溫かい處を出しましたら、一寸風變りなお料理になりませう。

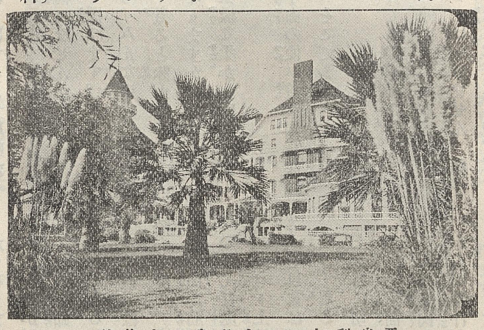
記者『成程、ちよいと見ると油揚の煮たのかと思つて輕蔑して食べると、中に美味しい牛肉があると云ふ趣向ですネ。これは早速試めしませう、煮汁の方はやつぱり鰹節を煮出して、醤油と味淋で味をつけますか。

夫人『それでも宜うございますが、スープがあればそれに醤油と味淋で味をつけるとなほ結構です。

牛肉の西洋料理は如何にするか

記者『牛肉の西洋料理で、極く手輕な美味しいものはありますまいか。私は牛肉のシチユーが大好きですが、あれはどうして拵へませう。

夫人『シチユーは極く德用なお料理です。なぜと申すのにシチユーにする肉は牛肉の中でも一番直段の安い處で胸先の肉のブリスケと云ふ部分でも出來ますし、腹の肉のバラーと云ふ處でも出來ますし、腰の肉のオチボと云ふ處でも出來ます。シチユーにはロースやヒレの樣な上等の肉を使ふと却つて味がありません。上等の肉は永く煮ると筋張つていけないものです。



亞米利加ヨロナド島の大旅館

記者『オヤオヤさう云ふものですか。私は上等の肉なら何にしても宜いと思ひましたが、シチユーには却つていけませんかネ。今の何とか云ふ肉は直段の安い處ですか。

夫人『ブリスケが一番安い處で、その次ぎはバラー、其次ぎはオチボです。ブリスケはシチユーにするか、ボイルにするより外に使ひ道がありません。

ん。もしも鍋煮にでもしたら硬くつてとても食べられません。その代りシチユーにすると大層味が出ます。

記者『シチユーには硬い肉でも構ひませんか。

夫人『シチユーには態態硬い肉を擇びます。ブリスケでも、バラーでもイチボでも、みんな牛肉の中の硬い部分です。硬い肉を永く煮ると味が出るので柔かい肉は却つて味がなくなりますから、ロースとかヒレとか、ランとか云ふ樣な柔かい處はシチユーに適しません。

記者『そんな譯のものですか。牛肉の使ひ道を知らないと飛んだ損を致しますネ。そこでシチユーの拵へ方はどう致します。

夫人『先づ手輕な法はブリスケ肉でも、バラー肉でも一寸四角の大きさに切つて、水から二時間ほどゆでます。決して強い火を使つてはいけません。弱い火で氣長にゆでます。二時間ゆでた處へジヤガ芋と人參と玉葱なんどを入れて、鹽で味をつけてから、また一時間煮ると牛肉が丁度好い鹽梅に柔かくなります。そこへメリケン粉を水で溶いて加へると汁がどろどろになりますから、もう少し煮て火から卸します。

記者『してみるとみんなで三時間以上かかりますネ。永く煮るほど好いのですか。

夫人『いいえ、あんまり永く煮過ぎると一旦柔かくなつた肉が筋張つて來ますから、シチユーは丁度肉の弛んだ處が肝心です。

記者『モット上等のシチユーはどう致します。

夫人『それにはバラー肉と云つて、赤い處と白い處と交つて居るのが宜うございます。それを一寸四角ぐらゐに切つて、先づフライ鍋でバターを溶かして肉の兩面をジリジリといためます。よくいためたら一旦肉を出すと、鍋へバターの溶けたのや肉から出た汁が殘りますから、また少しバターを足してメリケン粉をよく搔き廻しながら黑くなるまでいためます。

記者『メリケン粉を何のくらゐ入れます。

夫人『バターが大匙一杯あると思つたら、メリケン粉も大匙一杯ほど入れます。それをいためるには極く氣長にしなければいけません。火が強いと焦げますから弱火で十分間以上もいためます。それから本式ならスープを注しますが湯でも構ひません。湯を注したら鹽と胡椒で味をつけて、ソース鍋に移します。それから前の肉を入れて二時間煮た處へ野菜を入れて、また一時間煮ますが、上等にすると、野菜は別にゆでて置いて、今の鍋の中へ入れます。



ちひさきとげ

記者『それはさぞ美味しいでせう。シチユーには折折葡萄酒を入れたのがありますネ。

夫人『それは腰のイチボ肉を煮るのです。それにはイチボ肉を小さく切らずに、三斤ぐらゐの大切れのままフライ鍋でバターを溶かして兩面をいためます。それにはメリケン粉を前の通りにいためてスープを注す時、スープと葡萄酒とを等分に入れます。それを

ソース鍋に移して、三時間半から四時間ぐらゐ煮ます。**イチボ**肉は硬いのに大切れですから、前の**シチユー**よりも永く煮ないと柔かになりません。煮えた時肉を出して二分ぐらゐの厚さに切つて、煮た汁をかけて出すと、それはそれは味が好うございます。

記者『野菜はやはりゆでて入れますか。

夫人『いいえ、このお料理には野菜を入れません。

記者『前の手輕な**シチユー**へ葡萄酒を入れる譯にはなりませんか。

夫人『それは入れても宜うございます。手輕な方へは野菜を入れる時葡萄酒を少し加へますし、その次ぎの上等の方へは**ソース**鍋に移す時、葡萄酒を等分に加へるのが宜うございます。

記者『葡萄酒はどんなものが宜いでせうか。

夫人『**シチユー**に入れる葡萄酒は純粹の生葡萄酒でなければいけません。

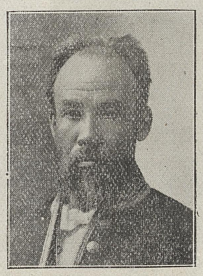
記者『市中にある葡萄酒は大概混淆酒で、純粹のは滅多にありません。お宅ではどんなのをお使ひになりますか。

夫人『日本製なら越後の菊水葡萄酒を使ひますし、舶來なら伊太利の**キヤンチ**葡萄酒を使ひます。

記者『難有うございました。早速葡萄酒入の**シチユー**を拵へて見ませう。

習字はどうすれば上手になれるか

御歌所寄人　坂　正臣



如何したら字が上手になるかと云ふ問題を解決することはたやすいことです。即ち忠實に習ふのです字が上手になつたといふのは、つまりよい手本をよく眞似る習慣がついたので、習字は、詩歌や繪とは異つて自然を手本とすることが出來ませんから、人の書いたものを手本としなければなりません。例へば詩を作り歌をよむには、その言ひ顯す方法こそ稽古しなければなりませんが、精神に至つては決して人の眞似をすべきものではありません。皆おのれが思ふことをのべるのです。即ち事に觸れ物に當つて、嬉しいとか悲しいとか感ずる自然の情を手本として作るのです。繪にしましても、はじめの內の筆づかひとか、彩色のしやうとか、風景でも人物でも、自然界に活きたお手本が幾らもありますから、それを見てそのままに寫しさへすればよいので、あながち古人の圖の通りにかかねばならぬといふことはありません。隨分自分の意匠を加へて新機軸を出すことができるので、常に宇宙間の森羅萬象に心目を注いで居れば、立派なお手本を得ることは自由であります。しかし書に至つては到底かういふ譯には參りません。天を見ても地を見ても、書のことはいさ知らず、この明治の世には、とんと習字の手本になる物が無いやうです。勿論、蛇が草葉の上を這ひ渡るのを見て、



カナダ、モントレル港

書法を發明した人もあるさうですが、それは筆勢上のことで、かたちではありません。ただ斯道に達した古人の殘して置いた筆の跡、即ち王羲之とか顏眞卿とかいふ人の字を刻苦して迎るより外に途はないのです。尤も手本とするには古人には限りません。現在の人でもこの道に妙を得た人が多くありますから、その筆跡を能く習へば、上手になります。

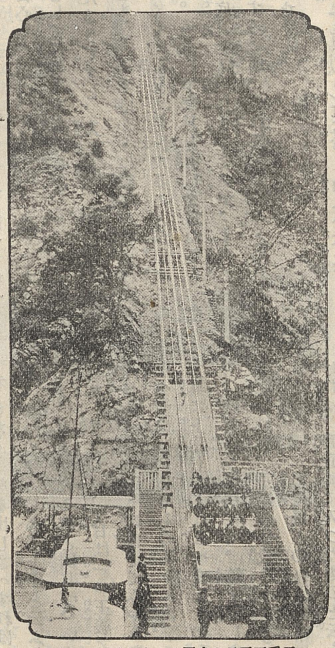
習字速成の唯一の方法

方今の世は學問も多端でありますから、速成の法を講じて少時間に多くの藝術を修得せんとするのは、さもあるべき事ですが、習字などは何分にも手先の仕事で、前にも申した通り習慣的のものですから、耳目によつて、さとつたばかりでは、所謂心手應ぜずの憂があります。それゆゑ、なんでもかんでも長い月日をかけて習熟せねばなりません。

數年前のことですが、京都から橫井北泉と云ふ老僧が參られて、加茂の書博士の家に傳はつてをる入木道と申して、「弘法大師の十二點畫」といふものを、多くの人に授けた事があります。この十二點畫と云ふのは、永字八法などのやうなもので、「一」とか「丶」とか十二種の點畫を擧げて基本的筆法を授けるのです。そしてその第一畫たる「一」の字の練習だけでも、本當に學ばうとする時は、三年を要するさうですが、今時そんなのんきな稽古事をする人はありませんから、極めて速成的にその法だけを授けるとのことで、侯伯縉紳の方方もこれを引立てられましたから、私もその法を受けました。その時ことごとしき誓約書などまで書かせられましたが、今は全く忘れて、秘密法もまた傳へてくれた人へ返納いたしました。幾日かの間習つて得る所のなかつたのも、つまり速成を期したからで、習熟の勞を積まない時は如何なる妙法を授かるも無益です。諸彙に「ゆるし」といふことがありますが、習ふ人の力量がその度に達してこそ、始めて師も許し弟子も許さるべきもので、この節のやうに弟子はむやみに早くゆるしを受けやうと思ひ、師匠もやたらにゆるしを受けさせたがる風があるのは笑ふべきことです。一點一畫にも三年の長日月を費し、そして撓まず倦まず研究を續ける程の熱心と勇氣とさへあれば、よしや弘法大師つ秘法を授からないても、立派に上達する事が出來ませう。

熱心の人は遂に上手になる

今申した通り速成法が實際上、著しい効驗があらうとは、到底信ずることは出來ませんが、人人に依つて上達に遲速のあるのを見ると、幾分か速成的の方法がなければなりません。勿論、人人の天稟にも依りませうが、つまりは、專心一意、手本に忠實で、何時までも倦まずに勉強する人は、速く上達する樣です。何を試みても上手だと云ふやうな多面的の才子よりも、外界から刺戟を受ける事の少ない聾者などの方が、却つて孜孜として、倦まずに精勵しますので、早くその蘊奧に達するのを見ても、速成の唯一つの方法は、精勵にあるといふことが分ります。



三千五百百尺の来國ラウ山を登る輕便鐵道

上達の三大要件

よい手本によつて習ふこと、手本に忠實で熱心なこと、多くの字數を習ふこと、この三つは上達に必要な三大要件とも云ふべきもので、その他は皆これを助けるための附帶條件に過ぎません。繪でも書でも古來名匠の苦心した點は、この三つにあります。

近代の書伯として有名な冷泉爲恭なども「〇」ばかり三年も書いたさうですし、入木道に秀でられた近衛忠熙公などは「一」の字ばかりに數年を費されたさうですが、かくして初めて名匠たることが出來るのでありませう。一畫三年などと申しましたなら、今の代の人は到底耳をも假しますまいが、すべてその道の蘊奧に達するには、これほどの熱心と用意とがなくてはなりません。

手本を眞似して書く中は未熟

諸曲を習ふのには、まづ第一に良い師匠を求めて、幾度もその謠を聽いて、自分もそれに連れて謠ひ試み、充分な習熟を經て、もう單獨でも師匠と同樣に謠へると云ふやうにならなければなりません。師匠の曲節に似せやうだの、今日こそは間違はずに謠つてみやうだのと思ふうちはまだ未熟なのです。何の考もなく、聲を出しさへすれば、その曲に適ふやうになつて、はじめて上手と云ふべきものでありませう。書もまたこれと同じで、いくら自分では上達したと思つても、今日は一つ王羲之に似せて書かう、今日は子昂の通りに書いてみやうなどと一生懸命になつて、はじめてその通りに出來るのでは、まだまだ眞に上達したとは云へません。全く手本を放れても、眼を瞑つて居ても、筆を下しさへすれば自然と羲之の妙處、子昂の佳致に合するやうに、手が殆んど無意識に動くほどの熟練を積んで來たのでなければ、到底神に入つたものと云ふことはできないのです。

とにかく習字は一の技術であつて、他の技を眞似するものでありますから、習熟の上にも習熟を積むことが最も必要です。

輕蹴に數十枚習ふよりも、注意して二三枚を習ふ方がよろしいけれど、しかし注意して多くを習ふに越したことはありません。

私は、繪でも書でも、これはと感じたものがあると、事情の許すかぎり、臨摸するとか、影寫するとかして、保存して置くことにして居りますが、これもまた必要な方法であると思ひます。

初學者は如何なる書體より入るべきか

初學者は如何なる書體から習ひ初めるべきかと云ふことに就いても、近來は種種の說を立てる人があるやうですが、正則の方法としては、假字ならば片假字から始めて知らず、眞に書法を學ぶ上から云へば變則です。



瑞西セネバ市ヌーブ宮殿

平假字、變體假字といふ風に進み、漢字ならば楷行草の順序に進むのは、古來書家の唱導するところでもあり、また最も適當なやうです。簡より繁に入り、易より難に進むのは凡てのものに通ずる原則で、比較的變化の單純な楷書から始めて、順次、行草に移ると云ふのは、まづ正則でありませう。楷書にも草書にも近いから、中間の行書から始めるがよいといふ人もありますし、最初に筆力を伸ばす必要があるから草書から始めるのがよいといふ人もありますが、單に行と草とを交へて書く手紙の樣なものを習熟するのが目的ならばいさ

しかし、その時代によつては、字體にも必要なものと不必要なものがありますから、その時は先つ必要な字體から先きに習はなければなりません。總てのものを皆行書で書いた德川時代には、寺子屋でも御家流の圓い行書を習はせられたもので、普通一般の人は、楷書や片假字は習はなかつたものです。

どんな筆が最も書きよいか

筆はどんなのを用ゐたらよいかと云ふことは、常に初學の人から聞かれることでありますが、私は、あまり筆に好嫌がないので、どなたにも使ひ馴れたのを用ゐさせて、強ひて一定させるやうなことは致しません。しかし諺にある「能書筆を選ばず」と言ふことは、誰にても出來ることではないので、一般の人は、或る程度までは、選擇に注意をしなければなりません。即ち毛の短い筆は楷書に適してゐますし、毛の長い筆は、必要に應じて長くも短くも下すことが出來るから楷書にも行書にも宜いが、一般的に云へば、本まで下せば充分に墨汁を含むから、幾字も連續すべき行草を書くに適して居ます。また唐紙、書簽紙のやうな柔い紙に書くには、毛の剛い筆がよいし、西洋紙、短冊、色紙のやうな鳥子地の剛い紙には、柔い毛の筆が宜いとしてあります。

字は、すべて如何なる紙に書いても、木に書いても、羊毛の柔いのを充分に使ひこなして書いたのが最も味がありますけれども、この羊毛を充分に使ひこなすと云ふことは極めて容易ではないので、少くとも初學者には困難なことであります。

日本の墨と唐墨とは何れがよろしか

日本の墨がよいか支那の墨がよいか、これも同じく一利一害は免がれません。日本の墨は日本の紙に書くのには最も適して居ます。奉書に唐墨で書けば、しらけて墨色が出ませんし、木などに書けば雨水の爲に早く消えたりします。一體唐墨はあまりに滑かで柔かいものでありますから、少しく質の緻密な硯では、すべつて容易に濃くなりません。また膠着することも強く、硯を傷けることが多いから注意せねばなりません。しかし日本の墨に較べると非常に廉價て、且つ色澤の美しいといふ特長があります。

晩學の人も上達すべし

要するに私は、如何にせば速く習字に上達すべきかと云ふ事に就いて、まだ新しい發明が出來ないので、やはり古人の行つて來た通り、善良な手本を、忠實に熱心に且つ數多く習ふのを以て、上達の秘訣、否公法と信じて、常に自からも孜孜として行ひ、人にも勸めて、他日の大成を期して居ます。

前に申し殘しましたから、ここに附言しますが、これまで甲先生の書を習つて居た人が何か事情のために



高島屋呉服店製の刺繍

乙先生の書に習ひかへるといふやうな場合には、別して繁繁と習ふことが肝要です。一日あたためて二日冷して置くやうでは、いつまでも前の書風も除かれず後の先生の流にもなられません。習字するには、五日目七日目などに、二時間も三時間も習ひつづけるよりは、毎日二十分間宛でも必ずかかさずに習ふ方が有益てすそれから習字は外の藝とは違つて、隨分晩學でも進歩します。決して年を取つたからと言つて、失望するには及びません。固より幼少の時からするにしくことはありませんが、餘り子供の內は進みが見えません。十五六歳以上になつてから能く進むやうです。人情を解し容貌を飾らうとする頃になると、藝術の花も心裏に開き、薫を筆頭に輸現する譯かと思はれます。

小兒の夜泣き

醫學博士　加藤照麿

小兒のうちには、夜になると烈しく泣き出して、幾らなだめても止まぬものがあります。これは母親の隨分困るものですが、小兒の夜啼くのは何か異狀を感ずるからで、極めて健康な小兒は、空腹のためか、又は小便でも出て氣持の惡いための外は殆んど啼きません。普通の小兒は消化不良のために啼くことは隨分多いが、それは時間が一定しないで、時時啼くのです。所謂夜啼きと云ふのは如何なる狀態かと申しますと、夜一定の時刻になると、三十分間乃至一時間啼くのです。それも大抵就眠後三四時間經てからが多うございます。夜啼きは生後何ケ月目ぐらゐから何歳ぐらゐまであるかと申しますと、生れて後二三ケ月は所謂無我夢中で、ボンヤリして何も感じませんが、六ケ月以後滿二歳ぐらゐまでは夜啼きに罹ることが多いのです。

◎夜泣きは如何にして起るか

夜啼きは神經性のものとなつて居ますが、或は一時性の發狂狀態だと云ふ說もあります。併し腦の發育を害するとか、又は成長してからもその害が殘るとか云ふ程のものではありません。如何なる原因で起るか分らない場合が多いのです。尤も時としてはその原因が分ることもあります。例へば(一)子供に茶、咖琲の如き興奮劑を飮ませたために夜啼きを起したこともあります。また(二)晩餐に澤山食べ過ぎて間もなく寢るために罹ることもあります。或はまた(三)夜化物の話など聞かせたために起ることもあります。世間では能くあることですが、小兒が容易に眠らないと、恐ろしい化物の話などを聞かせて、恐いから早く眠なさいと云つて無理に夜具を被せたりなどすると、夜啼きに罹つて大層母親を困らせるものです。それから(四)子守が廣告屋の奇妙な風をしてドンドンガチヤガチヤ囃し立てる後を長く附いて往つたり、猿廻しが來たのを長く見て居たりなどして、小兒の頭を刺撃するために起ることもあります。また(五)活動寫眞などで、悲慘な恐ろしい物を見たために起ることもあります。それですから親たる者は深く注意すべきことです。

◎夜泣きは如何に手當すべきか

夜啼きが右に述べた樣な事から起ると云ふことが分つたならば、その原因を除くことに勉めて、成長するまでは再び繰返さない樣に注意して、靜かに養育するのが肝要です。



腸が惡いために便泌して夜啼くのならば、先づ下劑を與へて治療し、また腸加答兒のためならば、それを治療し、胃病のために啼くのならば、早速胃を治療することが必要です。殊に腸加答兒の場合には、寢床に入る前に半身浴をさせるのは尤も宜しい。半身浴をさせると、大抵安眠するものです。それからまた貧血症のために夜啼きする樣ならば、醫師に相談して治療を受ける方が宜しい。また原因が分らないで、所謂神經性的に激しく啼くならば、醫師に鎭靜劑を貰つて飮ませると、落着い

て靜かになります。

◎夜具の懸過ぎは最も悪い

夜啼きは前に述べた通り、毎夜一定の時刻に必ず啼くのですが、茲にまた夜着をかけ過ぎたために啼くことがあります。私の實驗した所では、薄着に失したためには無くて、皆厚着に過ぎたために夜啼きして困るのが多いです。他に何か原因も無くて、夜時時啼いて困りますと訴へられるから、それなら夜具は如何ですかと聞いて見ると、果して多過ぎる。そこで、一枚減じて御覽なさいと勸めて見ると、皆夜啼がなくなつたと言はれます。子供の可愛い餘りに、却つて最貧の引倒になるのです。

◎夜間驚怖症とは如何なるものぞ

小兒が夜間突然啼き出して、或は突立ち上り、何か物を言つたりなどすることがある。これは即ち夜間驚怖症と云ふので、夜啼き以上です。それは惡夢に襲はれる結果で、滿三歲以上十三四歲までにあることです。十四歲以上になると止んでしまひます。この夜間驚怖症は、五分か十分で氣が附き、一旦眼を覺ましてまた眠るものです。

夜間驚怖症の起る原因は、夜啼きと同一で、ただそれの烈しくなつたのです。學校で教師にひどく叱られたために、夜間その夢を見て起すこともあります。だから敎員などは餘り生徒を過酷に叱るものではありません。それからまた悲慘な話を聞いたり見たりして起ることがあります。或はまた鼻加答兒、中耳炎等に罹つたために起ることもあります。ですから鼻加答兒や中耳炎をそのままにして置いてはいけません。必ず速に治療すべきものです。

夜間驚怖症を治療するには、夏季ならば冷水摩擦が最も有効です。冷水摩擦は滿五歲以上ならば行つて宜しいのです。

家庭の重寶

御實驗の上、家庭に重寶とお思ひになりましたことは、御遠慮なく御投稿下さい。有益と思はれるものは、本欄にかかげて、相當のお禮を差上げます。

アルミニユームの器物を磨く法

山口　藤井つね子

アルミニユーム製の器物を磨くには、軟かい布をぬらして、石鹼をつけて磨けば、疵がつかない上に、非常に美しくなります。

薄板に孔をあける法

横濱　進　とみ子

薄板に孔をあけるには、錐のさきをぬらしてもむと、板の破れることはありません。

鮒を軟かく煮る法

石川　北村すみ子

鮒を煮るには、熱い湯のなかへお茶を少し入れて、その中で煮ると、大きいのでも小さいのでも、骨まで軟かに食べられるものです。

手輕料理錦木の製法

大阪　山下彌世子

松魚節のかいたのと、大根おろしと、淺草海苔をあぶつて細かくもんだのをまぜて、適宜に醬油をさしますと、即席にお酒のお肴ができます。このお料理を『錦木』と申します。

鱈を軟かに煮る法

河内　花光ふみ子

鱈を煮る時、餅を入れて煮ますと、何日たつても堅くなることはありません。

空氣枕の古くなつたの

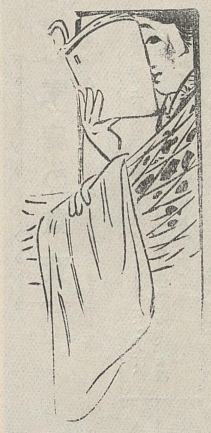
福岡薄　常子

空氣枕の古くなつて使はれないのは、水仕事をする時の下駄の鼻緒にしますと水をはじいて重寶です。

足袋の洗ひ方

芝　坂上早苗子

足袋を洗ひますには、平らな板の上で、ブラシでこすりますと、地質を傷めず、よく落ちます。



實業之日本社 買物代理部の發展

前回取次ぎのアメミルク外二品は非常の好評にて、何れも已に其の定數に達したり。今回更に左記の品愛讀者諸姉の御便利を計り、各發賣元と特約の上、各一千口を限り、特別の廉價を以て取次ぎ申すべし御希望の方は至急申込あれ。

一クラブ洗粉　新製鑵入壹個　特價送料共壹圓
大袋入壹打添
但臺灣樺太滿韓地方は送料として貳拾錢を申受く

一クリームローヤル（練白粉）　特價二品送料共壹圓
一ブートルローヤル（粉白粉）
但臺灣樺太滿韓地方は送料として貳拾貳錢を申受く

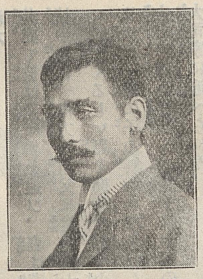
一小兒用丸ボーロ（二斤半入）　特價壹圓
滋養菓子　送料（內地十六錢臺灣樺太滿韓四十錢）

一小兒用アメミルク（半打）　特價壹圓七十錢
送料（內地二十八錢臺灣樺太滿韓五拾錢）

東京京橋南紺屋町十二番地
郵便振替貯金口座三二六番
實業之日本社代理部

小說　思ひ出

三島霜川



庭の泉水に臨むだ椽に腰打掛けた大司子爵の令嬢麗子は、自分と少し離れて、外方を向きながら佇んでゐる若い學生に向ッて聲を掛けた。

「は、有難う。」と學生は令嬢の方を向いて、

「いや然うしてはゐられませんです。學校の始まる前に、少し遣ッて置かんけりやならぬこともありますから。」

「然うしますと、何時の汽車でお歸りになりますの？」と訝えた涼しい聲である。

「慥何です。四時二十何分といふのがありましたから、其で歸らうと思ッてゐます。」

「おや、尚だ、そんなにお急ぎなさることはありませんわ。緩りなすッても可いでせう。」

學生は其には答へずに、「併し貴方も、直きにお歸りになるのでございませう。」

「さあ、何うなりますか。」と些ッと考へて、

「父次第なんですけれど、私なんかもう學校へ參るのぢやなし、是ぞと極ッて爲なけりやならないこともないんですから、孰にゐても同じなのですけれど……もう爰へ來てからも餘程になりますから、悉皆厭きて了ひましてね、時時東京が懷しくッて懷しくッて、ならないことがあるのでございます。」

「そんなら、早くお歸りなすッたら可いぢやありませんか。」と學生はニヤニヤ笑ッてゐる。

「でも私、本邸へ歸るんだと思ふと、何ういふものか氣が引立たないで、厭アになッて了ふんですの。」

「妙ですな。」

雖然學生は麗子が東京へ歸るのが厭でならぬ理由を好く知ッてゐるのであッた。麗子は今年二十になる。自體麗子は妾腹であるのに、大司の奥方といふのは、同族間でも有名なムヅカシ屋で、其が爲に麗子は、生れ落ちると直に、實母と共に舊藩なる中國筋の或る片田舍に送られた。而して不幸なる母は、夭死して、其の後は祖父夫婦の硬ばッた手に淋しく育てられた。

其處で彼は秋は鶉を追ひ、春は蓮花草を摘み、冬は爐の邊に、母方の祖父に當る武士氣質の爺が教訓めいた堅くるしい話を聞きながら少女となッた。然るに大司子爵に子の無かッたといふことは、彼女に多大の幸運を齎して、麗子は十五の春といふに改めて大司家に迎へられた。

子爵が、麗子を呼迎へられた時も、夫人は非常な反抗て、一時は逍の子爵も、其の勢に僻易された。雖然其の意見は遂に徹らずに了ッて、田舍育の麗子が子爵家へ乘込んで來た以來といふものは、さなきだに餘り睦まじからざりし子爵と夫人の間柄は、殆ど極端に冷になッて、下下の召使まで自づと二派に分れ、一は子爵と令孃とに黨し、一は夫人に黨せんとする傾が瞭瞭と見えてゐる。此のとばちりを眞向に向けてゐるのは麗子で、麗子は此の間に立ッて何程苦しい思をしてゐるか知れぬ。て學生は、今麗子からこんな事を聞くと、何となく哀れにも感じられる。何うかして一言なりと心の慰むやうなことを云ッても遣りたいのだが、其も何うやら氣後れがして變な工合である。

學生は畠野達也と云ッて、麗子が尚ほ田舍にゐる時分、机を並べて祖父から讀書習字などを教へられた所謂振分髪の稚な友達であッた。其が其の後東京に遊學して、今では大學の法科に籍を置き、舊主といふ關係から、時時子爵家に出入して、時に子爵に目を掛けられてゐるのであッた。それて此の鎌倉なる子爵の別莊に、暑中のお伺かたがた出掛けて來たの



てある。

午後の日光は嚇々と照付けてゐるが、樹立が深いので、庭には蔭が多い。其處らに蟬が喧しく啼立てて、綠濃な樹立の中から湧起る風は、酷烈な熱氣を冷して、玆許へ肌觸の好い涼風を送る。別莊の晝は寂として、恰で大きな寺院にでもゐるかのやう。

麗子は暫くしてから、「ですけれども、爰にゐるのも全く厭き厭きして了ッたんですよ。近頃まではお友達や何ぞが會には來て下さいましたから、そんなに淋しくもなかッたんですけれど、然う皆さん、私のやうにお閑はありませんからね、是からは遊びに來て下さいッたッて、誰方も來ては下さいませんし。」

「併し結構ですな、何も爲ることがなくて無聊に苦しんで居らッしやるなんて。私は、寧ろお羨ましいですな。」

達也は爲方がなし、そんな事でも云ッて笑ッてゐる。

「まあ、あんな氣樂なことばかり、」と麗子はチラと達也を流眄に見遣ッて、「貴方はそんなにチャカして居らッしやいますけれど、私全く愁いんですわ。」

「然うですかな。」

平氣らしく云ッたが、達也の胸は却却平氣ではあり得ない。一昨日の午後、始めて訪れた時の取澄した樣子とは、打ッて變ッた今日の麗子の調子。其さへあるに、昔は知らず、今は身分も遠く距ッて、東京にゐてはお互に碌碌挨拶さへ出來兼ねる事情になッてゐるのに、恁うした胸の苦しみまでも、其とはなしに仄めかされると、漫に少年時代の種種な追憶が、幻のやうに胸に閃いて、ふとすると心が躁ぐ。

「まあ私は何を申してゐるのでせう。」と麗子は今までの沈んでゐたのに引替へ、急に匝匝した聲で、「こんな充らないことを貴方に云ッて……全く貴方の仰有る通りですのね。餘り爲ることがないものですから、自然些としたことまで氣になッてならないのでございませうよ。然うね、歸ッた方が可ございますわね。こんな所に何時までゐるのは全く馬鹿氣てゐますわ。」

「併し何ですな……」と達也は返答にまごついて「いや、私は決して、貴方の御煩悶をお察し申さないぢやないので。少しは耳に挾んでゐることもありますから、貴方が何故東京にお歸りになるのをお厭なさるかに就ては、充分の同情を有つてゐる積りです。」

麗子は美しい眉を少し顰めると、「もうそんな話は舍さうぢやありませんか。煩悶も何もありやしませんわ。皆私が我儘だからですの。少し怺へる積りなら何でもないのでございますよ。意氣地がないと申して、私まあ何うして恁う意氣地がないのでせう。」

と吻とする。樹立を漏れる日光が、ふッくりした、色白な顏に、パッと閃く。麗子は、睫の長い、パッチリした眼を瞑るやうにして傍を向いた。

達也は返す言葉もなく、默つて麗子の橫顏を眺めてゐる。

「畠野さん。」と麗子は思出したやうに、「貴方東京へ出て入らしッてから、國へは度度お歸りなすッたでせうね。」

「いいえ、僕一度も歸りません。」間の意味を怪むが如くに達也は簡短に答へた。

「まあ一度も……御上京なすッてから幾年にもなるぢやありませんか。」

「然うです。京都から此方へ轉校してから、倘だ一度も歸省しませんので。時時酷く故郷が懷しくなッて、今にも飛んで行きたいやうな氣もしますが、其ても凝と我慢して今まで怺へて來たのです。久し振で一遍行ッて來たいと思ひますが、歸れば自然昔のことが憶出されて、却ッて悲しみの種を蒔くやうなものですからな。」

心なしにや、然ういふ達也の言葉尻は慄を帶びたやうに。麗子も其に動かされてか、幾乎した眼容で凝と池の方を眺めたが、何時か首も俛れて自分の足元をのみ瞶めてゐた。

達也は腕組をしながら其の邊を彼方此方と步出す。

麗子の眼は急がはしく其の姿を追ッてゐたが、衝と椽から起上ると、自分も靴脫を下りて歩き出す。

「考へて見ると、田舍に居りました頃が一番面白うございましたわね。」と麗子は呟くやうに云ふ。

「いや、私にしても矢張同じことですよ。私なぞは那の時分、隨分慾しい境遇にゐたのですが、今から思へば懐しいですな。苦しい中にも、何とも云へぬ甘い思出がありますもの。私は東京へ出てから、尚だ一度もあの時分に感じたやうな、眞の愉快や滿足を感じたことはありません。」

「私も然うなんですわ。那の時分はお肛の中に些とも蟠りといふものがありませんでしたからね。」

「併し貴方なんかは可いですよ。」と達也は意味ありげに笑ッて、「何不足のない境遇にお在なさるんですもの、そんな事をお感じなさる譯はないでせう。」

「まあ」、と麗子は淋しげに笑って、「貴方も矢張、私の申すことを本氣になって聽いちや下さらないのですね。それぢやまるで、今貴方が仰有ッた言葉と違ってゐるぢやありませんか。私、貴方を信じて居りますから、こんな事も申すのですわ。」

達也はドギマギして、「然う眞面目に取って下すッちや困るので、何の氣なしに云ッた事なのです。私は決して世間の口に雷同して、貴方の御境遇を羨みもしなければ、また貴方を好運だとか果報者だとか思ッてゐる人間ぢやありません。今でこそ離れ離れになって、親しく物を云ふことも出來ず、慥うして貴方と向合になッてお話することなぞは、滅多とないことですが、私は決して昔のことは忘れはしません。だから慥う云ッたら、貴方は或は不快を感ぜらるるかも知れないが、此の世の中に最も貴方を好く知り、貴方の境遇に御同情してゐるものと申したら私以外に一人もないと信じてゐるのです！」

始は只の話の積であッたのが、何時の間にか、腹の底から湧いて來る強い感情を押へることが出來ず、つい深く胸に藏してあることまで、放心口へ出して了ッた。てあるから言葉は短いけれども言言皆熱誠

が籠ッて、達也の頬にはサッと美しい紅の血潮が漲ッた。聽いてゐる麗子も酷く動かされて、漫に胸の轟くを禁じ得なかッた。

折しも廊下傳ひに、小間使が此方を指して急いて來た。

「あのお嬢樣、御前がお召でございます。」

麗子は夢からでも醒めたやうに女の顔を眺めて、「何の御用なのだらう？」

「何でございますか、大層お急ぎのやうでございますが。」

小間使は怪訝さうに、麗子と達也との顔を見較べるのであッた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

其の日の夕方達也は市京へ歸ッて了ッた。淋しい別邸も、達也が來てゐる間は少しく賑かであッたが、其が歸って了ッた後は急に靜になって、今までよりも一層寂然したやうな氣持がする。麗子は氣拔でもしたもののやうになッて、客間になッてゐる西洋室のテーブルに凭れて、書架から手當次第に四五冊の新誌を引出して、見るともなく只頁を繰擴げてゐた。

麗子の胸には今尚へ難き淋しさが澁込むでゐるのである。何がそんなに淋しいのか、口へ出しても謂へず、自分にもハッキリ其と意識することが出來ないが、慥う遣ッて凝として考へてゐると、身は一刻一刻深い洞穴の底へでも引込まれて行くやうで、薄ら寒いやうな恐ろしいやうな心地がしてならぬ。是ではならぬと氣を激ませて、少しでも心の紛れるやう、花やかなこと、面白いこと、可笑しなことと、頭の中で種種と思廻すのであるが、直ぐ又考は元の所へ戻ッて、何時か凝と考込んでゐる。考へると云ッて、何も筋道を立てて考へる程のことがあるのでもないが——あるにしても頭が混亂してゐるから、つい纏がなくなッて了ふ——只妄と色色な事がこぐらかッて、其から其へと湧いて來るので、子爵のこと子爵夫人のこと、大司家に於ける自分の位地のこ

と、畠野達也のこと……

又しても麗子の頭の中には、達也の姿や、今日二人て語合ッた言葉などが憶出された。すると其に伴れて起ッて來るのは尚だ故郷にゐた時分の樣子。太い眉に眞白な頭髮、見るから恐ろしさうな風采には似もやらず、眼の中には熔るやうな慈愛の光を湛へて、何やら頻りと興じて物語り行く祖父の姿、一人は毬栗、一人はお下げの、尚だ肩揚も深い小さな背を並べて、凝と其を聽いてゐる少年、少女の姿。

つづいて、眼に映ッて來る現象は、トロトロと薄く燃えてゐる爐の火、其の火影の映る太い煤けた柱、三分心の薄暗いランプの火光——全て沈むだ、靜な夜の光景だ。其の靜さを破ッて、棲屋の裡で、鷄が、こ、こッ、こ、こッと啼いてゐたことまで耳に響いて來るやうに思はれる。其からまた、お下げと毬栗の兩人が、裏の淺い松林の中で、靜に春の鳥の啼く聲を聞きながら、何といふことはなく半日餘りも暮したこともあれは、初秋の畠に、芋の葉に水銀のやうに溜ッて、コロコロしてゐる朝露を零して歩いたこともあッた。また前の小流で笹舟を流したこともあれば、夕顏提灯をブラ下げながら、東の田に螢を追ッたこともある……

其や此やを思出すと、其の時分が戀しい！柔な心にのどかな空氣を吸ッて、其こそ穩な境遇に安かな人の世の夢を見てゐた。然るに自分は何うして東京に來て、此樣な窮屈な家庭に入ッたのであらう。と思ふと、何といふ因もなく種種な疑が出て來て、同時に、尚だ達也に何やら云ッて置かなければならぬことがあッたやうに思はれて、酷く心が咎出す。何だか自分と達也とは、もう二度と今日のやうに親しく語る機會がないやうな氣がして、何だか悲しくもあれば、殘惜しくもある。

考へてゐるうちに、フト、

「子爵家……然うだ、私は子爵の令嬢だ！」

恁う云ふ意識が麗子の頭の中に起ッた。今まで眼前にチラついてゐた幻が、突然消え失せて了ッたやうになッて、麗子は體乎した眼で、呟いばかりに室内を照してゐる空氣ランプの火光を眺めた。

然うだ、私は子爵家の令嬢である。自分の身分をも忘れて、私は今迄何を考へてゐたのだらう。昔は昔、今は今。現在此の地位にゐるだけの考を有ッてゐなければならない。幾ら昔が懷慕しいからと云ッて、其ばかりを思續けてゐるのは子供のことて、假にも分別のある者の爲すべきことではない。其では第一お父樣のお情を無にするやうなもの、また大司家といふ家柄に對しても濟まぬではないか。成程達也は自分の幼馴染で、國にゐた時分には兄弟よりも仲が好かッたけれども其が何であらう。那の時分は何にも知らなかッたからだ。知らなければこそ達也さん、麗子さんて遊んでゐたので、自分の眞ンとの地位に歸り、境遇が全く一變して了ッた今日となッては、間違ッた當時の境遇を追慕して何にならう。自分は正しく大司家の血統を引いた女性として、此の名譽ある家を相續して行かねばならぬ貴重な體である。

「私は大司子爵の令嬢だもの！」

麗子は儼乎と心に恁う叫んで少し肩聳てた。急に氣が伸伸とする……其處で靜に立起ッて、窓の方に歩寄ッて密とガラス戸を押した。向上げると、空は深沈として、樹立隱に美しい星の光は幽に胸を照らす。麗子は深く息を吸ッて、また熟と何やら考へ始めた。

（をはり）

『婦人の修養』　鳩山春子著

交際社會の花として、家庭教育の實行者として、令名內外に藹ける鳩山夫人が、十年の經驗を基とし、和洋にわたれる學識を傾けて書かれたのは本書です。男女の交際、食事の作法、衣服の注意、手紙の書方等を始め、趣味と實益に溢れたる記事多く、文章また流暢。讀し女子に關すゐ幾多の書籍中一頭地ん拔いたものでありませう。（神田裏神保町富山房、壹圓貳拾錢）

『淀　殿』　藤原濫柿著

濃柿園の大作淀殿の第三卷です。著者が椽大の筆ん揮つて淀殿の面目ん描ける所、豪壯また艷麗、近時雨後の筍の如く出づる小說の中、最に於ても質に於ても優れたものの一てす。（京橋區南鍋町塵文館、壹圓）

食物を噛んで子供に與ふるは何故悪しきか

ドクトル　志村誠麿

日本の習慣中にも悪い事は澤山ありますが、私の専門から見まして遺憾に思ひます事は、親が物を噛んで自分の唾と交ぜて柔かい團子にして幼き子供の口へ入れてやる事であります。子供は衛生も何も心得ませぬゆゑ、親の與へるままに喜んで食べます。これは誠によくないことです。何故なれば、親の歯に附着してゐる殘渣や不潔の唾液と混合して、過敏なる子供の口に入れるからです。一體殘渣や唾液の中には何十億萬と云ふ夥しき黴菌が居ります。此中には時として恐るべき性質の黴菌も居ります。さやうの場合には子供の柔かな口内に宿つて病氣を起します。また飲み込みました分は時として胃腸を害す事があります。

自分の口内の黴菌は自分の口を害さぬ

黴菌も自分の口内に居る分は、自分の口内には割合に害を與へません。これは口内の粘膜に習慣がついて居りまして、その黴菌に抵抗する力が強くなつて居るからです。さりながら一朝他の猛烈なる黴菌、たとへばチブス菌とか、コレラ菌とか、肺病菌とかが入つて來ると抵抗がむづかしいものです。

人の口内の黴菌は自分に害をなす

以上申します如く、自分の黴菌は自分には割合に害のないものですが、人の口内の黴菌が自分の口へ入ると害をなし易いのです。これは口内の粘膜が馴れて居らぬため、他人の黴菌に對して抵抗力が弱いからです。大人ですら斯樣でありますから、幼き子供の口内は猶更の事であります。『婦人世界』の愛讀者中には、斯樣の母上や姉上はない事と信じますが、御召使の内に、若しや不潔な齲歯だらけの歯で食物を噛んで大切の赤ちやんの口へ入れる者がないとも知れませぬ故、皆樣御注意になるが肝要と、老婆心のまでお話しいたした次第であります。



子供に與へるには何んなお菓子が良きか

序にお話し致しますが、子供には消化し易き菓子が良いのは勿論ですが、歯を強めるやうな堅い菓子も必要であります。私の子供に實驗しましたお菓子の中では、弦齋先生考案の和歌富士と云ふのがよいやうです。またお煎餅、鹽煎餅もよろしいです。この三品は皆一旦火で燒いてありますから、消化し易くなつてをります。のみならず、召上つても、さらさらと粉になり、唾液に溶け易く、また歯に附着しませぬから、歯を腐らせません。これと反對に、餅菓子や羊羹は、歯に附きまして、含嗽をしてもなかなか取れません。何でも子供には、自分の歯で丁寧に食物を噛むことを教ふべきです。他人が噛んであげる事は何れの點からも害あつて益はありません。

第四回懸賞習字當選披露

（應募總數千九百六十五名）

御歌所寄人　坂　正臣先生選

壹等當選……神田　鈴木みち子

貳等當選……美濃　木林はなか子
佐賀　大坪みつ子

參等當選……岐阜　伊藤郁子
神田　間中德子
名古屋　丹羽すゑ子
千葉　丸山琴子
岡山　黒瀬政子

選外優等

神奈川　吉田とき子　愛知　佐々木欽子　神田　吉田てつ子
赤坂高橋富子　福岡　内藤文子　名古屋　津村眞子
愛知加藤みよ子　鳥取　柳井せい子　岩代　佐竹梅子
京橋山脇みよ子　前橋藤崎貞子　八王子　加藤よく子
兵庫角波ふみ子　佐賀　前田梅子　須磨　有村繁子
鳥取大岩とき子　下谷　河西勝代子　神田　酒井富久子
八王子高瀬好子　麻布外池すみ子　名古屋　廣瀬都美子
滋賀早崎眞佐子　茨城　伊沼たか子　岡山　稻本千代ゑ子
神戸香川とみ子　岡山谷　久代子　神田　山本かつ子
美濃寮藤秋子　廣島　松尾つね子
伊藤とく子　三村壽子　松岡　竹子　弓削しやう子　松野美矢子

△アメミルク
△脱脂綿　△アメミルク
池田久仁子　柳川よし子　遠山多嘉子　薄　常子　高木繁子
伊藤せいよ子　中村千代子
△最新育兒法　△最新育兒法
△フランネル

増田榮子　奥村せん子　中島さとい子　藤田艷子　山形ふみ子　清水たみ子
山本よね子　岡野あき子　勝井さめ子　中島在枝子　永谷雪江子　杉浦茂與子
宮本たき子　徳田喜子　山上せき子　竹中包子　草刈きつ子　小谷松野子
景田素女子　伊藤きみよ子　香川とよ子
永峯英子　秋月芙美子　中村富士子
木村しん子　清水靜枝子　臼井しげ子
谷本榮子　芳賀りん子　丸尾あさ子
黒部清子　青木とく子　上村とし子
折田志勝子　櫻井久子　村田みどり子
八代房乃子　河野しげ子　森永初枝子
吉田ひさ子　高木すえ子　大谷花子
杉山靜子　福田たま子　市田利伊子
波邊盲合子　小林しん子　西山きぬ子
殿塚とし子　關和はる子　梅木ゆき子
伊藤益子　大澤とく子　三田すゑ子
鈴木てい子　神田たつ子　石川寫有子
藤井たか子　原　こま子　藤原てい子

△アメミルク
△フランネル
△アメミルク
△フランネル
宮内ふじ子
△三越呉服店の衛生シーツ（高等襯褥）
大澤とく子
△最新育兒法　△フランネル
△脱脂綿
淺岡とよ子

次號課題

柳　　曾正遍昭

朝みどり絲よりかけて白露を
玉にもぬける春の柳か

一　用紙の寸法は、タテ五寸五分、ヨコ三寸三分
一　原稿の端には、必ず住所番地姓名を明記すること
一　締切期限二月十日

出産の祝ひ物は何がよきか

（應募總數二百十六通）

△手製の編物

平石きぬ子　榎本千代子　寺島みゆき子
奥村まさゑ子
△脱脂綿
渡邊いれ子　松野千代子　太田道子
△牛乳の切手
高井康子　内海寅子　高橋とみ子
△フランネル
吉池ます子　天藤ちよの子　水谷篤子
奥田靜子　山本すゞ子　田花みつ子
大西きくゑ子　香川重子　佐伯つきの子
吉村いよし子　藍谷てる子　藤野正代子
押井いく子　村山秀子　度會よし子
杉井綏子
△最新育兒法
△アメミルク



家庭笑話

無邪氣な子供の話や、家庭のしくじり話など、面白いことがございましたら、ハガキで本社までお知らせ下さい。誌上に掲げたものにはお禮を致します。しかし書からある話や、書物にある話、または無理にこしらへたやうな話や、語呂を合した言葉の酒落などは一切採用しません。

◎蹋んで下さいよう

宮城　菊地千代子

或る日、弟が立ちして身長を計ると、弟は『今度は姉さんを計らう。』と云ひますから、私は柱を背にして立ちました。すると弟は尺度を持つて伸上りながら『姉さん、坊には届かないから、少し蹋んで下さいよう。』

◎お歲暮に頂いたの

伊豫　清水つな子

妹のしげ子が、美しいリボンを下げてゐますから、『伯母さんからお年玉に頂いたの。』と云ひますと、『イイエ、お正月にお歲暮に頂いたの。』

◎お喋りするな

神戸　香川とよ子

今年五つになる子を他所へ連れて行く時、『お前はよくお喋りをするから、他所へ行つたら、なるべく默つてゐらっしやいよ。』と申しました。すると先樣へ行つてからは、何を聞かれても返事をしません。私が『どうして御返事をしないの。』と云ひますと、

（第參卷第貳號）（九六）

『でもお喋りすると云はれたから。』

◎そんなら敵になるよ

磐城　佐藤榮子

六つになる子が、大きくなると、軍人になると云ひますから、『軍人になれば、戰に出ると殺されるよ。』と云ひますと、『だれに殺されるの。』と問ひます。『敵に殺されます。』と答へると、『そんなら僕は敵になるよ。』

◎六歲の兵士

青山　佐野千代子

お隣りの大尉さんが、今年六つの武雄さんに體操を教へて『氣を付け！　もつと頸を出して。』と命令しますと、武雄さんが『叔父さん、頸つて何處？』

◎おいしくないから

日暮里　栗原はつ子

叔父さんが、誕生日だからたとて、五日餡を持つて來て、『おいしくはありませんが。』と出しました。傍に居合せた五つになる弟が『叔父さん、おいしくないから、持つて來てくれたの。』

◎判行押した着物

信濃　樹澤つぎ子

今年六つになる弟が、お隣りの義夫さんの着てゐた紋付の羽織を見て來て、『母さん、母さん。』『何です？』『僕にも義ちやんみたいな、判行を押した着物をこさへて下さいよう。』

◎母樣の方が寒いのヲ

兵庫　倉内ひての子

花子『母樣、富士山はなぜ寒いてせう。』母『高くて空氣が薄くなつてゐるからです。何でも高い所ほど寒いものです。』花子『では私より母樣の方が寒いのネー。』

◎おしる粉たべませんよ

長崎町　田定子

弟と一緒にお友だちの家へ行つた歸りに、おしる粉屋へ寄つておしる粉を食べて、『家へ歸つてもお父さんに云ひつこなしよ。』と云ひ付けました。すると弟は家へ歸つて、『お父さん、今日姉さんとおしる粉屋でおしる粉たべませんよ。』

◎迎ひに行かう

滋賀　北村ふみ子

今年五つになる定ちやんが、あまり惡戲をするので、『そんなに惡戲をすると、母さんは他所へ行つてしまひますよ。』と云ひました。すると定ちやんは、『いいよ、そしたら、定ちやんが迎ひに行くから。』

（第參卷第貳號）（九七）

◎若い時の子

靜岡　梅原はま子

今年五つになる敏子さん、お母さんの所からお祖母さんの傍へ走つて來て、『お祖母さん、お母さんが私を叱るから、お祖母さんの子にして頂戴よ。』と申しました。お祖母さんは笑ひながら、『こんなに年を取つてから、敏子さんのやうな小さな子供があると笑はれます。』と云ひますと、敏子さんが『いいわ、人に聞かれたら、若い時の子ですつて云へば。』

◎武坊の宅

大阪　横山しな子

お母さんに連れられて、遊びに來た武坊に『あなたの宅は何處？』と尋ねますと、武坊は、『ここからズヤと行つて、ズヤと行つて、ズヤと行つたとこ。』

婦人頓智談（二）

一言武士の切腹を止む

今はむかし、さる大名のお邸に、新年の御酒下されがありました。御家來衆一同、充分に御酒を頂戴した揚句、一間に下つて、お茶を飲んでゐましたが、一人の侍が、何心なく急須を取上げて、

『なるほどお家代代の重寶といふだけあつて、實に見事なものだ。』

と頻りに褒めてゐました。すると何うした拍子か、急須の口がポックリ拔げました。さあ大變！お家の重寶を壞した上は、切腹してお詫するの外はない、めてたい元日のお屠蘇が末期の水とならうとは、我ながら不覺千萬と、後悔しても早やあとの祭。やをら短刀引拔いて、あはや腹にぉッ立てんとした一刹那、あわただしく驅け込んで來た一人の女中が、ニッコと笑ひながら、

『オヤ、また口が拔げましたか。』

と云ひました。

座にある人人は、矢庭に短刀を奪ひ取つて、

『女中が、また拔げたかと云ふのを見れば、この急須の口は始終拔げるのであらう。それならば、何の死ぬには當るまい。』

と云つて止めました。

女中が速座の頓智で、侍が急須の口を拔いだのを、以前から拔げてゐるやうに、また拔げたかと云つたばかりで、侍は自殺をせずに濟んだのです。この事を聞かれた大名は、

『汝の一言は一人の生命を救つた。』

と云つて女中に數多の褒美を下され、後には然るべき所へ緣付かせたさうです。

◎面白き『婦人頓智談』み募る。掲載したら分には相當のお禮を差上げます。〆切は本月十日です。

『怒るな働け』主義の女學校

一記者

『怒るな働け』とは、日本女子商業學校學監嘉悦孝子女史が常に生徒を戒むる言葉ださうです。一度足を同校に入れたものは必ず感ずることですが、同校の學生は悉くこの訓戒を體して、快活に、質素に、樂しく勉強してをります。この美しき光景は、他の女學校に絶えて見るべからざる所です。

同校の方針は、『心持のよい婦人』『よく働く婦人』『役に立つ婦人』を作るにあるのですが、さればといつて、決して婦人の獨立生活を薦めるものではありません。しかし或る特別の場合には、獨立して生活して行けるだけの素養を與へてあるので、現に、郵船會社、儀濃火災保險會社、勸業銀行等を始め、森村組輸出部、白木屋呉服店、三井物産會社などに勤務してをるものも少なくありません。然も、非常なる好成績で、四方から申込みがあるため、現在の卒業生だけでは到底諸方からの望みに應ずるに足らぬといふことです。同校は明治三十六年の創立で、日なほ淺きにも拘はらず、非常の盛運を以て發展を遂げ、既に百六十有餘の卒業生と百五十餘名の卒業生とを有してをります。殊に今年の如きは入學志望者頗る多く、千葉縣下の某町の如きは、公費を以て數名の生徒を同校に入學させるといふので、既にその公吏から申込みがあつたさうです。

同校は、高等科二年、普通科四年で、高等小學二年を卒へたものは普通科一年に、高等女學校卒業生は高等科一年に入學を許されることになつてゐます。

『怒るな働け』主義を標榜してゐる學校だけに、校長和田垣博士、學監嘉悦女史を始め、教員諸氏も、非常なる熱心を以て教授の任に當つてをられます。なほ昨年から、ミス、フヰツシヤア、ミス、マグドナルドの二女史を聘して英語教授を囑托してゐます。

入學願書は四月十日までに差出せばよいさうです。規則書は同校もしくは本社にあります。

茶ばなし

嬌溢生

◎鍋島侯爵御夫婦は交際場裏へよくお出になつて、婦人の團體や慈善事業に同情をお寄せになるが、その第三番目のお孃さんの茂子（二十四歳）さんは、蒼服貴族院議員子爵牧野忠篤さんへお嫁さになりました。それに就いて感心なお話がありますから、一寸申上げませう。

◎茂子さんは華族女學校の出身で、先年九條さんの御分家へお嫁きになつたが、不縁で遂にお別れになつたのです。その後暫く經つて、牧野さんが第二の奥さんをお探しになつて居ることが分つたから、鍋島さんの方で窃かにお調べになつたさうです。

◎侯爵夫人は、偶ま愛國婦人會の新潟支部大會が開かれるので、閑院宮妃殿下に隨つて同會へおいでになつた。その際長岡へ御一泊なすつたが、牧野さんは長岡の市長を兼任して居られるから、萬事親切にお世話をなすつて、能く行届いたさうです。

◎その遣り方が如何にも夫人のお氣に召したので、土地の有力者などに牧野市長の評判をお聞きになつたら、皆大層褒めたさうです。それからと云ふものは、夫人の心の内に良縁とお思ひなされたさうです。

◎お歸りになると直ぐに家令に命じて、牧野さんの人物性行をお調べになつた。すると貴族院部内でも若手の有力家で、手腕があると共に品行も大に宜しいと云ふことが分つたさうです。

◎何れを聞き合しても評判が宜しいので、侯爵御夫婦は勿論の事、お兄さんの直明さんが大層御熱心で、是非この良縁を纏めたいと云つて、人を介して牧野さんへお申込になつたさうです。

◎この申込を受けた牧野さんは、寧ろ意外にお感じになつた様子で、鍋島さんは華族中の華族、自分は平民主義、格式においても非常に違ふから、とても釣合はぬと云つてお斷りになつたさうです。

◎斷られて見ると一層惜しくなつて、是非貰つて呉れまいかとまたまたお申込になつた。併し牧野さんは、また御辭退なされた。スルト鍋島さんでは、如何なる條件でも聞くから是非貰つて呉れまいかとお申込になつたさうです。

◎牧野さんも斷り兼ねて、それなら私の方の事情を述べますが、私は眞の平民主義で、家内は馬車に乘せることも出來ないのみか、電車で外へ出すと云ふ風です。それに買物に行くにも女中を附けずに獨りでやると云ふ遣方です。それから子供がありますから、その世話は頗る面倒だと思ひます。また自分の道樂は寫眞と音樂ですが、家内には音樂の對手ぐらゐになつて貰ひたいのです。それから外で働いて歸つて來たら慰めて貰ふのと、議會中調べ物の忙がしい時には淨寫の手傳ぐらゐして貰ひたいとお話になつたさうです。

◎鍋島さんではこの條件をお聞きになつて、悉くお入れになつたさうです。殊に茂子さんは堅く御決心なすつて、何んな事でも我慢すると仰しやつて一生懸命であつたさうです。そこで、終に良縁は都合好く纏つたと云ふことです。

◎茂子さんは牧野さんへお嫁さになるまでのお稽古だと云つて、直明さんのお宅にお子さんのあるのを幸ひに、毎日電車で、女中も連れずに、一人で辨當持參でお通ひになり、お子さんのお世話をなすつたさうです。實に感心なお心懸だと思ひます。

◎それから愈よお輿入れの時に、お母さんは、一週間ばかり此方から女中を一人連れて行つては如何かとお勸めになりました。スルと茂子さんは、それをお斷りになつて、先方に居る女中を使ひ、何處までも牧野家の家風に從つて、平民的になると仰しやつたさうです。

◎めでたく御結婚がお濟みになつたが、琴瑟相和して、非常に圓滿な家庭ださうです。それにお子さんたちを能く親切にお世話なさるので、お子さんも茂子さんをお母さんお母さんと云つてお慕ひなさるさうです。

名流夫人の兄妹調べ（其二）

男爵 久保田 讓氏夫人　久保田八重子　五十二歳　京都
妹……川名辰之助氏夫人　綉子……四十九歳
三井銀行專務理事 早川千吉郎氏夫人　早川さと子　三十四歳　加賀金澤
兄……農商務省技師　山中源太郎……四十歳
妹……岐阜縣師範學校教諭 持田半六氏夫人　巻子……二十三歳
中學部文部主事 柵橋一郎氏夫人　柵橋登志子　三十三歳　岐阜
姉……陸軍一等軍醫正 高橋茂氏夫人　成子……三十五歳
妹……陸軍騎兵少佐 坊城俊延氏夫人　纖子……三十一歳
弟……陸軍砲兵中尉　井田磐楠……二十八歳
村井銀行頭取 村井吉兵衞氏夫人　村井宇野子　三十八歳　京都
妹……村井銀行重役 村井貞之助氏夫人　光子……三十五歳
妹……工業家 村井眞雄氏夫人　梅子……三十二歳
妹……商業家 日比谷新太郎氏夫人　君子……二十二歳
工學博士 京阪電氣鐵道會社長 渡邊嘉一氏夫人　渡邊美子　三十九歳　東京
妹……農學士 小林忠吾氏夫人　やの子……三十一歳
工學士 志賀重昂氏夫人　志賀鐵千代子　三十七歳　佐賀
弟……東京帝國大學法科學生　松野直雄……二十六歳

◎懸賞募集

〆切三月十日限り　用紙ハガキ又は半紙

婦人世界は來る五月十日を期して、臨時增刊『食物かゞみ』を發行する計畫です。『食物かゞみ』には食物のこと、料理のことを一切網羅するつもりで、既にその材料の蒐集に奔走してをりますが、ここに一つ是非とも讀者諸姉のお力を拜借しなければならぬことがあります。それは

『諸國の名物づくし』

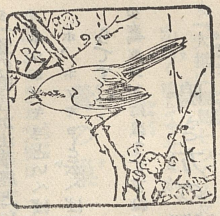
です。皆さんの國國の、珍らしい魚類、野菜類、果物類、乾物類、菓子類、漬物類、珍らしい料理法等、何でも珍らしいものがありましたら、是非お知らせを願ひます。優等のものは『食物かゞみ』に掲載して一圓以上十圓以下のお禮を致します。

◎寫眞募集

（お望みによつては寫眞お返しいたします）

婦人世界の口繪や插繪にあるやうな寫眞を募集します。人物、風景、風俗、集會、何でも珍らしいものを歡迎します。寫眞の裏に、詳しい說明と、寄贈者の住所姓名とを記めてお送り下されば、掲載の上お禮を致します。

少女欄



鶯の笹鳴

少女『お父樣、今朝、お庭の梅の木に鶯が來て居ましたが、ただチッチツと鳴くばかりて、ホウホケキョと鳴きませんでしたよ。』

父『それは、鶯の笹鳴と云つて、秋の末から二月の始め頃まではただチッチツと鳴くばかりです。』

少女『それでは、もう少し經つとホウホケキョと鳴きますか。』

父『さうですよ。それから四月頃までは里の近くで鳴きますが、夏の暑い盛りになると、山の奥へ行つてしまひます。』

少女『山の奥では、夏でも鳴いて居ますか。』

父『ハイ、鶯は暑さを嫌ひますから、山奥の涼しい所へ行つて夏中鳴いてゐます。箱根の山奥へ行くと、鶯と時鳥と一緒に鳴いてゐることがありますよ。』

少女『アラ、さうですか、聞きたいこと！。』



假名讀みと文字讀み

少女『鶯はチッチツと云つて笹鳴をしたり、ホウホケキョと鳴いたりするばかりでせうか。』

父『イイエ、同じホウホケキョといふ鳴聲にも、いろいろ違つたのがあります。ホ、ホ、ホケキョといふのもあれば、た

だホウホケキョといふのもあります。鶯を飼つてゐる人は、ホ、ホ、ホケキョと鳴くのを假名讀みと云つてゐますし、ホウホケキョと鳴くのを文字讀みと云つてゐますよ。」

少女『それは、なぜでせう。』

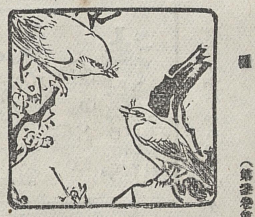
父『鶯の鳴音が法華經といふ聲に似てゐますから、ホウホケキョといへば文字を讀むやうだし、ホ、ホ、ホケキョと云へば假名を讀むやうに聞えるからです。』

少女『ホントにさうですね。』

鳴き方の稽古

少女『鶯の鳴き方にも、唱歌のやうに上手下手がありませうね。』

父『ありますとも。上手なのも下手なのもいろいろあります。東京には鶯の鳴合せ會といふ會があつて、鶯を鳴合せることがあります。一番上手に鳴くのが、相撲の番附のやうに横綱だの大關だのになりますよ。』



少女『横綱になるやうな鶯は、どうしてさう上手に鳴くのでせう。』

父『生れつき上手なのもありますが大抵は稽古して上手になります。

鶯を飼つてゐる人は、親鳥に附けると云つて、巣から捕つた鶯の子を、音の佳い親鳥の傍に置いて鳴方を稽古させます。』

少女『どういふ風にして稽古させませう。』

父『鶯の籠は、前の方が障子になつてゐますが、夜になつて燈火をその前に置くと、親鳥が晝間だと思つて鳴き出します。その時、子鳥の籠をその側に置いて親鳥の聲を聞かせます。』

少女『なぜ夜になつてから稽古させるのでせう。』

父『晝間は、外の鳥の聲が聞えるからいけません。』

少女『親鳥の鳴くのを聞いたら、子鳥は直ぐ眞似して鳴きますか。』

父『イイエ、子鳥はただ親鳥の鳴くのを聞いてゐるばかりで、決して鳴きません。一週間も親鳥に附けて置きますと、子鳥はすつかり鳴方を覺えて、次ぎの年の春になると始めて鳴き出します。』

少女『親鳥のやうに上手に鳴きますか。』

父『大抵は親鳥そつくりになります。最初はなかなか巧く鳴きませんが、だんだん上手になつて、しまひには親鳥よりもよくなるのがありますよ。』

鶯の巣

少女『さつきお父樣は、子鳥を巣から捕つて來ると仰しやいましたが、鶯の巣はどんな處にありますか。』

父『山の中の藪のやうな處にあります。鶯は、巣を造ることが上手ですから、時鳥は自分で巣を造らないで、鶯の巣へ卵を産みますよ。』

少女『では鶯の卵と時鳥の卵と一緒になりませうね。』



父『イイエ、鶯の卵が孵つて巣立をしたあとへ、時鳥が來て卵を産むのです。』

少女『巣立とは何のことです。』

父『鶯の子が大きくなつて、巣から出てしまふことです。』

少女『時鳥はずるい鳥ですネ。』

時計物語

寄宿舍

少女『お父樣、何か面白いお話をして下さいな。』

父『さうですネ。今日は時計物語といふお話をしませう。』

う。英國の片田舍に日本の名で云へば節子さんといつて、漸う十ぐらゐの女の子がありました。お父さんは誠に良い人でしたが、お母さんは繼母で餘り良い人でありません。どういふものか節子さんを嫌ひて、家に居ると、とかく意地の惡いことをしたり、折檻したりしますから、お父さんは一層のこと遠くへ手離したら宜からうと云つて、二十里ばかり離れた町の小學校に、節子さんを寄宿させることにしました。

少女『西洋の小學校には寄宿舍がありますか。』

父『西洋の小學校には寄宿舍のある所もあります。日本にも一つ二つありますよ。』

少女『節子さんは、よく獨りて寄宿舍へ入る氣になりましたネ。』

父『節子さんは、獨りで遠くへ行くのは悲しくつてなりませんけれども、お父さんの言ひ付けだから決心したのです。愈よ明日は出立といふ前の晩、お父さんは本箱の引出しから小さな女持の金時計を出して、「これは死んだお母さんの持つてゐた時計だから、紀念として上げませう。なくさないやうに大事にしてゐらつしやい」と申しました。節子さんは、その時計を持つて、翌くる朝出立いたしました。』

立聞き

少女『節子さんは、その學校を卒業しましたか。』

父『節子さんが學校に入つてから半年經つか經たないうちに、お母さんは節子さんに「學校へ入れて置くと入費がかかるから、學校をよして歸つて來なさい。それが厭なら勝手におし。これからは一文もお金を送らないから」と云つてやりました。』

少女『マアひどいお母さんですね。節子さんはそれからどうしました。』

父『節子さんは困つてしまひました。歸ればお母さんにいぢめられるから歸りたくはないが、家からお金を送つてよこさなければ、どうしてもそこに居ることが出來ません。折角寄宿舍の人とも馴染んで來たのに、また直ぐ歸つてお母さんにいぢめられるのかと思ふと、俄かに生みのお母さんが懷しくなつたので、紀念の時計を手に持つて泣いてをりました。すると後ろで「節子さん節子さん」と呼ぶ聲がしますから振返つて見ると、節子さんの室の室長をしてゐる行子さんといふ方が、傍に立つてゐました。節子さんは涙を隱して



「何か御用ですか」と聞きますと、行子さんは、つくづく節子さんを見て「節子さん、あなたは何か御心配があるでせう。私は先刻から御樣子を見てゐましたが、その時計を持つて泣いてゐらつしやるのは、乾度何か仔細があるのでせう。何がそんなに悲しいのですか。私に話して下さいと親切に申しました。』

少女『これを聞いて節子さんはどうしました。』

父『節子さんは、行子さんが親切に云つて呉れますが、傍に立つてゐました。節子さんは涙を隱して

ので、實はこれこれで二三日中に歸らなければならないと申しました。さうすると行子さんは、節子さんのはかない身の上を憐んで、それならば私が、これから毎月それだけのお金を上げませうと云ひました。節子さんは一旦お斷りしましたが、行子さんが强ひておつしやるので、毎月毎月行子さんからお金を頂くことにしました。』

少女『行子さんは、お金の澤山ある方でせうね。』

父『イイエ、行子さんの家は貧乏ですから、漸う月月入用のお金だけしか貰ひません。そのお金を節子さんに上げると、行子さんの使ふお金は一文も無くなつてしまひます。』

家庭教師

少女『それなら、行子さんはどうして節子さんにお金を上げるでせう。』

父『行子さんは非常に親切な方ですから、節子さんの憐れな話を聞いて、どうかして節子さんを助けたいと思ひ、とにかく自分の貰ふお金をすつかり節子さんに上げることにしたのです。さうすると今度は、行子さんのお金がなくなるから、どうかしてそれだけのお金を儲けなければなりません。』

少女『行子さんは、さぞお困りでせうネ、行子さんはどうしてそのお金を儲けました。』

父『幸ひ行子さんは、その學校の一番上の級の生徒で、學問の出來る人でしたから、夜だけ人の家の家庭教師に雇はれることにしました。』

少女『寄宿舍に居ても、夜出られるでせうか。』

父『寄宿舍に居ると、夜は出られません。それに寄宿舍にゐると、働いてゐることが人に知れますから、學校の近所に間を借りて、誰にも知らさず働いて居ました。』

少女『まあ可哀さうですネ、それからどうしました。』

父『あとはこの次ぎにお話しませう。』

◎正誤

前號『少女欄』百三十二頁八行目、晝間は酸素といつての下に、『人の身體にためになるものを吐き、夜は炭素といつて』の一項が誤つて落ちました。ここに正誤いたします。

第八回　懸賞繪探し



裏の規則を見て答案をお送り下さい

第八回懸賞 繪探し答案募集

表の繪には何を隱してありませうか。お解りになつた方は、左の規則を御覽の上、答案を本社にお送りください。

一　答案は、必ずハガキ（往復ハガキ、または封書は一切お斷りいたします）に書いて送ること

一　ハガキには、よけいな文句を書かず、先づ「繪探し」と書いて、次ぎに探し當てた品物の名を一つ一つ書き並べ、その次ぎに住所姓名を楷書でよく解るやうに書くこと

一　ハガキの宛名は、必ず『婦人世界繪探し係』とすること

一　締切期日は二月十二日

一　當つた方が多い時は、本社員一同立合ひの上公平に抽籤を行ひ、當選者の多寡に應じて、二十名以上三百名以下の受賞者を定めること

新年號懸賞 繪探し當選披露

前回の應募者は一萬三千九百二十二名ありました。しかし前回の答案は、ややむつかしかつたために、正解者は至つて少なく、僅かに二十三名しかございませんでした。よつて今回は、二十三名の方に悉く賞品を差上げることにいたしました。

前號の繪探しの答は

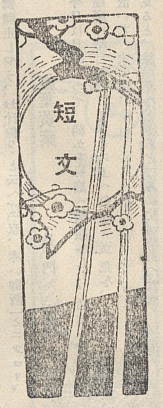
一　猿の顏（繭玉の先きに）　一　柿（鯛の口と槌とにて）

一　蟹（婦人のシヨールに）

であります。受賞者は左の方方です。

北海道　岩崎貞子　新潟　德田恒子　石川寺尾ふみ子
岩手　菊池しのぶ子　栃木小平だい子　深川山田いと子
福井　松原りう子　陸中　村松とも子　福島　志間花子
長野　小河原しづく子　芝天笠きわ子　下谷　綱澤うち子
三河　吉田はる子　京橋　野村きく子　神戸　安藤たか子
靜岡　小柳津さと子　山口　増田ちき子　新潟　堀つふ子
千葉　堀越宜子　牛込　高橋ふき子　新潟　鈴木きみ子
淺草　松岡きん子　長野　溫田ひろゑ子

なほ今回の應募者のうちには、一人の人がいろいろ名を換へて投書して來られたのがありましたから、悉く沒書にいたしました。



壹等

うれしき日　豐後　菅原義子

今日は兄さんのお宅へ遊びに行く嬉しい日です。朝早く起きて、手の冷たいのも忘れて、髮を結ひました。束髮ですが、幾度も合せ鏡をして……。お湯を使つて、お化粧をして、母さまにれだつて買つて頂いた小紋の紋附に、一番好きな繻珍の丸帶をしめて、門口へ出ました。

貳等

鞠ちやん　三重　北村みつ子

『鞠ちやんは京の子でせう。』と千代子が云つても鞠ちやんは默つて居ます。千代子は、じつと顏を覗いて『ちよつとお笑ひなさいよ』と云つて背負する。頓ずりする。それでも鞠ちやんはニツコともしません。『まあ！』と小さなお母さんは赤い頭巾を被せました。鞠ちやんは、お土產に貰つた京人形です。

參等

鏡餅　福島　樹口雪子

故郷から大きい小包が屆いたので、弟と大騷ぎをして開けて見ました。弟のシヤツに私の襦袢、カチ栗に鼻の缺けた人形。それから武坊の入れたのでせう、覺束ない文字で姉樣と書いた油紙の包み。弟が油紙を解きますと、まあ、大きな鏡餅が二つごろごろと轉げ出しました。その夜、弟の返事に、若水を汲んで自炊の新年を迎へ候。

秀逸

お謠始め　長野　實月都音子

銀屏を後に細面の奥樣は、お髷が一段とお似合ひ遊ばす。スラリとした御紋附の肩先に搆へた、寒泉と銘のある皷。お謠は進んで「色こそ見えれ、香やは隱るる」と旦那樣の美しいお聲に連れて、俯き加減の奥樣の、お袖のあやがしきりと亂れ、朱緒のからむお手のダイヤが輝く。お給仕の私は思はず見とれて、うつとりとした。

待つ身　神戸　青木すゑ子

今晩は雪の降るのに旦那樣のお歸りの遲いこと、お役所が忙しいのか知ら、それとも途中でどうか遊ばしたのか知ら。もう時計は十時を打つたのに、炬燵にかけた着物は暖かになつたのに、旦那はまだお歸りがない。臺所では鼠がゴトゴト何かいたづらをしてゐる。外は寂として按摩の笛が淋しい。旦那樣はさぞお寒いことであらう。

行燈記　下總　川島はつ子

人に生れた甲斐もと男は獨り言、何の因果でと女は泣く。行燈の灯にジーと髯を燒かれて、ポタリと落ちた蟋蟀の、力なく這つて行くその音の遠くなるのを聞いてゐるうち、二人の心は一つになつた。女は顔を擡げる。男は寢ようと云ふ。木賃宿の夜である。

春ちやん　新潟　小島琴子

今までお庭に喧ましく鳩を追散らしてゐた春ちやんが、急にひつそりした。窓を開けると、眞白な鳩の一群は、陽炎燃える若草の上に春ちやんの撒いた豆を一心に食べてゐる。軒の紅梅は、春風に一片一片ひらひらと飛んで、雪のやうな鳩の背に散つてゐる。春ちやんはぼかぼかと暖い椽に、人形を抱へたまますやすやと寢てゐる。

無邪氣　赤坂　高橋とみ子

誰かと喧嘩して泣き出した英ちやんが、何とだましてもだまらない。そこへ妹たちがガヤガヤ入つて來て、英ちやんはキツト笑つてゐるのよと云ふと、そつと泣笑ひの顔を上げたが、皆が並んでゐるので極り惡さうに、また泣き伏してだまらない。私が、お正月には何を御馳走しやう、お汁粉？と云へば「私、赤い御飯」とニツコリ。

紅葉黃葉　長門　中津江照子

今日は日曜なので、朝からお庭の掃除をした。枯葉を取りのけて、綺麗に箒目を附けて、その上へ紅葉と黃葉を、うつろひよく並べて置いた。末の妹が椽側に立つて見居たが、やがてまたお庭へ來て見ると、緣の葉をところどころに交へてあつた。

小さな秘密　駿河　天野きん子

妹の芳子が、椽側で日向ぼつこをしながら、何か本を見てゐます。すると『光ちやん』と馳けて來たのは、お隣りの武夫さん。『なに？』と莞爾する。『光ちやん、喋つたれ、あれを。』『喋りやしないよ、本當よ。』縺れ合つて、二人は睦しさうに何かひそひそと話して居ました。どんな秘密があるのか、私は知りたく思ひました。

妹の手紙　岡山　菅澤經子

新らしく家庭を作つて初めてのお正月に、郷里から送つてよこした小包に添へて妹の手紙『姉さん、このお餅は少しですか、お父さんと兄さんが搗いて、母さんと私が臼取りしたのですよ。姉さん方は舊暦ださうだからお送りします。』私は良人と二人で、樂しくそれを頂きました。

貧しき家　群馬　須藤淺子

破れ障子から月が射し込んでゐる。圍爐裏で婆さんが枯葉を燃しながら、雜炊を拵へてゐる。孫であらう、側にゐた女の子が、『家では、今夜なぜ餅を搗かないの』『昔は餅を搗いたが、今ではこの雜炊でも……』と婆さんの聲は曇つた。月はますます冴えて、臺所にある味噌の空樽まであかあかと照す。

思ひなやみ　京橋　今泉義子

『さあ、ここにお休み、……隨分疲れたでせう』と伯母樣は、薄暗い四疊半へ案内しました。私は今日、二里の山路を思ひに沈んで、親戚の家へ來たのです。ああ思へばお母樣が戀しい。薄つぺらな布團にくるまつて私は泣いた。煤けた行燈の障子に寫つてゐる伯母樣の影は搖いて、『まあ心配おしでないよ。』

和歌

壹等

○　牛込　執行英子

香焚きて人に嫁がぬ心願の少女なりける母かと泣きぬ

貳等

○　横濱　春野まき子

しめやかに春雨すなりをばしまに濡羽うちふり鶯のなく

○　三重　中村幸子

髮置きの子は美しう袖たれぬ抱ける母のみ手をすべりて

參等

○　豐後　菅原尾花子

春の人さくら模樣の浮織にあけぼの染のおん衣かな

○　神田　矢島とみ子

二の姉はよき日來ぬるといそいそに針はこばせぬ如月ゆく日

○　豐後　甲斐ふい子

日ぐらしの大門うらら日はたけて甚五が猫に春の風ふく

秀逸

○　仙臺　村田蘆子

圖案めく野川のこして君が家と我が家に春の雪降りにけれ

○　横濱　萩野つゆ子

甲斐の山ま冬となればさらさらと水晶くだけ溪を流るる

○　山梨　一倉はまじ子

しろ銀の駒に鞭して雪の山こえても來しか木枯の神

○　岐阜　堀川龍子

新らしきこの天地にあたらしきのぞみ抱きて歌よまむかな

○　下總　小澤蝶子

君が家は玉のやうなる水草の花に夜あけぬ河ぞひの里

○　横濱　小倉きみ江子

熱帶にすめる駝鳥のやは羽根を襟に卷けばか寒さ思はず

○　上野　森下花子

おん手とる魔よ憎からば今來れいま來よ君も死なむとぞ思ふ

○　近江　大角すゑ子

夕ぐれを袋負ひたる緋袴のまんざい急ぐ菜の花のみち

○　本郷　中村ふじ子

美しう朝日ほのめく春の野や東する子の王者に似たる

○　常陸　柳澤ちか子

コスモスに弱き日ざしの椽にしてカナリヤ鳴くをめて給ふ人

○　横濱　林ゆり子

わが庭の紅梅の譜もととのひぬ樂手鶯とく來てうたへ

○　豐後　菅原芳子
まひ衣に雪の傘するうつくしき人とわたりぬ川下の橋

○　四谷　高橋君子
世のなかの男といへるをのこ皆なつかしげなる眼してわれ見る

○　名古屋　渡邊慶子
棺桶や七つに育てゆきし子に凧もをさめぬ悲しき日かな

○　美濃　八木銀子
手燭して牡丹いたはる麗人をけさぬほどにぞ夜の靄こめぬ

○　岡山　黒瀬政子
春の夜はたたずむ君の黒髪に蝶のやうなる花ちらしけり

○　神田　平山みね子
うらもなき君が心をよろこびつ育ちし髪のいと長きかな

○　北海道　矢萩常子
雨まじり大風ふきて戸をうつ日とりの聲する故里おもふ

○　三重　北村みつ子
くれなゐの珊瑚の大木地に立つと夕日の森の杉は燃えけり

○　横濱　住江みさ子
みちのくの吹雪を敵とたたかひし人おもひつつ榾の火による

○　新潟　岩本芳子
むさし野は春雨はれて若草のはてを小さき白駒のゆく

○　千葉　吉松龜子
春雨やふたりしてさす傘なれば仰がで聞きぬ歸るかりがね

○　尾張　渡邊ゆみ子
祖母君のお寺まゐりの歸まで春雨ふるな道のぬかれば

○　岐阜　對馬園子
市人のつめたき笑に花も賣らず米をも買はで歸りゆく子よ

○　宮城　山形すみ子
ききと啼きて鵙とびたちし畫の窓にはらはら散りぬ山茶花の花

○　出雲　橋智子
紅梅やあだになときそときめきの紅のかなりに男興がる

○　武藏　中川美子
入日さす溪にしづるる雪をめて枝ゆりあそぶ山猿の群

○　長野　刈間わさ子
籠目より温き日をみて暮す小鳥のおもひ君は知るまじ

○　日本橋　加藤きく子
落葉して肌あらはなる並木路のあかつき破る駒のいななき

○　和歌山　市村重子
にぎはしき注連飾して若松に年たつ光みゆる門かな

○　麹町　淺井ゆき子
初雪は牡丹の咲ける藁の上に小さき音して降りつもるかな

○　小石川　秋田登志子
紅かなる唾もて椽に假名字書く妹のうなゐに梅の花ちる

○　岐阜　山田はぎ子
朝風に初荷つみたる三千の白帆ぞ走る伊勢の大海

○　大阪　祝綾子
張板に更紗はる手をそととめて耳傾けぬ鶯の聲

○　日本橋　早川稻子
春の雪伏見へ上る高瀬舟の灯ともし頃をうすう降るかな

○　岐阜　片田美濃子
おぼろ夜や遠くにさゆる笛の音に心うかれてあとを追ひけり

○　美濃　小野木梅子
わが姿うつす鏡に陽炎のまぼろしゑがく緋牡丹の家

○　信濃　佐々木ゑい子
猿曳きとまんざい憩ふ村茶屋のあたりに子らの群れ騷ぎ居る

○　横須賀　渡邊比佐子
桃咲きぬ水をひきたる橋の家に繪日傘入りぬ風のまにまに

○　兵庫　正林喜代子
ふれよ降れよしや見る間に消ゆるともしばし眺めむ今朝の初雪

○　近江　太田靜江子
おのがじし海士の釣舟こぎいでぬ小波よする滋賀の浦わに

○　東京府　秋月美美子
われにとて給ひし羽子をそぞろにも思ひみだれて落しけるかな

○　伊勢　下村紫子
朝雲にあさ日にほひて鵜なきてみゆるかぎりの波しづかなり

○　群馬　岡部かね子
秋風や金魚にすずし銀盤に散らば散らなむ白菊の花

○　麹町　淺井千鳥子
猿曳きの唄に小猿の舞ぶりのおかしと姪は袖にかくれぬ

○　淺草　渡邊とよ子
柳かげ袂かされて母による笑まひの頰を星流れけり

○　神戸　香川とよ子
何となく大人ぶりたる心ちしぬ二つとなりし今朝のわが子は

○　下總　三田はな子
文机のわれとゐならぶ福壽草小さきに春のゑみ溢れつつ

○　陸前　山形ふみ子
雪はれて朝日さしたる小港に動かぬ舟の苫みな白し

○　美濃　川橋ひさ子
お高祖頭巾かなぐり捨てし吾妹子のゑみ美しき口紅のいろ

○　播磨　山田りき子
はなれ家に誰がすさびの琴の音ぞそぞろ床しき白梅月夜

○　山口　琢本滿子
春の夜の夢かあらじのゆめごこちかくのみとはにあらむとぞ思ふ

○　靜岡　織田千代子
小春日や椽に稚子らが鞠つくを羨ましげに見まもる猫よ

○　遠江　木下冬子
紅梅のしづくこぼれて八千ぐさの花くれなゐに咲きもいでなむ

○　芝　順毛ます子
今日もまた戀をえざれば空車ひきてかへりぬいと力なく

○　横須賀　村田秀子
なき人のみ墓にゆきて思ふさま泣きもつくさば胸や晴れなむ

○　伊勢　佐々木らく子
忘るなのただ一言をはなむけに君をおくりぬ別れのゆふべ

○　東京府　黒部清子
ふなうたは浪間に消えてひとしきり芦の枯葉にあられふりふる

○　駿河　福知元子
夕ぐれを霰たばしる牛小舍に小牛の息のほの白うして

○　京橋　高橋なみ子
歌かきし紙むすびけり尺八の主なつかしき門の柳に

○　伊勢　岩本よし子
わが胸の戀のわかくさおん君に培はれてぞ花は咲くなれ



壹等

居ながらに舞の手叱る炬燵かな　長門　箕村壁子

貳等

上京は小雪ちるなり松の内
つつましく炭などつぎて火鉢かな　神戸　槻原京子
　神田　矢島登美子

參等

水色の袖口寒き二月かな　兵庫　塵原みどり子
紅梅に姉と妹の世帶かな　本郷　中村ふじ子
噌にうつるともしの影や雜煮餅　北海道　菊池ふよ子

秀逸

蒟蒻に針凍る夜や事納　松山　岩崎清子
神の灯や氷の上に注連の影　上野　森下花子
智らくは相默しけり火鉢かな　小石川　千勝ふく子

下廂の牧場や牛のこぼれ乳　愛知　神谷よし子
春風に胸毛吹かるる孔雀かな　積須賀　高橋つれ子
初午や物種ひさぐ土手の下　宮城　山形ふみ子
一つ橋二つ橋巻の月夜かな　神奈川　杉義乃代子
殘柴の殘り少なし踏の靈　芝　順毛ます子
東風吹くや富士を背にして馬の上　駿河　福知元子
梅一枝文箱に添へて奥使ひ　神戸　足立あさ子
乾鮭や小野に住ひて世垣　姫路　生田よし子
春寒や月代青き町女房　牛込　山本いし子
橋守の錢つなぎ居る夜寒かな　武藏　荻野しづ子
木兎啼くや一人殘りてしまひ風呂　千葉　越川章子
寒燈に菩薩を刻む翁かな　和田　初瀬子
春淺き門にあふるる後の音　相摸　飯島登代子
蒲團の裾に疲るる柘榴かな　近江　北川艷子
筏師の路坦々や花こぼる　秋田　三森なり子
朝寒の家にもの乞ふ老女かな　四谷　高橋君子
春風や馬上にうたふ三位殿　牛込　執行英子
摘草に疲れて寢るや草の上　遠江　木下冬子
ここに橘あらばと思ふ柳かな　石川　備前やす子
三日月の橘をさしたる柳かな　横濱　小倉きみ江子
白柳をみ手にはさみ贈り離　土佐　高橋ゆき子
伽羅の香や衣桁に蝶のとまり　大分　甲斐ふい子
世のさまやむかし三位の遺まはし　下野　佐藤きい子
靈解して後兎の鵜うたふかな　伊勢　常盤木花子
靈降りて雀の多き小村かな　松本　山口ちよ子

柴折戸くぐれば居蘇の匂かな　近江　三木畝子
餅搗きや臼に月さす町はづれ　茨城　高橋小ふじ子
百花百鳥春一ときに來りけり　名古屋　黑田せい子
炬燵にて母が意見をきく夜かな　伊勢　佐々木らく子
百度踏む草履の音や冬木立　駿河　大倉光代子
紅梅や雪三寸の朝にして　千葉　岩瀨正子
ほめられて二度年禮に來る子かな　長野　芋川見智子
呼ぶ聲に霞のかかる渡しかな　高崎　長坂美子
蟇楽の影にひそむや嫁が君　美濃　臼井しげ子
骸寒くいただく伊勢の二月かな　近江　大角すゑ子
行暮れて宿借る梅の山家かな　小石川　柳下くら子
參內の馬いななくや年の朝　島根　周藤喜久子
駿足に若水汲んで飲ませけり　備後　折田志磨子
寒月の照り込む頬の古巢かな　下總　田中三木子
蜘蛛の絲何のうらみや寒椿　播磨　山下郁子
初日影学屋の軒の氷柱かな　大阪　飯田はる子
小春日や牛のいねたる低き山　常陸　池田久仁子
雪の夜を小舍に藉煮る木樵かな　四谷　別役時子
かれこれと綺の工面や春隣　岐阜　宮部嘉久子
萬歲の踏うち込む小村かな　大和　廣元ます子
冬されば落葉の中の羅漢像　下總　川奈部榮子
鳥道に逢ふや小梅の官月夜　備後　米澤增子
白梅に紅草履めす宮使　三重　中村幸子
傘返す文にそへけり梅一枝　備前　廣瀨春賀子
車馬止の札立てあり雪路道　備前　德永まさの子

石炭に積む雪淡し梅の花　兵庫　槻原みつよ子
屋根ごとに蒲團乾す村日和かな　三重　村田悅子
峰舞ふや幽かにゆるる紅牡丹　三重　北村みつ子
温めて足袋はくほどに老いにけり　美濃　加藤里子
火のそばへ話もてよる寒さかな　美濃　小野木梅子
なつかしき顔も集まる火鉢かな　美濃　八木銀子
初風呂の眼ふ梅湯松湯かな　茨城　柳澤こう子
春雨や驚きたる歌の窓　尾張　榊原ゆき子
諸法無我諸行無常の紙衣かな　茨城　松本やす子
手作りの煮ぬほめけり納豆汁　山形　五十嵐みね子
春の夜や燭とる人の美しき　伊勢　加藤しま子
おぼろ夜の梅の戸たたく女かな　豐後　菅原よし子
初嫁の後姿や梅の花　芝　光田みさ子
山越えて乳母が宿訪ふ年始かな　神奈川　鎌田靜子
梅が香や池の氷の割るる音　横濱　大内すみ子
梅の門柳の軒や衣くばり　群馬　後山せん子
鐘湯に下駄がへられぬ宵の春　長野　伊藤とし子
梅の咲く城あとさけて電車道　名古屋　中村奈美子
舟二つ春の千曲をくだりけり　長野　中島在枝子
紙衣着て浮世過さむ詣まひ　茨城　松本つる子
婚禮の鯛の御用や年の暮　埼玉　小林まさし子
梅さくや耳に冷たきほつれ髮　三重　小島つゆ子
煤拂や置場をえらむ鉢の梅　靜岡　太原あい子
寢畑にふとりて咲くか踏の靈　尾張　渡邊ゆみ子
春立つや誕生すぎの獨だち　松山　大西ひろ子
春の水まれいて小さき橋の家　神奈川　殿鳥八重子

通信



○私は近頃東京へ出て來たものですが、私がこちらへまゐつて、第一番に眼についたのは御婦人方の他所行の御召物の一般にはでな事でございます。尤もこれは郷里に居る時分から承はつては居りましたが、御家庭の如何に拘はらず、御召物だけは揃つて立派なことには今更ながら驚いたやうな次第です。（山出しの一女學生）

○西洋人の夫婦は、外へ出た時には仲好く見えて居るけれども、家へ歸れば、良人は妻を召使か何かの樣に待遇すると云ふ話を聞きました。果して眞實でせうか。女尊男卑などと云ふ事は甚だ悪い事に違ひありませんが、さりとて、今後の女子は男子の爲に、妄りにその權利を蹂躙さるる樣な事があつてはなるまいと思ひます。皆さんは如何お思ひなさいますか。（本郷　松本君子）

○婦人世界一月號の家庭笑話に、苦い種子と云ふのがありましたが、あれと同じものが昨年の少女世界に出て居ります。外の雜誌に出たのを投書するなんて、ずるいぢやありませんか。れえ皆さん。（仙臺　忠告女史）

○女學校に入らない前は早く女學生と云はれたいと思ふけれども、女學生になれば早く奥さんと呼ばれたいと思ひます。と私の姉さんがおつしやいました。私は今年から高等女學校へ行くのです。（有馬雪子）

○私は昨年の婦人世界で、村井弦齋先生御發明の富貴燈の記事を拜見しましたが、その時上京の序でを以て日本橋松島町の喜八堂へ行つてそれを求めて歸りました。其後毎晩使用して居りますが、なかなか經便で、寢室用にはこの上なく重寶を感じます。ところがおひおひ絲心がなくなつて困つて居りますが、名古屋近邊に取次店はありますまいか。（名古屋　松本貞子）

◎取次店は外にはないさうです。併し當社の買物代理部へ御注文になれば早速取次いであげます。代金其他は本誌の廣告に出て居りますから御覽下さい。（記者）

△お伺ひ、望み

○帶を『や』の字形に結びますには上の方を左右何れにまげるのですか。又シゴキはいづれに結び下げるのですか。（川越愛讀者）

◎帶は右の方へ曲げます。シゴキは左へ結ぶのです。（記者）

○生花の法を敎へて下さい。（小樽の愛讀者）

○各地愛讀者諸姉の寫眞を出すやうにして下さい。（清國撫順　貞子）

○私は會社員の妻で、夫の出勤後は暇で困りますが、何か適當の仕事はないものでせうか終日遊び暮すのは不本意です。（牛込愛讀者）

○自宅で習字のお稽古を致したいと思ひますが、手紙文の書いた習字本では何といふのが一番いいでせうか。（小澤千代子）

○初心の人にも分るやうな裁縫の記事を載せて下さい。（國府津願女）

○寒くなると手が荒れて困ります。どうかこれを治す法を敎へて下さい。（播磨女）

○私は一人の姉と仲が悪くて、一向姉の愛を受ける事が出來ません。記者樣、どうしたらいいでせう。（關西の一少女）

◎姉樣を尊敬する念が薄いからでせう。今後は姉樣の仰しやる事は何でもおとなしくお聞きなさい。女は從順の德さへ備へて居れば、必ず人から可愛がられるものです。（記者）

○私は色は白いけれども、髮の毛が赤くて困ります。皆さんの中でこれを黑くする方法を御存じの方はありませんか。（佐賀御願女）

○野菜の御料理を弦齋先生の御夫人に伺ひます。（長崎縣　富士峯子）

○習字淸書の寸法は曲尺ですか、鯨尺ですか敎へて下さい。（岡山縣　稻本千代惠）

◎無論曲尺です。（記者）

△御　慶

◎左の方方から、御叮嚀なる年賀狀を頂きました。ここにお名前を列記して御禮を申します。（記者）

直川　貞子　中島　とめ子　高橋　たか子
對島　みよ子　三原　ちづ子　福田　貞子
根本　やす子　倉田ひでの子　伊藤　とく子
今泉　義子　稻本千代惠子　大倉　靜子
市岡　靜子　武本　繁子　島内　すゑ子
角波　文子　森　操子　井上　壽子
佐藤　みつ子　中村　政子　宅間　艷子
初音　千代子　奥村さき枝子　横山　牧子
淀川　歌子　中田　淸子　廣瀨　貞子
本多　縫子　北山　縫子　神部ちかえ子
茂見　利子　川邊　つた子　池田　榮子
俵　由喜子　迫　光子　迫　房子
麻上　げん子　茂里　鳥子　船木　つれ子
廣谷　れん子　水野　みゑ子　内澤　いよ子
江口　すみ子　稻岡　秀子　須藤　みつ子
度會　よし子　增田　榮子　景田　素子
園　浪子　春野　玉子　新川　はる子
海老原たけ子　吉田　つよ子　平賀　益惠子
倉澤　はつ子　本間　てつ子　岩本　芳子
黑見　しめ子　保坂　春代子

△御交際

○安房國の猪野千鳥子樣、十二月號の通信欄の初めにおつしやつたお言葉、誠にうれしう存じました。私の國なぞは、昨年十一月の十七日初雪が降つてから、今も盛んに降つて居ります。あなたのお國なども雪が降りますか私なぞは、今も硯の水が凍つて墨をする事も出來ません。（北海道函館絹枝子）

○私は北韓殊に間島の未開地に住まつて居るものです。郵便局の所在地までは五里餘もありますので、書面を差出す事も容易でありません。それで止むなく夫の名前で軍事郵便を利用して『婦人世界』を注文しましたところが早速御送り下さいまして誠に難有うございます。私は今後この遠地から幾萬の愛讀者諸姉と親しく誌上の御交際を致したいと思ひますどうぞ皆さんよろしく願ひます。（韓國　市川　茂興子）

△御　禮

○この度は誠に結構なる賞品御惠み下され、難有く厚く御禮申上候。

倉内ひでの子　田山　のぶ子　柴　淸子
渡邊　とよ子　米良　とし子　廣瀨　貞子
大澤　とく子　阿部　つれ子　德田　鷲尾子
初音　千代子　渡邊　もと子　甲斐　ふい子
二宮　しま子　水谷　蔦子　澤田　ちか子
早　都子　秋月　美美子　村田　悅子
阪本　みき子　川村　美惠子　伊藤　加米子
三木　政子　三木　道子　谷合　しげ子

○信濃の松田二葉子樣、あなたの『家庭の重寶』欄へ御出しになつた石油をこぼした時の手當、先日座敷に石油をこぼした時に實行しましたら、綺麗に取れました。ここに誌上で御禮申上げます。なほ今後はよろしく御交際を願ひます。（甲斐兼子）

△乳母車の危險　横濱　金子生

私の知つて居る婦人に昨年御結婚なされた方があります。お嫁きになつて間もなく玉のやうな可愛い御子さんをお產みになりましたので、御夫婦は大に喜び、花よ蝶よと慈み育てられました。

四ケ月はかり過ぎての事、ある日奥さんは赤ちやんを乳母車に乘せ、子守女に押させて、三里ばかり距つた實家へお出でになりました。奥さんのお里では、何分初めての事ですから御兩親の御喜びは固よりの事、兄弟親戚の方方まで大喜びです。殊に乳母車は田舍には珍らしいので、近所隣から子供が寄り集つて面白がつてその乳母車を押し廻るのです。ところが田舍の道は凹凸が多いものですから、その赤ちやんの乘つて居る乳母車は、どうしたはずみか忽ち轉覆して、生れてまだ四ケ月にしかならない赤ちやんは、可哀想にも地上に投げ出されてしまつたのです。

その時、赤ちやんはただ泣き出しただけで別に身體には異狀はないやうでしたが、夜に入ると熱が出て來て、腦膜炎と云ふ恐ろしい病を惹き起し、明くる日の明方には、あはれ果敢なくも、神のやうな赤ちやんは、眠るが如くにみ空へ上られたのであります。母親の嘆き、御兩親一族の悲みは今更のやうでございました。

醫師の話に依れば、たとへ子が車から落ちないでも、三里の道を乳母車に乘せて、動搖させながら押して行けば、發熱するのは當然である。それに永い間搖られた上、暫らくも休ませずに、玩具のやうに押し廻り、揚句の果てが車の轉覆と云ふのだから實に殘酷の極みであると申されたさうです。世の若き母親方に御注意申上げます。

◎御話は面白く拜見しました。お禮として輕少ながらお禮を差上げます。なほどなたでもこの樣な投書を下すつた方には御禮をいたすつもりです。（一記者）

懸賞募集『名文選擇』當選披露

本社が一度名文の募集を致しますと、四方の讀者諸姉が、いろいろな書籍から、精を抜き萃を選び、縷々投稿せられました。そのうちで最も適當と認めたものを左に掲げることにいたしました。

『徒然草』より　麹町　大橋とよ子。

灌佛の頃、祭の頃、若葉の梢涼しげに拂り行くほどこそ、世のあはれも人の戀しさもまされと、人の仰せられしこそ、げにさるものなれ。五月あやめふく頃、早苗とる頃、水鶏のたたくなど、心ぼそからぬかは。六月のころ、あやしき家に、夕顔の白くみえて、蚊遣火ふすぶるもあはれなり。六月はらへまたなかし。

『太平記』より　愛知　今泉秀子

落花の雪に踏み迷ふ、片野の春の櫻がり、紅葉の錦きてかへる、嵐の山の秋の暮、一夜を明すほどだにも、旅寢となればものうきに、思愛のちぎり淺からぬ、我がふるさとの妻子をば、行方も知らず思ひ置き、年久しくも住み馴れし、九重の帝都をば、今を限りと顧みて、思はぬ旅に出て給ふ、心のうちぞあはれなる。

『天うつ浪』より　麹町　秋山八重子

水をもて辟くべからざるものは火をもて熔かすべし。刀をもてきり難きものは槌をもて碎き得ん。求めて已まぬ願望の心あれば、おのづから働く知慧の眼は、我が思へる地に到らんとするに、平和なる路を取ることの甲斐なきを悟りたらん曉、いかでなほ別に鮮しき一條の徑ありて、そこに通ずることを見出さざらんや。

『古今集序』より　岐阜　柳川よし子

青柳の絲絕えず、松の葉の散りうせずして、まがきのかつら長くつたはり、島の跡久しくとどまらむことの心をも得たらん人は、大ぞらの月を見るが如くに、いにしへをあふぎていまをこひざらめかも。

『曾根崎心中』より　秋田　三森をりよ子　四谷　別役　冬子　名古屋　野下いさ子　松山　藤野正代子

この世の名殘り夜の名殘り、死にに行く身をたとふれば、あだしが原の路の霜、ひと足づつに消えて行く、夢の夢こそあはれなれ。あれかぞふれば曉の、七つの鐘が六つ鳴りて、殘る一つは今生の、鐘の響きをきめ、寂滅爲樂と響くなり。噫ばかりかは草も木も、空も名殘と見上ぐれば、雲心なく水の音、北斗は冴えて影うつる。

『金色夜叉』より　近江　膚瀨貞子

吁、宮さん、かうして二人が一緒に居るのも今夜限だ。お前が僕の介抱をしてくれるのも今夜ぎりだ。お前が僕に物を云ふのも今夜ぎりだよ。一月十七日、宮さん善く覺えてお置き、來年の今月今夜は貫一はどこでこの月を見るのだか、再來年の今月今夜……十年後の今夜……一生を通じて僕は今月今夜を忘れん。忘れるものか、死んでも僕は忘れんよ。いいか宮さん。

同　長野　櫻田さきの子

忘れるものか死んでも僕は忘れんよ。いいか宮さん。一月十七日だ。

來年の今月今夜になつたらば、僕の涙で必ず月は曇らして見せるから、月が……月が……曇つたならば、宮さん、貫一はどこかでお前を恨んで今夜のやうに泣いてゐると思つてくれ。

同　福井　古賀翠子

首を延べて駒ぜども、目もみはりて眺むれども、聲せし後は黑き影の、搖消す如く失せて、それかと思ひし木立の寂しげに動かず。波は悲しき音を寄せて、一月十七日の月は白く愁ひぬ。宮は再び戀しき貫一が名を呼びたりき。

『吉野都女楠』より　山梨　一倉はま子

一千帶刀十一歲、父が最期の無念さの胸に止まり骨にしみ、幼ごころにただ一騎、吊軍思ひ立ち、鎧の袖に小櫻の花を手向の法の駒、曉深き星の影、共に輝く銀覆輪の、鞍の山形山道の、小石まじりの小笹原。そよ吹く風に繰かけて、取つたる手綱小紫、藤井寺を弓手になし、右へさらさらしとしとしと、かつしかつしと歩ませて。

『神皇正統記』より　肥後　江上小夜子

「盲語は君子の樞機なり」といへり。あからさまにも君をないがしろにし人に躓る事はあるべからぬ事にこそ。さきにも記せる如く堅き氷は霜をふむよりいたる習ひなれば、亂臣賊子といふものは、その始め心言葉をつつしまざるより出で來るなり。世の中の衰ふると申すは、日月の光の變るにもあらず、草木の色の改まるにもあらじ。

『博多小女郎浪枕』より　駿河　泉　とし子

芥子を千にも割り、木の葉き樓、必ず灰を取ること勿れ。拾つる物は

何にもない。鴿の盤では翻眉つくり、しべのきれは癡撰の妙樂。カなき井戸は梯子の入れ物、鼠の尾まで雛の前、させ干せ傘、人に貸すな鑑節、擂り小木擂り鉢、砥石、石臼、藥研まで、目にこそ見えれ貸す度に、へらずに戻るためしはなし。

『土佐日記』より　岐阜　白井しげ子

曇れる雲なくなりて、あかつきづく夜、いとおもしろければ、船を出して漕ぎ行く。このあひだに、雲の上も、海の底も、おなじごとくになむありける。うべも、昔の人のこは、棹は穿つ波の上の月を、船は漏よ海の中のそらをとはいひけむ。ききさしにけるなり。

『一葉全集』より　栃木　伴　かをる子

一度絲が切れては二度と顏見にゆく事もなるまじ、同じく不運に泣くほどならば、原田の妻で大泣きに泣け。なあ、關、さうではないか。合點がいつたら何事も胸にをさめて、知らぬ顏に今夜は歸つて、今まで通りつつしんで世を送つてくれ、お前が日に出さんとても、親も察しる弟も察しる。淚は各自に分けて泣かうぞ。

次號懸賞新題　（〆切二月十三日）

▲最も感せる和歌

むかしの歌でも、今の歌でもかまひません。皆さんがこれまで讀んだうちで、最も感心した歌を書いて本社にお送り下さい。詰上に掲げたものにはお禮をいたします。投書は卷末につけてある投書規則によります。

懸賞 文字合せ當選披露

非常なる盛況で、答案を寄せられた方は七千四百八十二名、組合せた文字の數は三十六。數に於て私どもの豫想外であるばかりでなく、その組み合せた文字の奇拔拔、珍また珍なるには、實に一驚を喫しました。なかに最も面白いのは

開扇富士

といふのでした。この答案をよこされた左の方方へ賞品を差上げることにしました。

兵庫　瀧川　數枝子　但馬　中山　かよ子　下野　下田　まさ子
千葉　萬呂　ます子　牛込　山崎　いよ子　名古屋　野崎　文子
常陸　波逸　その子　紳田　太田　みの子

次に面白いと思ひましたのは、

不正幹事

て、この答を寄せられた方は二十四名ありました。その他、面白い言葉は澤山あります。そのうち一つ二つを擧げますと、

官製富士　富士往かんせ　不正時間　紹介人
仁政下布　移住せんか　無事瓢旋　精進戒

などであります。富士往かんせなどは、意味の明瞭を缺いてゐるとは云へ、隨分面白い言葉でありますが、如何せん、假名が違ひます。「往く」の假名はゆ　てなければなりません。序に假名の違ひを云へば、官はくわん、紹はせう、住はぢう、精はしやうてなければいけません。次ぎからは、よく假名に御注意あらんことを望みます。

次號の新題は

『さくらちるよしのやま』

であります。今度は字數が多いから、前よりも面白い言葉を綴つて頂きたいものです。なほ一言附け加へて置きたいのは、ものの名よりも働く言葉を歡迎することです。投書規則は、一般の投書規則に據つて下さい。

賞品は何人の手に落ちたかる

珍附錄當選披露

一月一日發行の婦人世界第三卷第一號に添へた珍附錄の當り籤は次の通りです。このうち『婦人世界』賞品係へお送りを願ひます。本社はその珍附錄と引換へに、賞品を發送します。但し、些とお斷りしておきたいのは、本社發行の『實業之日本』『日本少年』の當選披露も、本誌と同時に發表されますから、自然賞品の發送が幾らか遲延するかも知れません。この點は豫め御承知を願ひたうございます。

◎珍附錄をよく御覽下さい。寶珠から十四本の線が出てゐるでせう。そして、その一つ一つにいろいろの品物がついてゐるでせう。よくそれを御覽下さい。

△左から一本目に　のついてゐるのは一等です
△右から一本目に　のついてゐるのは二等です
△右から三本目に　のついてゐるのは三等です
△右から六本目に　のついてゐるのは四等です
△左から二本目に　のついてゐるのは五等です
△左から七本目に　のついてゐるのは六等です
△左から三本目に　のついてゐるのは七等です
△左から四本目に　のついてゐるのは八等です
△右から四本目に　のついてゐるのは九等です
△右から二本目に　のついてゐるのは十等です

育児問答（締切毎月十日）

（問）昨年三月生れの男兒、滑化不良症にて二百日餘り專門醫の治療を受けたるも全治せず、顏色は土色を帶び斑點現はる。（愛兒生）

（答）慢性滑化不良症にて、醫藥にては治癒し難きも、成長するに從つて治ることあり、なほ一應專門醫の診察を受くべし。

（問）十七歳の男兒、小さい時、顏に火傷したる跡取れず、成長するに從つて取れるものなりや、傷を小さくする法なきや（神田愛讀女）

（答）外科醫の診察をお受けなさい。

（問）男の子常に眠み癪む。洗藥を敎示ありたし。（山陰道みどり子）

（答）硼酸を水に溶かしてお洗ひなさい。

（問）三歳の女兒、冬になれば絶えず水鼻が流れ、また湯に入れると直ぐ風を引くので二十日に一度位しか入れず姜支なきや（同女）

（答）水鼻の出るのは鼻カタルならん、また二十日も湯に入れざるは悪し、湯冷めのせぬやうにして湯にお入れなさい。

（問）昨年六月生れの女兒、母乳を與へて居りますが、氣候の變り目毎に膿カタルに罹り、肥りません。おも湯を與へて姜支なきや。（神田愛讀女）

（答）姜支なし。また、誕生後はおも湯の代りにお粥を與へてもよし

（問）十八歳以下の母の乳は、無効なりとのこと、眞偽如何（同女）

（答）決してそんなことはありません。

（問）七歳の男兒、顏に白いものの出來て見苦し、療法なきや（青山女）

（答）水楊酸オレーフ油を塗るべし。

（問）四歳の女兒、冬になると臀部の皮膚、松の皮の如くカサカサになり、夜間二眠りて暖かくなると痒がる、療法を問ふ。（同女）

（答）診察して見なければ分りません。

（問）昨年十一月生れの女子、晝間一時間ばかり晝寢するも、夜は三四時間より寢らず、姜支なきや。（韓國子爵愼女）

（答）多分滑化不良症ならん、長く捨てて置けば大事に至る。專門の醫に診察を乞ふべし。

（問）母乳少量、コンデンスミルクは嫌つて飲まず、何を與ふべきか（同女）

（答）牛乳をお與へなさい。

（問）生後百日の女子、赤だ一度も洞氣せざるも、顏色青く、成育不良なり。肥えろ法なきや。（新潟某女）

（答）牛乳と水と等分に混ぜて、二合ぐらゐ、それを一日に四回にお與へなさい。

（問）四歳の男兒、晝間は異狀なきも、夜、寢る時は必ずうつむきになつて寢ます。何處か悪いのではなきか。（ばりま愛讀女）

（答）横に寢せたり、又仰向に寢せなさい。

（問）昨年八月生れの女子、母乳少きため御敎示の通り牛乳を與へて居りますが、夜中眠を醒したる時も、晝と同じ分量に與へて姜支ありませんか、また おも湯は何時頃より與へてよろしきや、その分量は如何に。（佐賀愛讀者）

（答）夜、晝と同じ分量の牛乳を與へるのは姜支なし。おも湯は二月頃より始め、一日に、杯で三杯ぐらゐお與へなさい。

（問）生後何月頃より乳母車に乘せて姜支なきや。（同女）

（答）五ケ月以上になつてからお乘せなさい。

（問）五歳の女子、三歳の時何物にか驚きて、ひどく泣きしことありその後毎夜脊のうちに、二三回眠をさまして泣き出すが常とす。身體は健全なり、放つて置いてよきや。（神奈川縣津久井女）

（答）一種の神經病ならん。生長すれば治ります。

（問）男の子、顏にフケの如きもの溜まり、所所に小さき腫物出來て居ます。耳藥なきか。（角田生）

（答）カサブタを取つた後、オレーフ油を塗り、それから亞鉛化軟膏をつければ治ります。軟膏はカサブタの上から附けては、何の效もありませんから、必ずカサブタを取つてからお附けなさい。

（問）滿二歳の女子、百日咳にかかり、如何に療治しても治らず、醫者は、身體の弱き子供は一年も治らずと云へり、眞なりや。（千葉縣矢橋）

（答）百日位にて治るものにて、一年も治らずといふが如きことはなし。若し今も咳止まぬ時は鹽かき海岸へ轉地療養するがよからん。

（問）生後九ケ月の男子、小便近く毎日二十度もすることあり、姜支ありませんか、また おも湯は何時頃より與へてよろしきや、その分量は如何に。（佐賀愛讀者）

（答）姜支なし。

（問）八月生れの女兒、耳の穴の側に大豆大の癌ありて、だんだん大きくなるやうなり。今切つて姜支なきや。（巢鴨妙義の愛讀女）

（答）滿二歳後になつてから、醫者に切つてお貰ひなさい。

（問）初生兒、兩方の耳より臭氣ある汁流れ出でて、それがカサブタのやうになつて、痒がります。療法を問ふ。（大坂花子）

（答）硼酸軟膏を塗れば治ります。

（問）初生兒に小便をさせるには、寒中にても、おまるにさせる方がよきや。また、母親が毒な物を食しても、その乳を飲ませて姜支ありませんか。（同女）

（答）姜支ありません。

（問）三十九年九月生れの男子、目下母乳の外に朝七時半頃に粥と魚肉、十時に全乳五勺、十二時におじや、午後四時半頃に粥またはおじや、六時半に全乳五勺を與へて居ります。粥をよして普通の飯に改めやうと思ふ、姜支なきや。（府中龜月貞子）

（答）粥をよして普通の御飯にすること姜支ありません。なほ母乳をもおよしなさい。毎度云ふやうに、母乳は生後一ケ年の後は飲ませぬやうになさい。

齒科問答（締切毎月十日）

齲齒、義齒、その他、一切の齒の病氣、口の中の病氣等に就いて、質問したい方は「齒科質問」と書いて、

東京市日本橋區呉服町二十番地
齒科醫　ドクトル　志村　誠麿

氏へ宛てて投書なさい。住所姓名を記してある方へは、直接回答し、匿名の方へは、本誌上にて回答します。

（問）七年前より、前の上齒二枚、齒齦が退縮して、押すと白き膿が出ます。夜中枕元にてうがひをしますが、治りません。良法うかがひたし。（香川縣高松岩島てる子）

（答）俗に申す齒くさと云ふ病氣かも知れません。それならば、なかなか頑固の病でなほり難いものです。一應齒科醫に診察してお貰ひなさい。もし齒科醫に不自由の處であるならば、實業之日本社へたのみ、齒石除去刀と云ふ小さな器械を求め、それで丁寧に齒根の肉の下まで齒鹽をとり去り、百倍の硼酸水でよくうがひしてから、食鹽を極く濃く溶かして、その水を指の腹につけ、丁寧に齒肉を擦りなさい、度數は一日二三度。

（問）二三年前、前齒に少しばかり金を埋めましたが、少し磨きを怠りますと、黑く變色します。また金を塡めた齒は湯水がしみて困ります。齒の茶色を白くする良法はありませんか。（硯齒困者）

（答）齒に塡めた金の黑色に變ずるのは多くは外に色素が附着するからです。磨きさへすれば黃色の光りが出て參ります。湯水のしみるのは神經に近いためですから、專門家によく療治してお貰ひなさい。齒の茶色なのは外面に茶色の沈着物がついて居るためならば、ヨヂユーム丁幾を少しく齒の面へつけて、齒磨粉でよく磨けば奇麗になります。しかしこれが齒の天然の色ですと決して白くはなりません。

（問）十二月の齒科問答欄に齒齦より出血したり、膿が出たりする時は、沃度丁幾を隔日くらゐに塗れとありたるも、藥種屋では普通の者に賣りません。性質が違ひますか。（牛込矢來女）

（答）沃度丁幾は俗に、ヨジユームチンキと稱して、何れの藥店でも賣つて居ります。薄めて素人でも害のなき樣に出來てゐます。藥店をたづれて御覽なさい、小瓶十錢位です。

（問）前の上齒がすいて居ります。どうかして合はす法はありませぬか。（土佐滿十九歲女）

（答）木綿絲で二本の齒を固く縛つて置いて御覽なさい。おひおひ隙がなくなります。しかし五ヶ月ぐらゐはかかります。

（問）本年六歲の女兒前齒の上に、八重齒が生へ、鼻の下に突き出て來ましたが、田舍の事故、よき齒醫者が居りません。如何にしたら拔く事が出來ますか、御明敎を願ひたし。又齒をいたくなく拔く藥はなきや、若しあつたなら至急御送り下さい。すぐ代金を送ります（福島縣伊藤K子）

（答）六歲にては未だ齒が生へかはらぬから、心配には及びません。來年頃まですてておきますと、自然に古き根が拔けて、良き齒が生へて來ます。齒をいたくなく拔く藥はありますが、それは劇藥ですから素人には上げられません。

（問）左の下の奧齒が、一本むし齒になりましたから、醫師に白金とか云ふものをつめて頂きましたが、其後其齒の一部分が缺けました。それからまた同醫師に白金をうめて頂きましたが、又又このほど其齒の一部分がかけました、其まま捨て置く時は如何になりますか、澤山にある齒の內には、たつた一本ぐらゐなくなつても別にさしつかへは無いでせうか、一寸伺ひします。（茨城みよ子）

（答）さういふ齒は、塡めても効力が少いから、金冠と申して、金の板で齒の形をした冠物を、齒の上から被せてお貰ひなさい。一本でもないと不自由であるのみならず、隣りの齒も搖みを來たし、またその齒の反對の顎の齒も拔けるから、なるべく治療を加へて、保存するやうにしなさい。

（問）私は本年二十三歲の者ですが、お恥かしきことには、この年になるまで涎が出て困ります。最も、子供のやうに、いつもだらだらとながれは致しませんが、人樣とおはなしをしてゐると、思はず流れ出てます。またお仕事などをしてゐると、つい涎がでまして、着物にしみがつくといふやうな事で、實に困つてしまひます。これは如何なるわけでせうか、療法伺ひたし。（九州の愛讀者）

（答）一度診察の上でなければ確答は出來ません。神經衰弱にかかると、胃が惡くなつて、唾液が多量に流出することがあります。とに角、鼻の醫士に檢査して御貰ひなさい。鼻で呼吸することが困難であれば、必ず鼻に故障があるのです。さうすると神經衰弱になり、胃を害し、涎が流出します。成るべく滋養物を適度に食し、良く運動をなし、精神を慰むるやうに、戶外散步などをして、全身の健康を回復すれば、涎は自然になほります。

（問）私事本年五十の坂を越えし者、毎年今頃になると、かけたる齒が痛みます。その衞生的用藥を承はりたし。（芝　光田）

（答）齲齒を治療せずにおくと、腐敗物の刺戟などで、時時痛みを起します。また氣候の變り目には、全身に變調を來しますから、齒も痛み出します。衞生的藥品と云ふ御注文ですが、素人に危險のない藥は、まづ硼酸水、重曹、ヨヂユーム丁幾ぐらゐのものです。硼酸は白色の粉末で、藥店で求められます。コツプ一杯の水へ硼酸三匙位を溶かして、含嗽をなさい。また齒の痛むとき、ヨヂユーム丁幾を少少筆の先か綿球につけて、齒の根の肉の上に塗りますと、痛みが止まります。しかし根本的に、齒科醫に治療してお貰ひなさるが肝要です。

（問）私事毎日ハミガキをつけてみがきますが、どうしても白くな

りません、白くする方法はありませんか。（本郷にて　元子）

（答）沃度丁幾を綿か筆の先で齒に塗り、管の先を楔形にけづつてはみがき粉をつけて擦つて御覽なさい。大抵白くなります。それで白くならぬのは齒の天然の色でありますから、致方はありません。淺草觀音樣や、所所の縁日で、齒を白くする藥と申して賣つて居るのは多くは鹽酸と云ふ酸を含んで居るから、白くなるが齒に大害を與へます。決して用ひてはなりません。

（問）齒をゆするとクラクラして齒根より白き濃が出ます。また十七歳の男にも、此通りにてかたい物を食ずるに困難の人あり、入齒するがよきか、このまま置いても差支なきや。（京都府下　婦人世界愛讀者）

（答）これは齒槽膿漏と申す病氣ですから、熟練の齒科醫に願ひ、直く治療してお貰ひなさい。素人療法では治りません。そのまま置くと齒が皆抜けます。なるべく全身の健康を増進するやうに勉め、口内を含嗽して清潔に保ち、一日數回食後、齒磨かな指頭につけて、齒齦を磨きなさい。

（問）私事ながらくむしばで困り居りましたが、此頃淋く痛みだけは去りました。しかし夜中に唾を呑み込みますと、臭くて心地悪しくなります。また朝、床をはなれますと、顔を洗ふまで、頻りに唾が出て其内に血もまじり、臭きこといはん方なし、療法なきや、またむしばの中へ、ゴムをつめては如何（千葉縣福田村婦人世界愛讀者）

（答）むしばを直く治療して、ゴムなり銀なりを充めてお貰ひなさい。さうすれば、胃の消化作用も直くなり唾の出るのも少くなります。血が交つて惡臭あるは、齒齦の爲めに齒肉が慢性齒齦炎と申す病氣にかかつて居るからです。一日五回即ち朝起きたる時と、三食の後と、夜寢につく前、必ずはみがき粉と毛楊子にて齒を掃除し、百倍の硼酸水で、口内及喉を御うがひなさい。夜寢る前に食物を召上ると胃が惡くなり、口内の液が臭くなります。

（問）私事十年以前に、はくさを病みましてから、齒が皆ぐらぐらして、何の痛みもありませぬが、うみが出ます。含嗽も致し沃度丁幾も齒齦につけますが、今に効能がありません。誰に見ぐるしくて困ります。上四枚の前齒を抜いて、入齒をしてもよいでせうか。（婦人世界愛讀者　赤芳）

（答）それは、まだ病なほらぬからである。直き齒科醫に見て御貰ひなさい。丁寧に治療すれば、なほらぬと云ふ事はありませぬ。前齒も自然に抜ける程ぐらぐらして、保存の見込がなければ抜いてもよいが、なるべく保存するが貰しい。

（問）子供の時よりはげしきむしばにて、大方はかけて根になつて居ります。その根のところ、なりなり豆の如くはれありがり、さして齒にはいたみなきも、はれし時は、頭すぢよりかたへかけ、筋ひきし心地して肩がこります。これは齒のためでせうか、伺ひたし。（千葉縣の不幸女）

（問）私事一昨年齲齒のため臼齒一本失ひましたが、今なほ臼齒に二ケ所の齲穴があります。何卒自宅にて其齲齒を取る法を教へて下さい。（伊豫愛讀女）

（答）むしばは、口内の掃除を忘るゝより起りますから、穴の出來たのは致し方がありません。齒科醫に填めて貰ひなさい。そして日日五回齒ぶらしにて清潔に保てば、自宅にて齲齒を取ると同じ事で、決して新しき齲齒は出來ません。

（問）一ケ月前に齲齒十本抜きましたが、いつ頃入齒をして好きやまた入齒をなすまでの摂生法伺ひたし。（新かた　なり子）

（答）一ケ月を經過しましたら、最早義齒を作製してもよいです。入齒を抜いたのち一年半位は、齒齦の下の骨が變化しますから、今作つても來年一度義齒を作り換へねばなりません。又義齒を作る前の摂生法は、日日食鹽水を指頭につけ、一日二三回づつ齒齦の上を輕くお撫りなさい。

（問）二十歳の女子、五六歳の頃、上齒に二ケ所八重齒が生へましたから、齒科醫にその下の齒を抜いてもらひました。その代りに、齒ぐきから大きな尖つた齒が出て、不揃で見苦しくて困ります。抜いてまた入齒をなすまでの

婦人衛生問答（締切毎月十日）

月經、姙娠、分娩、産孵及び子宮疾患に關して、質問せんと欲する方は、住所姓名を明記し

東京市京橋區南鍋町一丁目一番地角
産科婦人科　醫學士　伊庭　秀榮

氏へあて投書せらるる時は、同氏より直接回答せらるべし。また匿名の質問は、木欄にて回答せらるべし。但し匿名質問は、郵便葉書に限る。

記者識

一　月經未調

内山春子（十六歳）京都　京都娘（十五年四ヶ月）　兩孃より、月經未だなし。心配の事はなきかとの質問あり。是まで屢屢木欄に於て答へたる通り、月經は十二歳乃至十九才の間に始まるが普通ゆゑ、此年齢の間は、格別心配の必要なし。

二　少女の月經不順

常陸なでしこ、新潟一少女、神奈川愛讀者、札幌一少女、遠州秋野紅葉子、埼玉縣愛讀者、心配生、熊本市紅葉子、東北未婚女、の諸孃よりの質問は、何れも月經初潮以來不順にして、一乃至二三ヶ月、或は夫以上、月經がなかつたりあつたりするとの事にて、大同小異なれば、茲に一纏にして答へる事としたり。是も從來屢屢記述したる如く、月經の初潮後一年乃至二年間位は勿論、嚴しく云へば、婦人の身體、殊に生殖器は二十二歳位までは、發育未だ充分ならぬもの故、其人人の體質によりて、月經のあつたり止んだりするは、怪しむに足らず。從つて少しも心配するの要なきことあり。多くは發育完成の曉には、自然月經も正順となるものなり。▲併し又誰にても其通りと云ふ譯に非ず。已に十七歳にして、發育充分なるか若くは完成に近く、しかも何等か病的の爲に其月經不順の事あり。さらば其病的の爲に月經の不順なると、發育未だ充分ならぬ爲に、月經不順なるとは、如何にして知るかと云ふに、是は到底一片の質問書にては、知るべき樣なし。ただ親しく診察することに由つて判定し得るなり。▲そこで、此診察を受くるに就ての標準は如何と云ふに先づ少なくも半年乃至一年近くも、月經なき場合には、將來發育の見込なきか、又は何等か病氣の爲と見做して、專門家の診察を受くること最も必要なりとす。諸孃の内にも、已に診察を受けねばならぬ場合に遭遇し居る方あり。宜しく速かに診察を受けられたし。●又中には、月經不順なるに反して、白帶下常に甚しとの訴ありしが、未婚者に在つては、自分で洗滌するが如き事は、却つて危險を伴ふ恐あり。故に苦痛を感ずる程ならば、專門家の診察に托する方安全にして確實なり。

三　無月經と結婚（岩代　みよ子）

十八歳にして未だ月經なし。胃腸の弱き爲か、發育十分ならず、目下結婚談あり。結婚しても差支なきや。

答　此質問は、事稍や重大にして、よし親しく診察したる上なりとても、確答の出來ぬ事あり。ましてや一片の質問書に對しては、大に回答に苦しむ。兎に角一應專門家の診察を受けらるる方よろしからん。

四　月經不順（津の國二十四歳の女　大阪今橋筋松榮女　大阪船場若き妻）

月經とかく不順勝にて去る七月以來閉止。頭痛常に烈し。子宮内膜炎との診斷を受けたり。自宅療法幷に溫泉場承りたし。

答　此質問者は、三樣の假名なれども、多分同一の方と思ひ、其内の一書だけ掲載したり。已に專門家の診察を受けられたる事なれば、續いて其治療を受けらるる事必要なり。決して自宅療法乃至溫泉などに、心を迷はさぬ樣にせられたし。

五　月經不順（福島　愛讀者）

身體に異常なきも、毎月經甚しく不順にして、婦人妙藥を用ふるも効なし。如何にせばよきや。又右樣の者は、子なしとの事なるが、事實なりや。

答　年齢、結婚の有無、月經不順の狀況等明記なき故、甚だ漠然たるものにて答へ樣もなきが、兎に角婦人妙藥などは、

如何なる場合にも、何等の効なきは、勿論のことにて、斯樣なるものを用ふるは愚の極なり。然らば如何にせばよきやと云ふに、速かに專門家の診療をうくる事こそ、唯一の良法なれ。又月經不順なりとも、姙娠の出來ぬことはなし。之も治療に由つて、一層姙娠の見込ある樣になるべし。

六　月經不順（紀伊 S K）　三十五歳の痩氣味の女、十八歳に初潮、二十歳までは年に三四回、二十歳結婚後月經閉止、一昨年八月子宮後屈兼內膜炎にて手術をうけ全治、以後壯健、昨年七月に、十四年ぶりに一日經行あり、其後またなし。何とか經行のある樣の養生法を示されたし。主治醫は目下子宮に故障なしと云ふ。

答　無論自ら診察せぬ事故、確答は出來ぬが、多分子宮の發育の不良か、又は子宮の萎縮し居る爲かと思ふ。併し目下子宮に故障なしとの主治醫の言もあれば、或は卵巢の發育に故障あるか。兎に角希望甚だ少なき樣思はるるが、一應大阪の婦人科專門の大家に就て、診察を請はれたし。▲養生法としては、毎日朝夕一回づつ稍や熱き食鹽湯若くば只の湯にて膣洗滌を行ひ、便通をよくし、滋養物を食し、運動を良くする等なり。

七　月經早まる（越後心配女）　一昨年八月頃より正順に經行あり　但し毎月一週位づつ遲れる方なりしが、結婚後昨年六月頃よりは、一乃至二三日づつ早まり、且つ早く起る時は、其前月より少量なり、打捨て置きて差支なきや。

答　他に異常なければ、少しも差支なし。

八　月經異常（佐世保二十一歳心配女）　四月（昨年）結婚後四五ヶ月にして、下腹非常に肥滿し、一見姙娠の如く、乳房稍や太れり。十一月來月經平常の如く四五日ありて、其後止みては發し、發してはやみ、斯くすること四五日にして終る。放置して差支なきや。

答　診れば解らぬが、或は內膜炎の初期かも知れず、一應診察を受けらるる方安全ならん。

九　產後の無月經　▲（神田心配女）　廿一歳の者、一昨年八月男子分娩、產後の肥立もよく、身體強健なるに、今以て月經なし。何故なりや。又放置して差支なきや。

▲（北海道愛讀女）　昨年八月分娩後、今に至るも月經なし。差支なきや。但し身體には少しも故障なし。

▲（日本橋若き母）　二十一歳の女、昨年六月初旬初產、八月中旬に一週間ほど經行ありて、其後今日までなし。姙娠の模樣もなく、身體に異常なし。別に差支なきや。又通經劑には、何が一番効能ありや。授乳中、通經劑を服用しても、小兒に害なきや。

答　是も再再答へたる通り、產後多くは八九ヶ月乃至一年間位月經のなきが普通なり。此時期は、一方には授乳の爲め、又一方には婦人生殖器の靜養の爲に、月經なきが自然の賜なり。故に先づ一ヶ年位は、月經なくとも、少しも心配の事なし。併し一年以上も月經のなき時は、時として何等か故障のあることあり。殊に授乳萎縮と云つて、子宮が縮小し過ぎて、其用をなさぬ樣になる事あり。故に一年以上も月經なき時は、早速診察を受くること肝要なり。▲通經劑などは、新聞廣告にあるが如き、効能のあるものは、一つもなし。物によつては、寧ろ危險なり。殊に下劑を含むもの多き故小兒の方にも甚だ危險なり、決して迷はぬこそ安全なれ。

十　腹膜炎と月經（埼玉心配女）　十八歳の者、未だ月經なし。昨年五月頃より腹膜炎にかかり、同十一月全快す。十二月の本欄（八）の答に、腹膜炎に罹りし者は、姙娠の出來ぬ樣になるもの多しとの事なるが、手術をうけても、一生月經なきものにや。私のは切開手術を受けたるに非ず、肝油を服用せり。目下尙ほ服用して差支なきや。（十二月投書）

答　昨年十二月の本欄（八）にも答へたる通り、結核性腹膜炎なりしとすれば、學說上、又小生の自ら行へる多數の開腹手術に基ける實驗に由つても、卵巢喇叭管が共に犯されて、結核性炎症を起す場合多し。此場合には、一生月經もなく、從つて姙娠も出來ぬ樣になること多し。之は手術の有無に係はらず、次に肝油服用は、胃の障害を起さぬ限り、服用差支なし。

十一　開腹術後の無月經（日向愛讀者）　二十歳の未婚者、腹部に塊ありし爲、七月五日大阪にて腹部切開手術を受けしに、其翌月より今に至るまで月經なし。差支なきや、心配に堪へず。但し手術前も月經は、甚だ稀なりし。

答　手術時の狀況不明ゆゑ、何とも答へ難きが、若し左右卵巢に塊が出來居りて、兩方共手術せしならば、今後一生月經はなかるべし。其邊のことは、手術したる醫師に就て、詳しく御尋の方よろしかるべし。

十二　結婚後の無月經（白藥子）　以前も一乃至二ヶ月を隔てて經行ありしが、結婚の翌月より、月經閉止已に四ヶ月。打捨て置きてもよきや。又は姙娠なりや。中將湯は効ありや。

答　姙娠なるか、又は他に故障ある爲の月經閉止なるか、回答に苦しむ。專門家の診察に由つて解決されたし。中將湯は何等の効なし。

十三　月經と乳房痛（冬枯れ女）　毎月經十日ほど前より乳房內にシコリ出來て非常に痛む。殊に朝起きた時分には、一寸手が觸れても痛みを覺ゆ。夫が爲か少しく熱發もあり。右は如何なる譯か。

答　是も一種の月經困難にして、無論子宮と連關するもの故、一應專門家の診察を受くる必要あり。

十四　月經痛（愛讀一婦人）

二十三歳の者、十八歳の時結婚、未だ一子なし。平常白帶下あり、殊に月經前多量。時時下腹痛あり、殊に昨春頃より、月經時に下腹痛甚だしくあり。何の爲なりや。●腹部及び足の冷えるに、中將湯は効ありや、或は他に良法ありや。●子宮の位置變狀は、早く治療せざれば、不治となるか。●子のなき爲、貰人より不具と云はれ、誠に殘念なり。專門家の診察を受けたきも、早急には行かず、如何にせばよきや。

答　無論子宮に故障ある爲なれば、早く醫療を受くること必要なり。中將湯など、決して効なし。迷ひ給ふ事なく、早く治療すれば、子供のなき原因もわかり、月經痛も治まり、或は姙娠し得る機に至るべし。

十五　月經痛と姙娠（磐城の愛讀女）

毎月經時、下腹非常に痛み、常に白帶下甚し。かくの如き身體にても、姙娠し得るや。又神經衰弱の男子と結婚して、姙娠すべきや。

答　必ずしも姙娠せぬとは云ひ難きも、かくの如く子宮の病氣ある時は、先づ姙娠し難きものなり。但し早く醫療に托せば、病氣も治癒し、從つて姙娠し得るに至るべし。神經衰弱も、不姙の原因にはあらぬも、神經衰弱の爲に、生殖力も衰弱し居らばやはり姙娠覺束なし。

十六　姙娠に差支なきか（越の一女子）

三回目の流産以後、乳房非常に小さくなれり。姙娠に差支なきや。

答　他に病氣なく、子宮に故障もなく、貰人も無病ならば、姙娠し得べく、又流産も免がれ得べし。乳房は姙娠すれば、大きくなるもの故、差支なからん。

十七　喇叭管炎と姙娠（葛飾愛讀者）

昨年七月喇叭管炎に罹り、三ヶ月にして全治せり。されど病後一度も經行なし。如何なる爲なりや。又姙娠し得るか。

答　喇叭管炎は、常に同時に病氣するもの、又喇叭管炎は、多くは卵巢炎並に子宮炎を伴ふ。治癒後と雖も、何等か生殖器に纖狀を貽すこと多し。なほ一應專門家の診察を受けて其邊の鑑定を乞ふべし。それに由つて月經のなき原因も知れ、且つ姙娠の見込の有無も、明瞭となるべし。ただ此頃間書のみにては無益の想像ばかりゆゑ、確答し難し。

十八　卵巢囊腫と姙娠（筑波愛讀女）

二十一歳の時、卵巢囊腫の爲、腹部を開創を受け、其後四年間、毎月經行あり。但し其時には、下腹より腋に亘りて痛みあり。此手術を受けたものに、子供ありや否や。

十九　禽獸魚肉と胎兒（東北の一女へ）

二十世紀の今日、なほ、斯樣な村落があると云ふ事が、われら都人には興ある故、茲に御答す。姙娠は鳥や牛や魚の肉を食しても、決して胎兒が鳥や牛や魚に化することはなし。貴村金盥に、此文を示して、疑を解かれたし。

答　月經毎月あり以上は、一方の卵巢の存在すること、少なくも其一部分存在し居ること必然なり。存在し居るとすれば、姙娠の見込なき事はなし。併しその卵巢又は子宮が、無病なりやは、診察の上ならては知り難し。

二十　畸形兒（相模御願女へ）

姙娠中肉類を食しても、夫にあやかる樣な事なきは、前に述べた通り。又平素畸形兒を生みはせぬかと心配したりとて、必ずしも畸形兒を生むものに非ず。とにかく平素左樣な心配をするは、甚愚の至なり。畸形兒などは、極めて少なきもの故、安心あるやう祈る。

二十一　姙娠日數（四村）

胎兒は母の胎内に、幾日ならぬ居る故、一概に云ひ難き故、玆に確答はしがたし。

答　姙娠日數は、平均二百八十日としてはあれど、それより三四十日早くとも、また遲くとも、その生兒の發育だに完全ならば、所謂成熟兒にて、無事に育つものなり。指折り數へ日數が、たとひ三百日であつても、其生兒の發育甚しき時は、成熟兒とは云へず從つて無事に育つことはむつかしきものなり。

二十二　子宮後屈と姙娠（道後公園黄色櫻女）

四五年前、先天的子宮後屈の爲、手術を受け全治し、三年前一男子を出生、昨年二月診察を受けたるに、又後屈症なりとの診斷なり。此儘にして害はなきか、又姙娠せぬものか。

答　其狀況乃至程度により、色色差異あれば、一概には云ひ難き故、玆に確答はしがたし。併し其程度に由つては、何等の故障なく、又姙娠し得ることも少なからず。貴女のは、診察し呉れたる醫師に、直接質問さるる方確實ならん。

二十三　姙娠となほづ（中京廿五歳女）

一昨年十一月女子分娩、姙娠中顏にナマヅの如きもの出來、まだ治せず。外見よろしからず。何か療法なきや。

答　姙娠の時は、全身の血液多少の變化を起す爲、乳首や腹の中線等に褐色斑を生ずることあり。併しそれらは、殊に額に褐色の斑點を生ずること多し。夫と同樣、人に由つては顏、殊に額に之れ普通產後には、自然消失するものなれども、已に一年餘少しも褪色せぬは、皮膚病專門家の診療を請ふ必要あり。

二十四　姙娠ならん

御質問の樣子

富士山麓葦女及び愛知富美子へ

は、御姙娠ならん。

二十五　小さき子宮と姙娠（ちどり）　子宮小さき者は姙娠し難しとの事なるが、之を姙娠し易くする方法はなきや、又姙娠しても美事分娩し得るか。

答　子宮がただ小さいと云ふのみにては、一向に解らず。發育不良の爲に小さきならば、先づ姙娠は覺束なし、併し單に子宮が普通より少し小さいと云ふ位ならば、姙娠せぬ事はなし。分娩の難易は、一診の上ならでは知り難し。

二十六　産蓐熱と姙娠（岩代若松愛讀妹）　明治三十六年一月結婚し、翌年三月一男子分娩、二三日の後産蓐熱に冒され、六ヶ月程にて全快、其後健康にして月經も順潮、今に姙娠せず。右は産蓐熱の爲に不姙となりたるものにや。

答　一應專門家の診察を受けられたし。隨分産蓐熱の爲に、大なる生殖器の變狀を貽し、爲に不姙となることあり。しばしば述べたることのある、所謂一子不姙症を起す事少なからず。

二十七　産後の脫毛（愛讀者へ）　産後毛のぬけるは、何とも致方なし。無論身體の營養にも關係すること故、其邊の注意必要ならん。

二十八　不姙　丹後加悅谷子欲孃、兵庫の心痛女、前橋二十三歳女へ　不姙の方は、御夫婦の何れかに、何等かの異狀ある爲故、一身一家の爲、早く專門家の診療を受けらるべし。片の質問書にては、何等の御答も致難し。

二十九　早婚と不姙（富山愛讀者）　十五歳の春結婚、十六歳に初經あり、十八歳の九月より月經正順、十九歳の今日まで姙娠せず。子宮內膜炎の爲か。

答　子宮內膜炎ありや否や、一診せざれば解らず。兎に角早婚はよく不姙の原因となる事あり。一應專門家の診察を受けらるべし。

三十　白帶下と結婚　水戸時子及び主高十六女へ　白帶下の少し位あるは、結婚しても差支更になし。

三十一　內膜炎　加賀二十一歳の心配女へ　內膜炎さへ全治せば姙娠の見込あり

三十二　內膜炎　陸奧心配女へ　手術を受けたる醫師の治療を繼續せば全治に至るべし。

三十三　子宮　不幸續々生へ　御質問の通り、膣の奧に小さき五分ばかり突出したるものは、子宮に相違なし。御文面だけにては、格別異狀とは認めず。御心配に及ばずと思ふ。

三十四　乳汁增量法（田舍の賤女）　二十一歳、産後一週間は、少量の出乳ありしが、漸次薄くなり、遂に七十日の今日、全く絶えて、生兒大に衰へたり。何卒多量の乳汁を得る方法教示を乞ふ。

答　御質問の樣な場合には、最早乳汁の分泌を增す方法はなし。早く牛乳又は乳母を以て、生兒の營養を良くすること必要。

三十五　子宮疾患か（小女心配女）　十六歳の女、結婚後二ヶ月にして、腹部はり且つ横の方ひきつけ、また便所へ度度かよふが、子宮に故障ある爲か。また姙娠し難きや。

答　多分子宮に病氣のある爲と思ふ。診療を受くること必要なり。病氣全治せば姙娠せぬ事はなからん。

三十六　血便（埼玉伺女）　昨年十一月中旬より、大便に血液混じて出て、下腹はる。子宮病の爲なりや。

答　質問文餘り簡にして了解し難きも、右は腸の病氣か、又は痔疾か、兎に角一應內科又は外科專門家の診察を受くること必要なり。

三十七　下腹痛（常陸筑波乙女）　寒氣に遇へば、下腹部はり、強く壓すれば疼痛あり。また步行すれば、下腹痛む。何の爲なりや。

答　腸の爲か又は子宮の爲か。診察を受ければ、すぐ解る。

三十八　腰部の冷え　下野の心配女へ　他に何等の異常なく、ただ腰の冷えるは、股引を用ひ、且つ腰部を懷爐又は其他のものにて、溫めるより外に仕方なし。

三十九　子宮屈曲と子宮萎縮　とき子へ　子宮屈曲と子宮萎縮とは、全く別なり。またその相違の容態に現はるる點は、說明したりとも、一寸解るものに非ず。但し屈曲は、子宮が前方又は後方に曲り居ると云ふ事、萎縮とは、子宮が全體に小さくなり居ると云ふ事なり。次に內膜炎の手術は、外來にては出來ず。治療日數は、病氣の輕重に由つて一樣ならず。輕きは一ヶ月位にして全治するも、場合に由つては、手術しても半年以上を要することあり。

四十　血族結婚（田舍娘）　妾は從兄妹結婚なり。また良人の兩親も血族結婚にして、現に本年八歳の發育不良にして未だ步行も出來ぬ女兒あり。親子とも血族結婚なれば、より多く害ありや。また妾の母と、良人の父とは腹違の姉弟なり。害は同じきや。

答　しばしば記述したる通り、血族結婚は、ただ不良の結果多きに、二重の血族結婚は、更に不良なり。同腹異腹、五十

歩百歩の相違のみ。

四十一　上毛新菊氏へ

再再の投書沒書となりし爲、今回もまた沒書とならば、本誌の購讀をやめるとの御立腹。多くの質問書ゆゑ、一一記臆し難きも、何れも無意味に沒書とするには非ず。多くは本誌に記載し難きもの及び專門外のもの、其他知れきつた事や、再再本誌に答へた事等は、多く沒書にする考なり。▲さて今回御質問の姙娠中及び産後の食物はしばしば記述する如く、何れにても差支なし。言葉を換へて云へば、之が惡いと云ふものなし。ただ飽食さへせれば、何にても差支はなし。また姙娠中の讀物は、ただ餘り悲しくなる樣な小說類の外は、何にても差支なし。次に胎兒及び生兒のきめを良くする食物との質問は小生も未だ考へ及ばず。

四十二　姙娠時期と分娩時期計算法

▲不審女　姙娠は、月經（あるべき筈にて、しかもなかりし所の）前との事なるに今姙娠の何ケ月なるかを數ふるは、最終月經より數ふるとの事なるが、如何なる譯なりや。たとへば、十二月中旬に月經ありて、翌一月より月經なく、即ち姙娠したりとすれば、之は一月に姙娠せしものなるに、十二月より數ふるは、如何なる理由なりや。（十二月二十日）

▲攝津田尻田舍女　本年十九歳の者、八月二十日より月經あり、その翌九月十一日結婚せしも、良人は結婚後三日在宅、務の都合にて遠方へ行きしため別れたり、其後月經なく大阪にて診察を受けしに、姙娠なりと云ふ、今分娩期を算定するに、最終月經の八月二十日へ、九ケ月と七日を加へて宜しきや、又は結婚したる九月十一日に、九ケ月と七日を加へて宜しきや。次に神經衰弱と腦病とは、同一の病氣なりや。神經衰弱全治せずとも、分娩後母乳を呑ませてもよきや。（十二月二十一日）

答

▲受胎時期に就ては、昨秋來直接質問夥しかりしが、當時多忙の爲、本號に再記する旨、質問者に約束し置きたり、然るに恰もよし、前記兩氏の質問ありしかば、併せて茲に解答する事となしたり。

▲此事は元來、一昨年十二月の本誌に「姙娠の生理と病理第二」と題して、詳細記述したるものにて、またここに記載することは、徒らに貴重の紙面を費す恐あれども、本誌の發展と共に、新讀者の增加に從ひ、前述の如く、此點に就ての質問續續あるを以て、是等諸姉の爲に、再記するの止むなきに至れり、讀者幸に諒せられよ。

▲月經と排卵との關係　本誌初刊以來、しばしば記述したる通り多少の破格はあれ共、月經と排卵とは、多くの場合に於て密接の關係あり。即ち卵が卵巣より排出して、併も姙娠せぬ時は、その排卵の日より兩三日を經て、月經現はるるものにして、月經は、排卵機能の附屬作用なり。

▲故に月經は、卵が卵巣より排出されたる事を證據だてるものにして、また同時に、月經は、姙娠の機會を逸したる證據、即ち平たく云へば、月經の現はれたるは、姙娠せざりし證據なり。故に或る學者は、月經は、姙娠せざる卵の流産なりとさへ云ひたる程なり。即ち毎月月經のあるは、毎月流産して居る譯なり。

▲それゆゑ、古來云ひ傳ふる所の、月經後に姙娠すると云ふことは全然不可能にして、姙娠は、必ず排卵の直後、又は排卵後兩三日の間ならざる可らずと云へる學說は、全く正當なるものと云はざる可らず。今若し排卵の直ぐ後、若くは排卵後兩三日の內に、この卵が受胎姙孕すれば、續いて起るべき月經は、起らずして止むなり。元來月經は、姙娠には何等の關係なきものなれども、若し強いて月經と云ふ文字を用ゐたければ、「あるべき筈にして、併もなかつた月經前に姙娠する」と云ひ得るなり。

▲なほ解り易く說明せんには、第二の質問者攝津田尻田舍女の場合を借り來れば、事理甚だ明亮ならん。即ち同女は、昨年の八月二十日より最終月經あり、その翌九月十一日結婚、三日間良人と共にありしのみ。この場合には、八月二十日の少し前に排卵せる卵は、その月經に由つて、姙娠せずして、經血と共に體外に流出せるなり。而して九月十一日より三日間の內に、子宮內に入りたる精蟲は、九月の二十日前後に排卵せし卵を待受けて、之と結合して姙娠したり爲に九月以來月經は閉止せるなり。即ち同女は九月二十日前後に姙娠の身となれる譯なり。故にまた精蟲射入の時期と、姙娠の時期とは、決して同日にあるものにあらぬことも、之に由つて明白なり。

▲然らば姙娠月數若くば分娩時期の算定法は如何と云ふに、從來最終月經は甚だ有意味のものと思はれ居りしが、前述の如く、最終月經は、その時の卵の姙娠せざりし證據にて、その翌月の排卵期の卵が姙娠せしものとすれば、最終月經なるものは、今日にては甚だ無意味のものとなれり。併し今日にては、已に最終月經なるものは全く無意味なるにも係らず、古來のしきたりに由つて、分娩時期を算するには、やはり最終月經の日を標準とし、之に九ケ月と七日を加へるか、又は最終月經の月より三ケ月を減じ、七日を加ふることになり居れり。併しまたそれと同樣なれども、他の算出法としては、最終月經の翌月より、指折り數へて九ケ月目が臨月と算出する法もあり。同じ事なれ共、この算出法の方が、誤解を來さぬかと思ふ。但し九ケ月目と數へるは、太陽曆なれども、姙娠の一ケ月は、二十八日、即ち四週なることに注意ありたし。

●神經衰弱と腦病とは、類似する點もあれ共、別物なり。神經衰弱の程度に由つては、授乳せざる方よし。とにかく其時に臨んで、醫の診察を受くる方安全なり。

◎懸賞募集

▲短文（百五十字以内）
▲和歌（一人一首）
▲俳句（一人一句）
▲習字（半紙タテ五寸五分ヨコ三寸三分）
▲家庭笑話　▲家庭の重寶
▲文字合せ　▲感心せる和歌
▲繪探し　▲寫眞
▲婦人頓智談（用紙は隨意）

△應募者は婦人に限る
△用紙は習字と頓智談の外總てハガキのこと
△一枚のハガキに二種を並記せざること
△ハガキには必ず題と住所姓名を記入しおくこと
△名宛は『實業之日本社内婦人世界編輯局』とすること

◎賞

△短文、和歌、俳句、習字　●一等貳圓●二等壹圓●三等日本少年六月分
△家庭笑話、感心なる和歌、文字合せ、家庭の重寶、頓智談　●一等壹圓●貳等五十錢●三等日本少年三月分

婦人世界定價　毎月一回一日發行

冊數	定價	郵税	合計
一冊	金拾五錢	壹錢五厘	拾六錢五厘
六冊（半年分）	前金八拾壹錢	九錢	九拾錢
十二冊（一年分）	前金壹圓五拾七錢	拾八錢	壹圓七拾五錢

摘要
●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず『盡』の一字を朱にて帶封に認むべし直に送金なき時は發送を停止す●外國郵税は一冊六錢の事●賣捌店にて品切れの節は直接本社へ御注文あるべし●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割増の事

明治四十一年二月一日發行
定價拾五錢（郵税一錢五厘）
發行兼編輯人　増田義一
印刷人　高信孝次
印刷所　東京京橋區南紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍
東京市京橋區南紺屋町十二番地　實業之日本社
事務用　電話新橋八七四番
編輯用　電話新橋四二九六番
郵便振替貯金口座參貳六

不許轉載

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

他に比類なき珍衣裳を着て生れたる少女雜誌

少女の友

二月十一日發行　第一號　毎月一回十日發行　一冊十錢　郵税一錢　六冊郵税共六十錢　十二冊一圓十六錢

斯くの如く實際的にして趣味ある少女雜誌ありや！
少女の師として全國に比類なき村井弦齋氏が！
本誌に助勢せらるるを見て其眞價を知られよ！

お伽噺
▲姉様……水野うら子
▲光ちやんの人形……高信　峽水
▲ルビーの繪具皿……竹久たまき

◎優しき少女が友達を善人に化したる話……村井　弦齋
▲笑ひ話
▲ゑとぎ
▲二月の歌

口繪
▲紀元節（彩色石版）
▲名家の少女（光澤寫眞）
其他寫眞版數葉

◎大懸賞附美麗彩色繪端書……賞品數百點

理科談
▲花の匂……理學博士　三宅　驥一
▲アナグマ……波多野烏峰
▲子煩惱の動物……星野　水裏
▲啼き聲のお稽古……白桃生

▲珍らしき あみ物
▲愛らしき 小品文
▲面白き もの語
▲募集 作文和歌俳句通信

斯くの如く面白く且つ爲になる少女雜誌ありや！

東京京橋南紺屋町　電話新八七四　實業之日本社　振替貯金口座參貳六番　賣捌全國各地書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

繪ばなし

子供を愛する者は本誌を見よ

二月　第二號　毎月一回發行　一發行日　五卷　毎月一回五日發行　一定價一冊六錢　郵稅五厘　半年分稅三錢　一年分稅八錢　二年共十錢　郵稅三厘　同年十七錢

▲繪ばなしは賢明なる教師なり

本號の畫題
◎イロハ歴史がるた◎樂しき梅見…
◎雪降る日の遊び◎魚のいろいろ…
◎氷すべり◎勇ましい雪中の通學…

▲繪ばなしは愛らしき子供の友達なり

本號の内容
◎紀元節の唱歌◎面白き繪さがし…
◎愉快なるお伽ばなし◎ポンチ繪…
◎ハメ繪彩色◎二月の面白きこと…

▲繪ばなしは慈愛深き兩親なり

發行所　東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　郵便振替貯金口座參六貳番　賣捌全國書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

本誌には一行も無駄な記事なし

日本少年

一冊十錢郵稅一錢　六冊郵稅共六十錢　十二冊郵稅共一圓十六錢

二月一日發行　第二號　三卷　毎月一回發行

◎珍奇なる寫眞、美麗なる彩色繪皆見るべし
△日本の海軍　△家鴨の啼き聲をする鳥
△孔雀の慢　△頭の禿げた鷲
△動物の競走
△象の遠征

悉く面白く悉く有益皆讀むべし

◎日本の國號……一記者
◎雪の夜がたり……沖野かもめ
◎世界の騎兵……谷洗馬
◎人形のたましひ……三島霜川
◎一寸法師の國……和田徹夫
◎火星世界はどんな處か……樋口二葉
◎雪中に花を咲く植物……田中貢一
◎地中の蟲と水中の蟲……高橋獎
◎公園の石碑……石塚月亭
◎學藝談叢……石黒鐵面
◎探險奇談　バネ仕掛大蛇を生捕る記……長谷部湘雨補　柏月松浪作　高山萬里
◎風船紙鳶の拵へ方……ケヲゲィー
△幼兒を救ひし少年、後には米國大統領ワシントン氏……永田兵淵
△荒物を賣り歩きし少年、今は日本一の洋反物商小畑牛耳
△生徒の模範として表彰せられたる高等四年生……一記者
△記者談話會△話の種△作文△和歌△俳句△通信△ポンチ繪△其他
△十四歳の少年輕氣球を製造して自ら試運轉をなす……一記者
△米國の一少年より日本少年諸君へ郵便繪端書……一記者
△世界最大の鳩の家……一記者
△米國少年の氷滑り……岩橋鎭雄

懸賞　五百圓を讀者に分ける　珍附錄　賞品發見法發表

△新案懸賞　△習字懸賞　足し繪答案募集　清書募集

發行所　東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　郵便振替貯金口座參六貳番　賣捌全國書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

一回にても本誌を見落す者は時勢に後る

最大活力

實業之日本

部數第一

二月一日 發行 第拾壹卷 第參號 (月二回 一日十五日) 一冊郵税共拾貳錢 十二冊前金壹圓五錢

◎實業之日本を讀みて感奮せる在米の一青年……岩橋鎭雄

◎實業を無視せる財政策(錦輝館にて熱血を披瀝せる演說)……增田義一

◎我國機械工業の大勝利(芝浦製作所の大發展)……

◎常識修養良法……法學博士 戸水寬人

◎南米移民契約成る……

◎森永商店急速繁榮秘訣……

◎モルガン氏の精力修養法……

◎余は何故採用されざりしか……

◎余が米國に於て最も感ぜし顧客を滿足せしむる待遇法……新歸朝者 岩橋鎭雄

◎斯の如き言葉遣ひは必ず失敗す……白露

▲第一號珍附錄 千圓懸賞當選を知る法(本號に)發表

◎余の見たる古河銅山翁の事業的人物(翁とは四十年間の親友木村長七)

◎余が逆境中に得たる一大福音……(某少壯實業家の實驗的述懷談)

◎余が卅年間の失敗の回顧……

◎廣部清兵衛氏店員時代の大奮鬪……

◎頭の形にて性質判斷法……

◎安田善三郎氏の人物……岳淵生

◎孝心に出でたる新發明……

◎余は何故彼を拔擢せしか(牟田口)

◎偉人の敎訓書簡……ブライアン

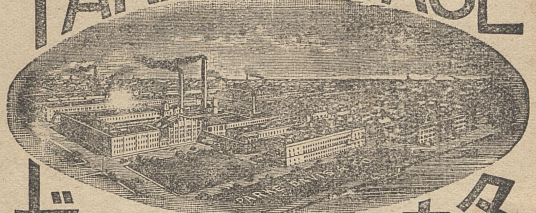
◎如何にすれば肥え如何にすれば瘦せるか……ドクトル 鈴木主計

▲人を益し世を益し己れを益する新案懸賞募集社告

東京京橋南紺屋町 電話新橋八七四番 實業之日本社 振替貯金口座參貳六番 賣捌全國各地書店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彥！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

（婦人世界第參卷第貳號）（明治四拾壹年二月一日發行）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



婦人良藥 中將湯

◉健康なる婦人は中將湯の服用より來る！

◉中將湯は子宮病血の道より起る左の諸症は如何なる難症も必ず全治す

- 子宮病
- 血の道
- 胸先差込
- 下腹痛み
- 白血赤血
- 難產流產
- 氣ふさぎ
- 痛高ぶり
- 月經不順
- 產前產後
- 逆上頭痛
- 腰足冷込
- こしけ
- 月經滯り
- 月經痛み
- 息切れ動氣

◉本舖へ申込の方は病人の容體を詳しく申込あれ

定價	
一日分	二錢
四日分	三十五錢
一週間分	六十錢
二週間分	壹圓十錢
三週間分	壹圓六十錢
五週間分	貳圓五十錢

本舖

東京日本橋通四丁目
振替口座一六八〇番
大阪堺筋大寶寺町
振替口座三一六二番

津村順天堂本店
津村順天堂支店

（明治卅八年十二月卅日第三種郵便物認可）（毎月一回一日發行）

東京秀英舍印刷